三省堂編輯所編

最近産業地理通説

（新訂版）

東京・三省堂・大阪

教科書文庫
4
290
44-1934
2000043498

42902
教科書文庫
4
290
44-1934
20000
43498

資料室

昭和九年十一月二十日
文部省檢定濟
實業學校地理科用

教科書文庫
4
290
44-1934
2000043498

375.9
S214

三省堂編輯所編

最近産業地理通説

(新訂版)

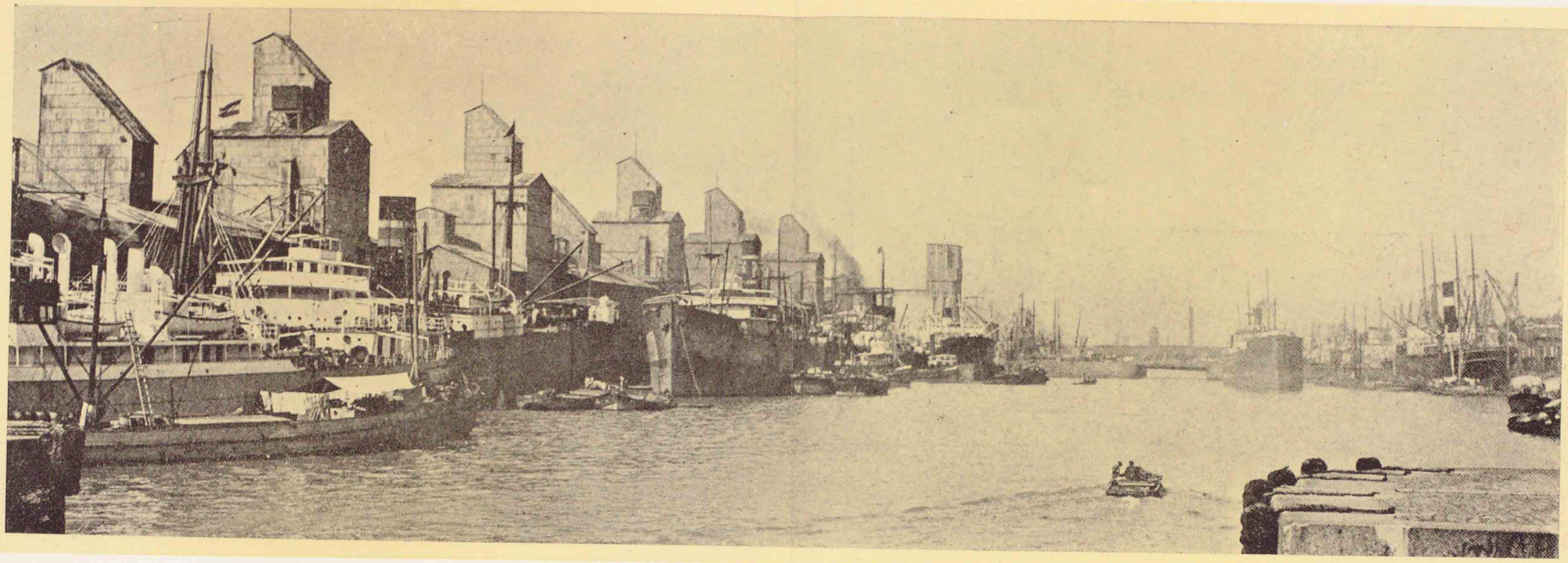
東京・三省堂・大阪

ブエノスアイレスは、農牧地として比類稀なる天惠に浴せるアルゼンチンの首府で、ラプラタ河灣に臨み、此處から射出せる無數の鐵道と、歐米等と結ぶ數多の航路とにより、農產物・畜產物の集散が極めて盛大である。畫に示したのは、河岸に並ぶ穀物貯積庫の光景で、南米最大の商業都市たる面目が現れてゐる。

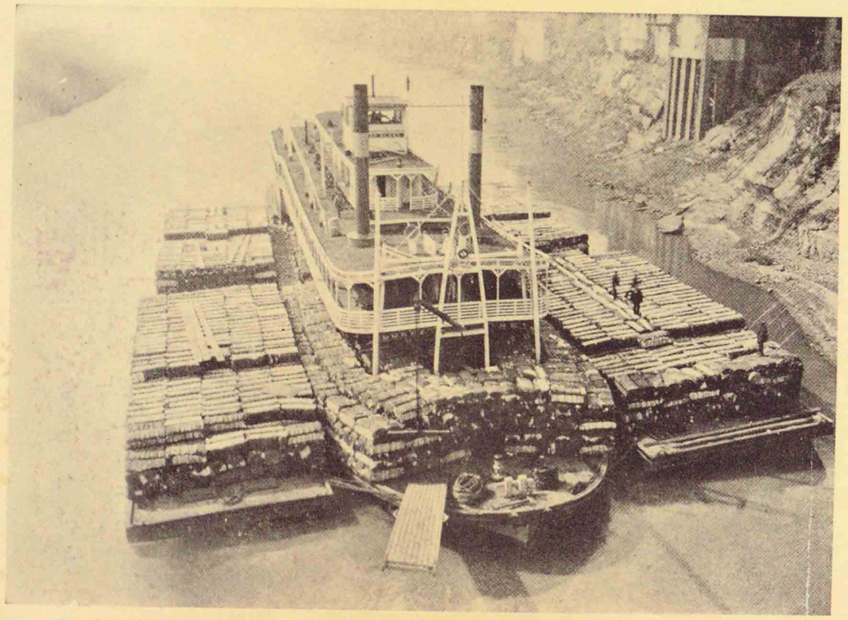
廣島大學圖書之印

廣島大学 教 43498 図書

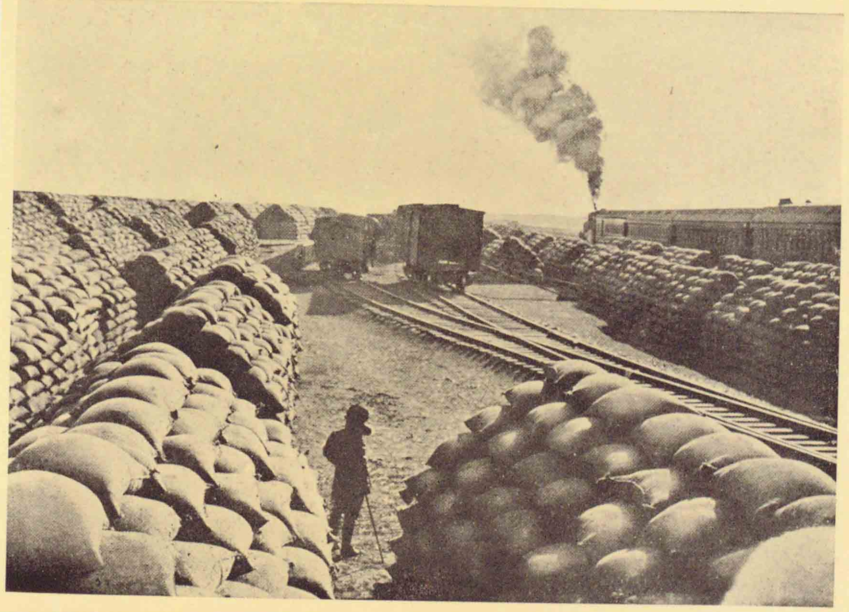
広島大学図書 2000043498



ブエノスアイレスの埠頭



米國に於ける綿の輸送



滿洲國に於ける大豆の積出

大豆は滿洲國最大の農產物で、世界全產の約六十%を產し、國際商品として廣く歐米にも輸出され、滿洲を大豆の國と呼ばしめるに至つた。畫はその出盛り時期に於ける積出の壯觀。

米國の綿產額は世界全產の二分の一に近く、その約二分の一を輸出する。畫はアラバマ河を流下し、河口に近いモビル港に至る輸送船の光景で、この船積量は約三千包に達し、恰も綿包の山が浮ぶ觀を呈してゐる。

辯言

本書は實業學校の教科用書とする爲に、最近の事實に基いて編纂したもので、「最近產業日本地理」及び「最近產業世界地理」と連絡し、相待つて地理教授の本旨を達成することに努めた。

本書の編纂に當つて、特に意を用ひた點は、大要次の通りである。

一、旣に修得した內外地理の知識を一括し、之を統合して應用的知識たらしめるやうに努めた。

一、自然地理は、直接に產業の基礎たるべき重要事項のみに留め、他を省略して力を人文方面に用ひた。

一、世界住民の經濟生活を概括し、敢て內外の差別は設けないが、世界を對象として自國の地位を明ならしめる爲、我が國に就いては槪ね各項末にその大要を附記した。

一、地理教授の中でも、殊に通說は文字で讀ましめるよりも、圖表で示す方が理解し易い場合が多いから、挿圖畫の數を豐當にし、又必要の場合には別圖を挿入して理解に便ならしめた。

一、統計は成るべく最近の數を採り、尺度はメートル法を原則としたが、航路は一般の慣用に從って浬を用ひた。

本書は內容に大改善を加へて、時勢の進運に適合せしめた。是れ偏に、敎官各位の熱誠なる注意の結果であり、又挿入の圖表は、諸官廳・當該會社及び國勢社等の調査によつたものが少くない。茲に謹んで感謝の意を表する。

昭和八年二月

編者識

最近產業地理通說 新訂版 目次

緖說……一

第一篇 自然地理……四

第一章 陸地……四

第二章 海洋……一〇

第三章 氣候……一三

第四章 土壤及び鑛物……一七

第二篇 生產地理……二〇

第一章 農業……二〇

第一節 農產食糧品……二三

第二節 農產嗜好品……三〇

第三節　農產原料品……三六
第二章　牧畜業及び蠶業……四〇
第一節　牧畜業……四〇
第二節　蠶業……四六
第三章　林業……四七
第四章　漁業……五三
第五章　鑛業……五六
第一節　鑛業の現況……五六
第二節　鑛產物……五八
第六章　工業……六六
第一節　工業の現況……六六
第二節　纖維工業……七一
第三節　造機工業……七五
第四節　化學工業……七七
第五節　食糧品工業……八三
第三篇　商業地理……八五
第一章　商業の發達及び機關……八五

第二章　貿易の現勢……九一
第三章　日本の商業……九五
第一節　國內商業……九五
第二節　國際商業……九六
第四篇　交通地理……九九
第一章　陸運……九九
第一節　通路及び機關……九九
第二節　世界の鐵道……一〇一
第二章　水運……一〇九
第一節　水路及び機關……一〇九
第二節　世界の航路……一一三
第三節　世界の海運と二大運河……一一八
第三章　空運……一二〇
第一節　空路及び機關……一二〇
第四章　通信……一二三
第一節　通信の機關……一二三

品目	主産地	摘要
米	支那・印度・日本・印度支那・ジャワ等。	我国ハ世界主産地ノ一デアルガ、消費量ガ多ク印度支那等カラ輸入ス
小麦	米国・ソビエト聯邦・フランス・印度・カナダ等	欧米人ノ常食デメリケン粉ハ我国ニモ多ク輸入スルヨウニナッタ。
砂糖	ドイツ・チェッコ・米国・ソビエト・フランス（甜菜糖）キューバ・ジャワ・印度・フィリッピン・ハワイ（甘蔗糖）	国際商品トシテハ甘蔗糖ガ大部ヲ占メ我ガ台湾モ甘蔗糖ノ有名ナ産地デアル
茶	印度・支那・セーロン・日本等。	我国ハ緑茶ノ産ガ多ク、アメリカノ市場ニ於テセーロン茶ト競争ノ地位ニアル。
珈琲	ブラジル・アメリカノ熱帯地方・ジャワ・印度・アフリカ等。	ブラジルノ産出ハ世界総産額ノ約七割ヲ占メテヰル。
綿	米国・印度・支那・エジプト・ソビエト聯邦・ブラジル。	我国ハ印度ヲ始メトシ米国支那カラ多量ノ綿ヲ輸入シ紡績ノ原料トスル。
生糸	日本・支那・イタリヤ・フランス等	我国ハ輸出額ニ於テ世界ノ首位ヲ占メ大部分ハ米国ヘ輸出サレル。
羊毛	濠洲・ソビエト聯邦・米国・アルゼンチン・南阿・ニュージーランド等	我国ニ入ルノハ主ニ濠洲ノ産デアル。
木材	ノルウエー・スエデン・ソビエト聯邦・米国・カナダ・一般ノ熱帯地方。	我北海道・樺太モ木材ヲ多ク産シ、台湾ハ世界ニ名高イ樟脳ノ産地デアル。
石炭	米国・イギリス・ドイツ・フランス・日本・ポーランド・ベルギー等	我国ハ東洋第一ノ産地デアルガ、米・英諸国ニ比ベルト産額ガ遥カニ少ク自給自足ノ程度デアル。
鉄	米国・ドイツ・フランス・イギリス等。	我国ハ鉄ノ産出ガ少イカラ欧米諸国カラ多量ニ供給ヲ受ケル。
金	南阿・米国・ローデシヤ・カナダ・ソビエト聯邦・メキシコ・濠洲	南阿ハ世界総額ノ約半ヲ産シ、アメリカ合衆国ハ一割餘ヲ出ス。
銀	メキシコ・米国・カナダ・ペルー・濠洲等。	此等諸国カラ全産ノ約八割ヲ出シテヰル。
銅	米国・チリー・白領コンゴ・カナダ・日本・ドイツ・ペルー等。	我国ハ世界屈指ノ産銅国デアルガ近年需要ヲ急ニ増シテ却ッテ輸入ヲ見ルヨウニナッタ。
石油	米国・ソビエト聯邦・ベネズエラ・ルーマニヤ・ペルシャ・蘭領東印度・メキシコ・コロンビヤ等。	我国ニハ産出ガ少ク米国・蘭領東印度等カラ輸入ヲ仰グコトガ多イ。

二三
二四
三
三
三
二七
二九

生活様式ノ変遷（時代）
一、狩猟時代―原始時代
二、漁撈時代（漁猟）―石器時代
三、遊牧時代―銅器時代
四、農耕時代、鉄器時代
五、商工業時代―現代（アルミ時代）

最近産業地理通説

新訂版

廣島大學圖書之印

緒説

世界十八億餘の住民は、その住所の異なると共に、夫々固有の風俗・習慣を有し、從つて衣食住も同じでない。文化の程度も亦樣々で、或は原始的の小團體を造り、酋長を戴いてゐるのもあり、或は强大な國家を形成し、諸般の制度が完備してゐるのもある。然し種族・文野の異同に拘らず、苟もその生存を完うせんが爲に、各種の事物に對する欲求のあることは、人類に共通の事實で、此等の必要物を生産する仕事を生業といふ。

原始時代にあつては、各人自ら食物を求め、衣服を造り、住家を營んで、その間に未だ分業は行はれない。卽ち山中に住む者は專ら鳥獸を追うて

目次

第二節 郵便……一二三
第三節 電信及び電話……一二四
第五篇 政治地理……一二五
第一章 國家の組織……一二五
第二章 國家の版圖……一二六
第三章 國際關係……一二七
結論……一二九

廣島大學圖書之印

最近産業地理通説 新訂版

緒説

世界十八億餘の住民は、その住所の異なると共に、夫々固有の風俗・習慣を有し、從つて衣食住も同じでない。文化の程度も亦樣々で、或は原始的の小團體を造り、酋長を戴いてゐるのもあり、或は强大な國家を形成し、諸般の制度が完備してゐるのもある。然し種族・文野の異同に拘らず、苟もその生存を完うせんが爲に、各種の事物に對する欲求のあることは、人類に共通の事實で、此等の必要物を生產する仕事を生業といふ。

原始時代にあつては、各人自ら食物を求め、衣服を造り、住家を營んで、その間に未だ分業は行はれない。卽ち山中に住む者は專ら鳥獸を追うて

圖解 原始に近い漁業(ニューブリテン島の土人

圖解 移動式の家屋(蒙古人

その肉を食ひ、その羽毛・皮革を衣とし、海濱の住民は衣食を魚介・海獸に求め、熱帶多雨の地にあつては、果實草根に生を託し、衣服の如きは殆ぞその要がない。進んで遊牧時代となつても、尙水草を追うて轉移し、漸く農業時代に入り、始めて永住の家屋を營むに至る。

物々交換は、既に狩獵遊牧の時代に行はれて、商業の萠芽となり、更に林業・鑛業の發達につれ、之に原料・動力を仰ぐ諸種の工業が興り、交換の媒介となる貨幣が出來て、商業の確立を見るに至る。商業は物資の交換を行ふもので、商品の移動を要するから、水陸の運輸通信が之に伴つて發達する。

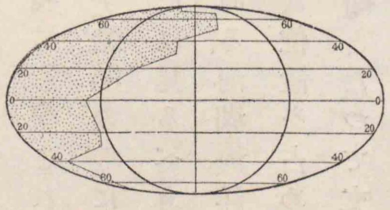
產業・商業・交通等、卽ち人文の發達は、各民族の有する歷史的關係によることも少くないが、その地の地理的條件、卽ち自然的環境に影響されることが極めて著しい。冱寒の地が人類の生存に適せず、酷熱の地に文明國を見ないのは、既に學んだ所である。高峻な山地には見るべき文化が興らずして、廣い平野には多く產業が發達してゐる。河湖・海洋は時に民族の移動・言語の傳播を妨げ、國境として適當な位置を占めることもあるが、造船・航海術の進步につれ、重要な交通路となつて文化を傳へ、產業を盛ならしめる。地味の肥瘠は、直に農業に影響してその產額を左右し、鑛物埋藏の多少は、その地の產業・經濟と離れ難い關係があつて、殆ど國の貧富を支配する等、自然的環境と人文發達との間には、密接且複雜な關係がある。されば本書は、先づ此等の基礎條件となる自然地理の大要を述べ、進んで人文發達の現況を略說する。

第一篇　自然地理

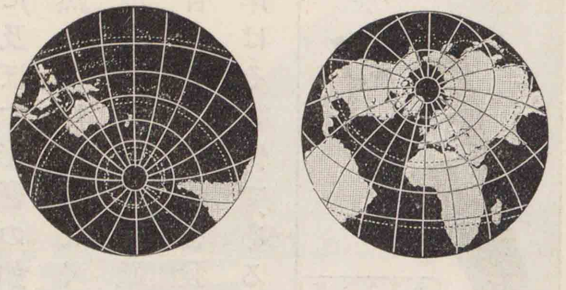
第一章　陸地

大陸と肢節　地球の表面には、六大陸と面積未詳の南極洲がある。水陸の分布は甚だ不平均で、北半球に多く南半球に少いから、地球を二分して陸地の大部分を含む陸半球と、全面殆ど水に被はれた水半球とに分けることがある。ヨーロッパ洲が陸半球の略中央にあつて、各大陸を周圍に控へることは、政治的・經濟的に卓越せる一因に數へられる。

大陸に比較して、面積の小さいものを島といひ、その成因によつて陸島と洋島とに分ける。陸島は大陸の一部であつた土地が分離したもので、洋島は大陸と直接關係のないものである。陸島の中には、日本・イギリス等の如く、大陸渦亂の影響を受けることが少く、永い歴史



圖解 各緯度に於ける水陸の分布（南極洲は加へてない



圖解 陸半球と水半球（陸面と水面とは殆ど一と二・七との割合で陸半球でも水面は陸面よりも廣い

バルカン半島のギリシヤが早く歐洲文化の曙光を放つたことはその好例である

と固有の文化とを保ち、而も大陸に對しては、優秀な經濟的位置を占め、產業發達の顯著なものがある。洋島は火山島・珊瑚島等で、面積は狹く、且多くは大陸から遠く離れてゐるので、大陸の文化を受け難く、永く未開の狀態にあるのが常である。然し近年は絕海の孤島も、交通上・軍事上の要地として、重要視されるやうになつた。

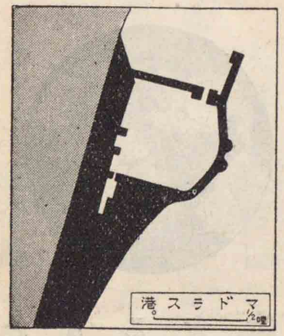
陸地の海中に突出した處を半島・岬・角等と呼び、人文上、大陸と島との中間に立つてゐる。半島中には、交通上重要の位置を占め、大陸相互の間、又は大陸と島との間に、民族移動の橋梁となつて、早くから文化の光明を放つたものが少くない。

海岸線　陸地と海と接する處を海岸線と呼び、半島・岬・角等の多い場合は、海岸線が陸地の面積に對して長くなる。世界の各大洲中、海岸

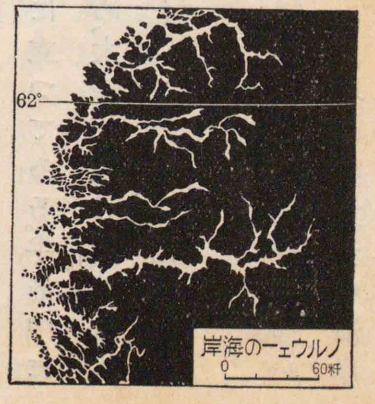
海岸線は同一面積の圓周と比較するを適當とする各陸地の圓周を一として其の割合は左の如くである

北アメリカ	四・九
ヨーロッパ	三・五
アジヤ	三・二
南アメリカ	二・〇
濠洲	二・〇
アフリカ	一・八
九州	五・〇
本州	四・六
四國	三・八
北海道本島	二・三
臺灣	一・八

線の最も發達してゐるのはヨーロッパ・北アメリカで、單調なのはオーストラリヤ・アフリカ・南アメリカ等である。此等の大陸に就いて、その文化を比較すると、海岸線の發達が、人類生活に及ぼす影響の如何に大なるかが窺はれる。然し海岸線がよく發達してゐても、その背後が直に山地で、交通を妨げるか、或は氣候が不良で、生產物の乏しい場合は、その價値を發揮することは出來ない。ノルウェーや北極諸島の海岸はその例である。之に反し、海岸の出入は乏しくても、その地が交通上の要衝に當るか、或は生產地・消費地の門戸たる時は、人工的に港灣を築造して、自然の不利を補ふから、單に海岸線の良否のみで、人文發達の運命を論定することは出來ない。



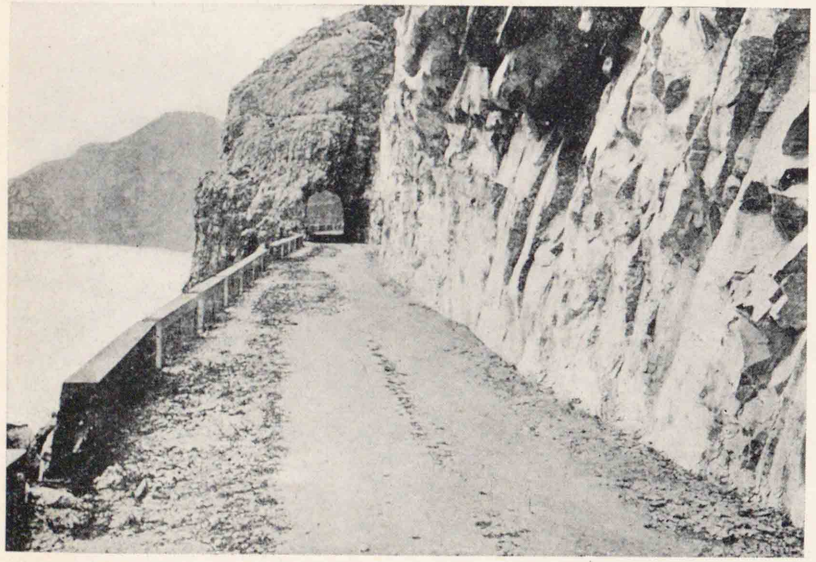
圖解 人工に成る港の例



地勢 地表には高い山脈があり、廣い平野が

ノルウェーの峽灣

削つたやうな山の裾に點在せる人家は靜寂な影を沈めてゐる

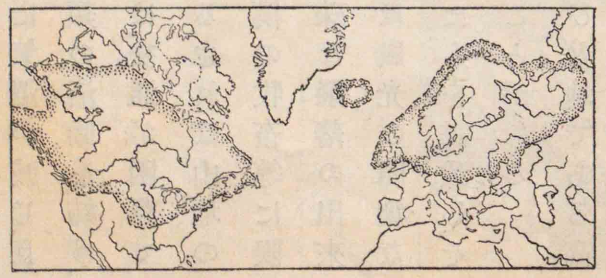


臺灣東海岸の一部

險しい斷崖の中腹を人工による一條の道路が僅に通じてゐる

あり、起伏の錯雜せる處もあり、又單調な處もあつて、地形は實に樣々であるが、大體平野・臺地・山地及び盆地等に分けられ、其等と人類活動との關係は極めて密接である。

平野には河湖或は海底の堆積物から出來たもの（堆積平原）と、山地が浸蝕されて平坦になつたもの（準平原）とある。支那平原は前者に屬し、ロシヤ平原は後者である。又北歐・北米等には、地質時代に於ける氷河の浸蝕及び堆積による廣い平野がある。平野は概ね地味が肥沃な上に、開墾が最も容易で、交通路も開き易く、且河川の水運・灌漑にも便利であるから、氣候の許す限りは、各種の生産が豐である。されば人類の生活に最も適し、村落が此處に起り、都會が此處に發達して、人口が稠密である。ヨーロッパの中部・支那・印度・ミシシッピ流域等の平野及び我が關東・濃尾・大阪・筑紫等の平野は皆この好例である。



圖解 古代の氷河に被はれた地方

山地の牧畜

小規模の牧畜を山間に行つてゐるモンテネグロ地方の光景

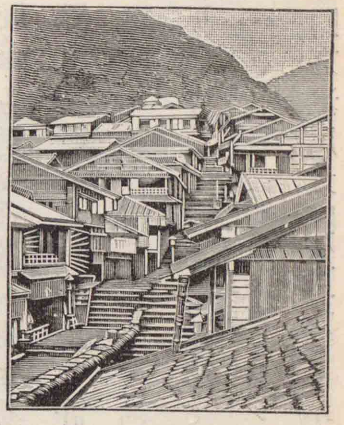
不毛の高原

極度の乾燥に土地が全く不毛となつてゐるアラビヤの内部

圖解 溫泉都會の一例（伊香保）

療養・遊覽等の都邑は季節による人口の移動が極めて著しい

メキシコの首府メキシコ及びエクアドルの首府キトー等は何れも數千米の高臺上にある



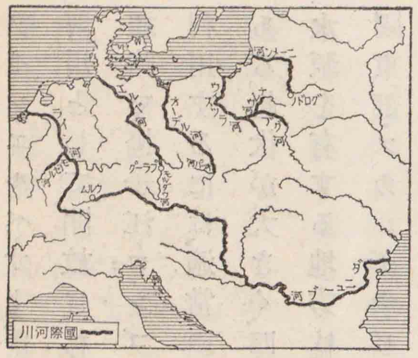
山地は高度を増すと共に氣溫が減じ、且天候の變化が激しい爲、人類の活動を妨げ、殊に起伏の著しい地方では、交通が困難で人口の稀薄なのが常である。されば山地の產業は、林業・鑛業又は小規模の牧畜等に限られ、此等の中心として、特殊な聚落の出來ることはあるが、大都會の發達に適しない。又山地には風光の明媚な處が多く、殊に火山地方は、自然の風景美や溫泉の爲に人を誘致し、その氣候は休養・療病等に適して、小都邑の發達を促すことがある。

山地と平野との中間性を帶びてゐるのが高原及び盆地である。高原の一樣に平坦なものは、平野と著しく違はないが、河は多く峽谷を造つて交通を妨げ、文化の開發には適しない。唯熱帶地方にあつては、交通は不便でも、氣候が快適な爲に、人類が此處に集り、高地に文化地域を見ることは、メキシコ・南米西部等にその實例が多い。盆地は周圍に山脈を繞らして、他地方との交通が困難な爲、時に特殊の文化を見ることもあるが、遠く海洋と離れ、且四周の山脈が高峻な時は、乾燥して不毛の沙漠をなすことも珍しくない。

河湖ト文化 (1)交通(水路) (2)發電(原動力) (3)灌漑(耕地) (4)飲料水(人) (5)工業用水 (6)養魚

圖解 メキシコに於ける都邑分布

圖解 國際河川

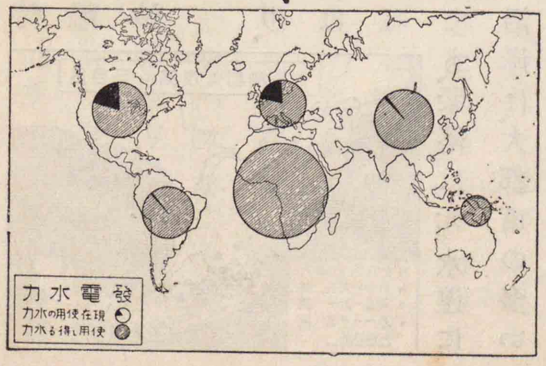


河湖 河湖の利用は甚だ廣く、或は水路となり、或は發電の原動力となり、或は耕地を灌漑し、或は飲料水・工業用水となるなど、人類に貢獻する所は極めて大きい。山地に於いても、聚落は先づ水邊に興り、平地に於ける河湖の沿岸に、大都市の多い例は、殆ど枚擧に遑がない。

交通路としての河湖は、極めて重要なもので、北米の五大湖は淡水地中海と稱せられ、歐洲の諸川は概ね流が緩で、上流まで舟楫の便を有し、蛛網の如き運河と相待つて、國際的交通路となり、

ライン・エルベ・オーデル・ウィスツラ・ニーメン・ダニューブ等の諸川は、國際河川として開放された。鐵道の發達しない地方では、河湖は唯一の交通路で、揚子江・コンゴ河の如きは、その著しい例である。原動力として利用するには、適當の落差があつて、水量に變化の少いことが必要である。起伏が大きく、四時雨量に富み、且附近に湖水・氷河の如き、不斷の水源を有する地方は、最も水力發電に適し、日本・米國東部・スカンヂナビヤ・スイス等はその好例である。灌漑用としての河水は、農業と密接な關係を有し、古代の文化は、多く大河の沿岸に發祥した。支那・印度・バビロン・エジプト等の古代文明は、皆その例である。

圖解 發電に利用し得る水力



第二章 海洋

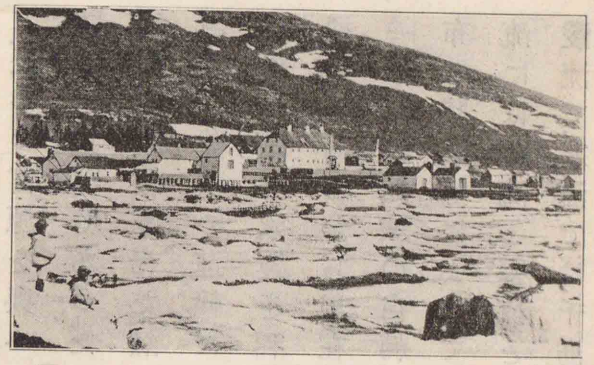
海洋は地球表面の約四分の三を占め、直接に人類の生活を許さないが、その活動には密接な關係がある。海洋は常に降雨の源を養ひ、氣候を調節し、又空氣を清淨にして、人類の健康を保たしめる。海水中に含まれる鑛物成分は、食鹽・石灰・加里・燐・沃度等で、直接又は間接に人類に利用せられ、又魚類・海獸・海藻等の生育地として、幾多の富源を與へる。海洋は古來國家又は民族間の障壁として國防上に重要であつたが、交通機關及び兵器の發達につれて、幾分その價値は減殺された。然し海洋は人類に開放されて、その航行が自由であり、且陸上の運輸に比して、運賃が著しく低廉であるから、貨物は出來得る限り水運を利用する傾があり、且大陸間に於ける殆ど唯一の交通路であるから、現在世界運輸の幹線は、海洋にありといひ得る。

海には公海と領海とあつて領海の交通は自由でない

海流は地球の自轉、一定の方向に吹く風、海水比重の差及び水陸分布の狀態等によつて起るもので、古來航海者は、よく之を利用した。海流には暖流と寒流との別があり、日本海流・メキシコ灣流等は主要な暖流で、寒流では千島海流・ラブラドル海流等が著名である。共に氣候・

海流の低緯度から高緯度に向ふものを暖流といひ之に反するものを寒流といふ

圖解 寒流に運ばれ來る流氷（ラブラドルの海岸



生物分布等に影響を及ぼすことが著しく、且寒流は、屢々氷山や流氷を伴つて航海を妨げることがある。寒・暖の海流は各々その棲む生物の種類を異にするから、二流の合する處には、各種の魚族が群集する。北米の東北岸、ノルウェーの海岸、我が北海道樺太の沿岸等が、漁場として有名なのは、一は海流の關係によるのである。

第三章　氣候

人類の活動に影響を及ぼす地理的條件の中、最も重要なのは氣候である。氣候は人類の移動を制限し、衣食住の原料を決定し、又人生の健康及び能率にも直接且重大な關係がある。

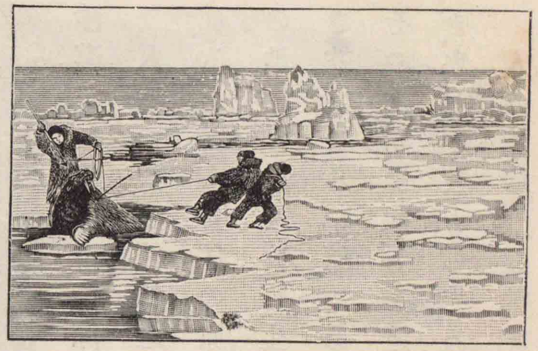
大洋及び山脈が交通を遮り、人類の移動を制止したのは、風波が人心に恐怖を與へ、積雪が行旅を妨げることが多い爲である。極北・極南

圖解 アマゾン河流域の熱帶性密林

の地は、人類の生活に適しないのみならず、探檢すらも未だ行はれない處が多いのは、全く氣候が然らしめる爲である。熱帶多雨の地は、濕潤で密林の繁茂に任せ、人類の入ることすら容易に出來ないのに、乾燥して雨量の乏しい地方は、一面に沙漠をなし、滿目荒涼として野獸さへもその影を見せない。

人類の衣食住は、之を動植物に仰ぎ、動植物の分布は氣候に支配されるから、衣食住の原料は、殆ど全く氣候によつて左右される。熱帶多雨の地に住む者は、野生の果實草根に生命を託して、その葉に雨露を凌ぎ、乾燥せる草原にあつては天幕に住み、牛・羊を追うてその肉を食ひ、その皮革に寒暑を避け、極北の凍原に住む者は、馴鹿を飼ひ、魚油を焚き、氷室を家としてゐる。

人の健康及び能率も、亦直接・間接に氣候と關係を持つてゐる。酷熱・

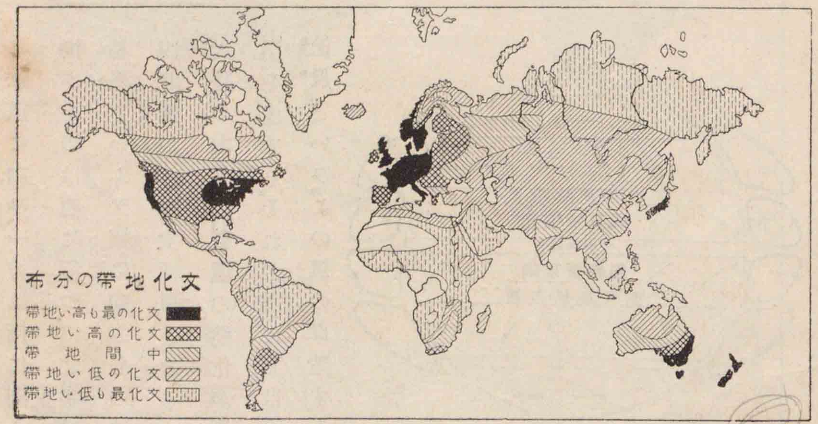


嚴寒の頃には能率が上らないで、溫暖・冷涼の季節は最も勉學や執務に適することを、我等は常に經驗する。之と同樣の事實は、各種の氣候帶に於いても認められる。寒帶にあつては衣食を得ることに追はれて、他を顧みる遑がなく、熱帶は高溫・多濕で衣服の必要はなく、食物も殆ど體を勞せずして得られるから、刻苦勤勞の念に乏しく、自ら懶惰に陷つて、人智の發達が後れ、永く原始的の狀態にある。獨り溫帶は氣候が中和で、人類の生存に適してゐるが、自然の恩惠にのみよつては、衣食が十分でないから、適當な勤勞を必要とし、各種の產業が此處に起つて、文化の開發を促し、世界

世界で最も暑い處はサハラ沙漠からアラビヤ・イラン地方及び支那の西部に亙る一帶の地方で最も寒いのはシベリヤの東北部及びカナダの北部である

地球上降雨の最も多いのは印度の東北部で降雨の少いのはサハラ・アラビヤ等から蒙古に亙る一帶の地方である

圖解 文化地帶の分布

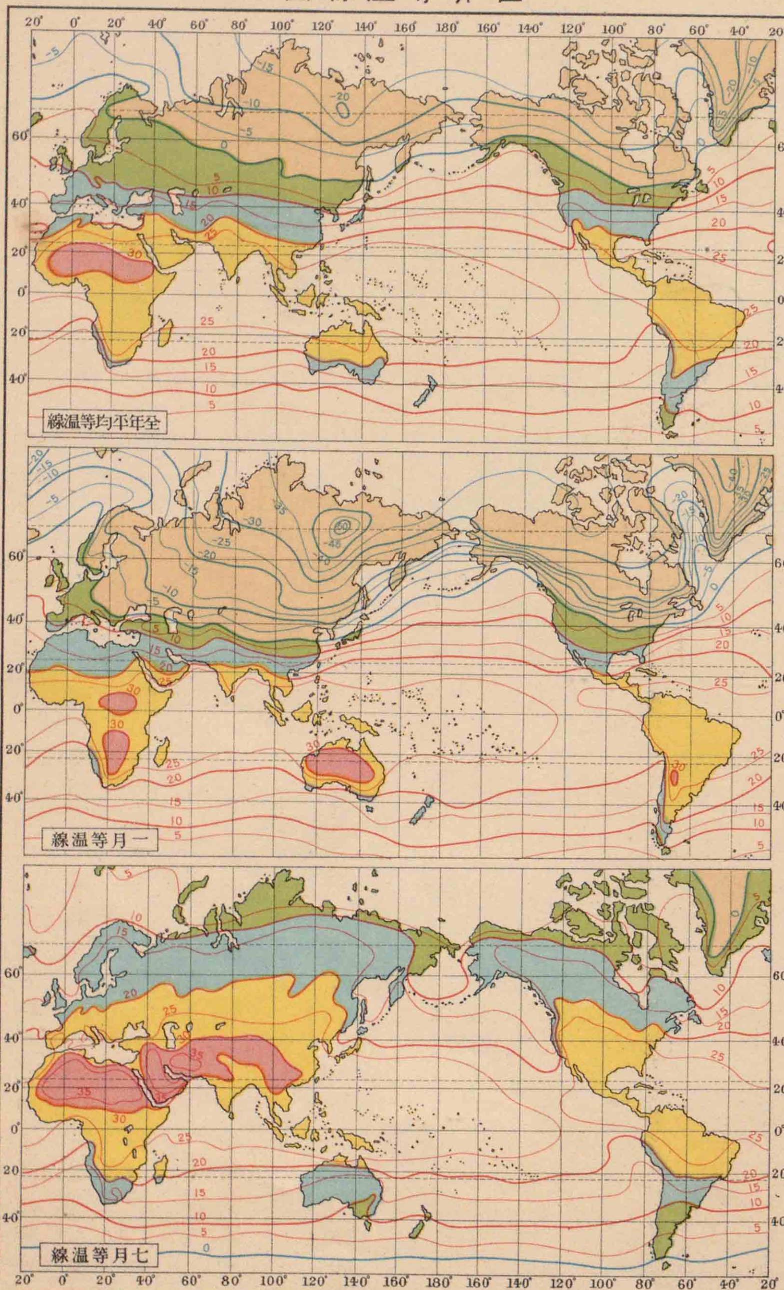


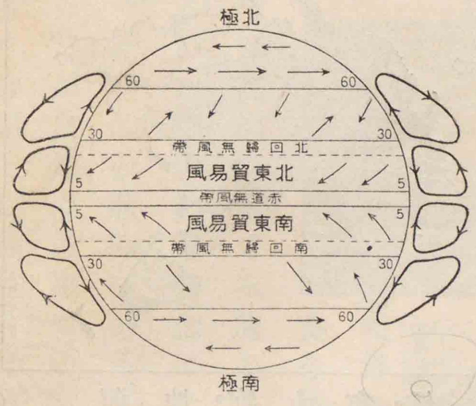
の文明國は、多くこの溫帶に位してゐる。

地球上の氣候を決定する要素は、地球の運動・水陸の分布・海流・土地の起伏等である。地球はその運動によつて、表面に熱帶・溫帶・寒帶の別を生じ、四季の變化を起し、大氣の大循環を促す。水陸の分布は、氣溫・氣壓の分布に著しい影響を及ぼして、所謂大陸性氣候・海洋性氣候を生じ、又季節風を起して、降水量に甚しい差異を來す。海流は氣溫・雨量に影響することが多く、土地の起伏も亦氣溫・氣壓等に變化を生じ、山脈は雨量・氣溫等の境界となることが多い。

赤道地方は氣溫が高いから、空氣は輕浮上昇し、上層を南北に流れるが、緯度三十度邊に至れば、下降集積してその部分に高氣壓を生じ、此處から一方

世界等温線圖



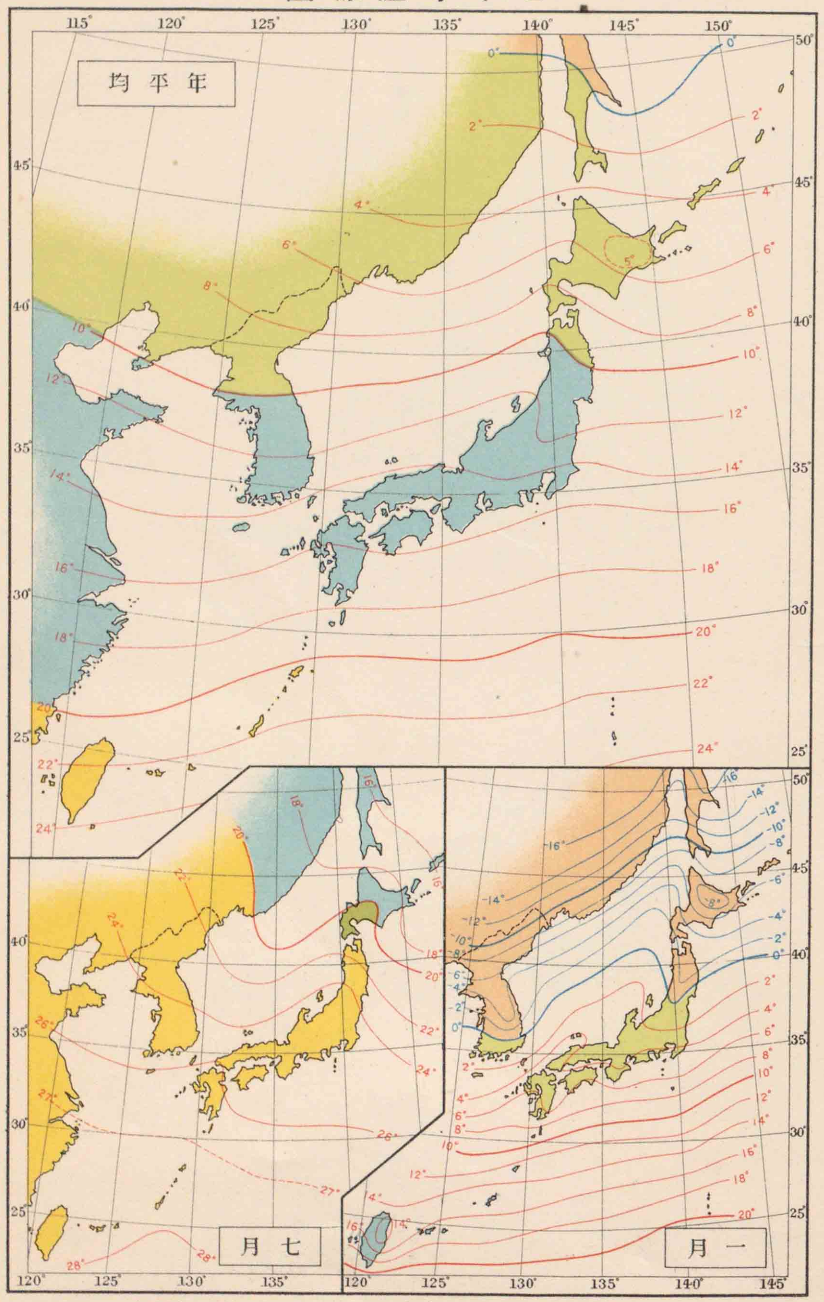


は赤道に向ひ、一方は極に向ふ風となる。此等の風は、地球自轉の影響を受け、赤道に向ふものは西に偏つて、北半球では東北風となり、南半球では東南風となる。之を貿易風といふ。又極に向ふものは、北半球では西南風から漸次西風となり、南半球では西北風から漸次西風となる。之を偏西風といふ。

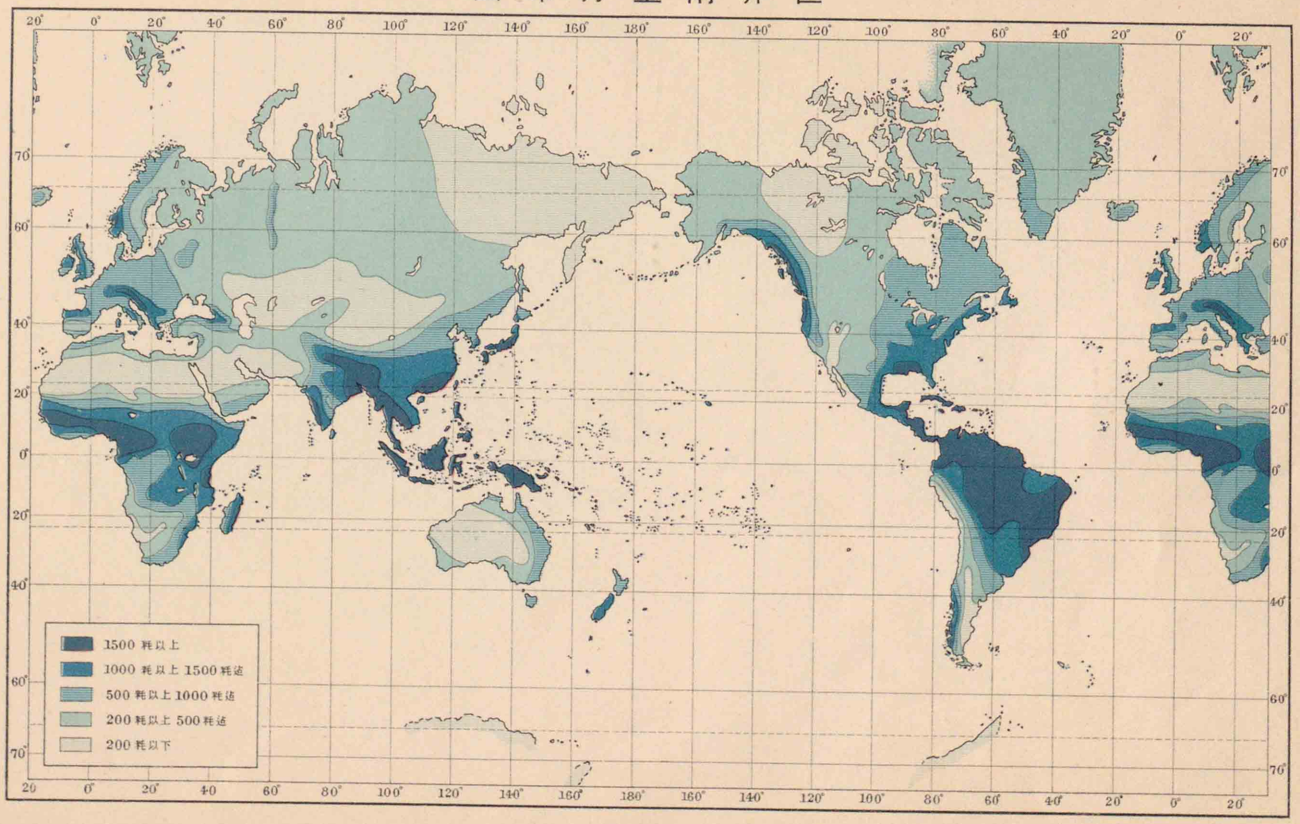
大陸の内部は、氣温の變化が激しく、之につれて氣壓も變化し、夏は低氣壓、冬は高氣壓を生ずる。それが爲に夏は海から陸に向ひ、冬は陸から海に向ふ風が吹く。之を季節風といひ、この風の卓越する地方を季節風帶と呼ぶ。アジヤの南部から東南部に亙る地方は、季節風の最も著しい處である。

寒暑の差は、緯度の高低による。ことは勿論であるが、尚土地の高低・水陸の分布・風の方向及び海流の狀態等によつても著しく異なるから、同緯度の地でも、氣温の等しくないことが多い。雨量も略緯度によつて變じ、熱帶地方は槪ね降雨が多く、極地に近づくに從つて次第に減ずるのが常であるが、山脈の位置・海との距離・風の方向及び海流の有樣等によつても大いに變ずるものである。

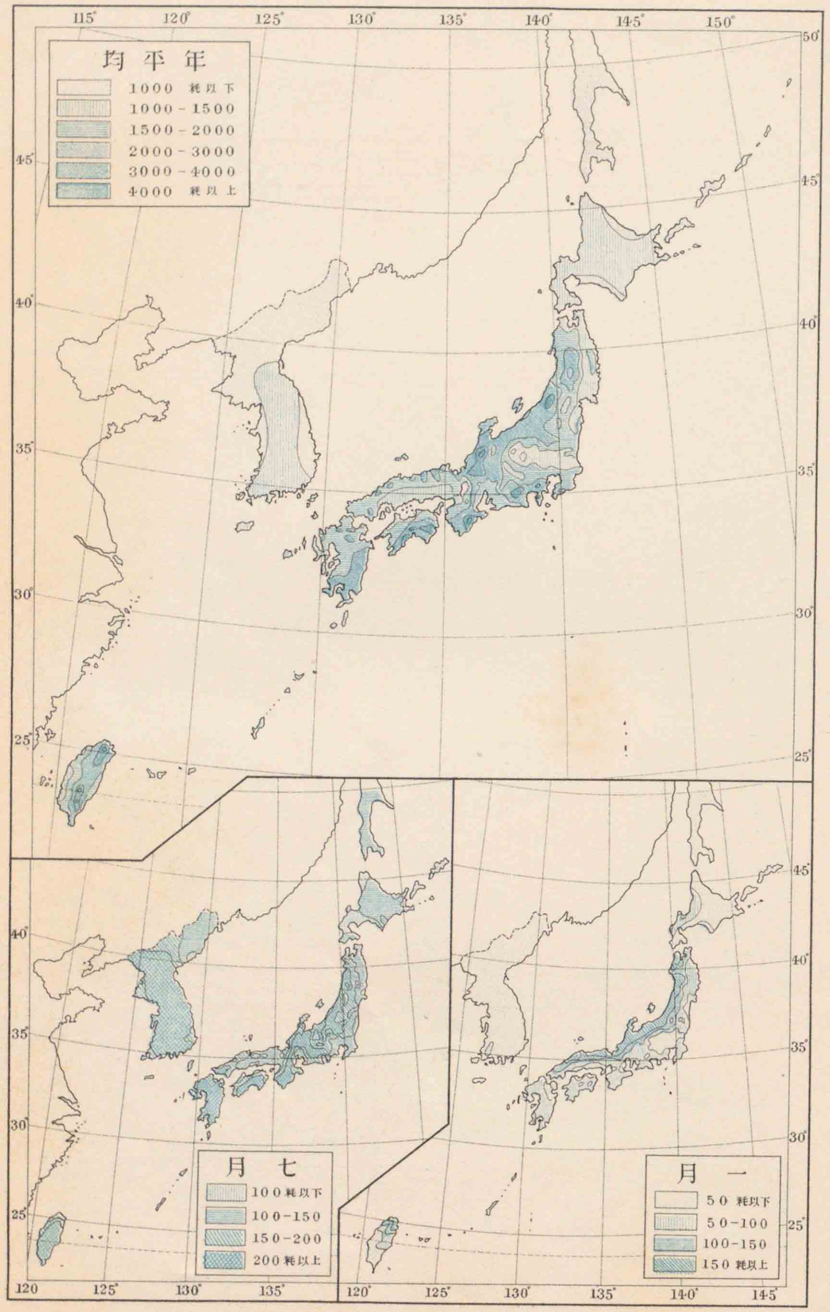
日本等温線圖



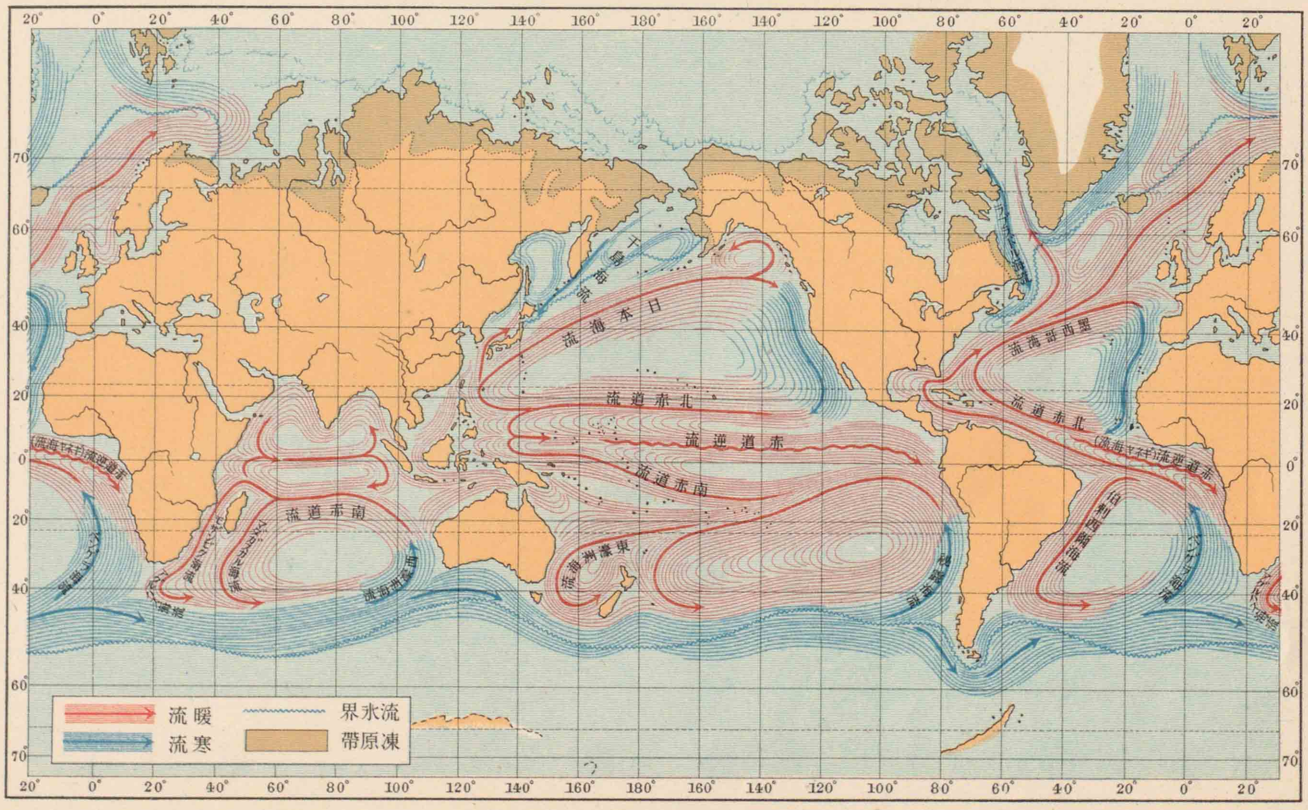
世界雨量分布圖



日本雨量分布圖


年平均
1000 粍以下
1000－1500
1500－2000
2000－3000
3000－4000
4000 粍以上
七月
100 粍以下
100－150
150－200
200 粍以上
一月
50 粍以下
50－100
100－150
150 粍以上

世界海流圖

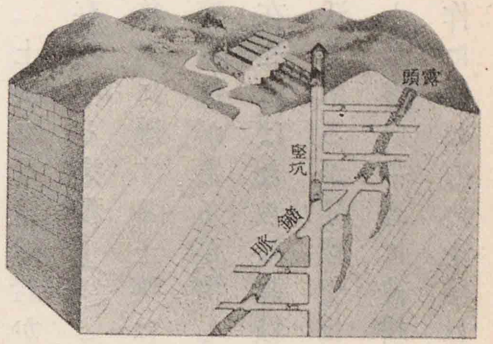


第四章　土壤及び鑛物

地殼を構成する岩石は、水・空氣及び生物等から受ける機械的・化學的の營力により、破壞されて土壤となる。土壤は總ての生物を育成する母體で、我等の衣食住に供する原料は、直接又は間接に土壤から產出される。

土壤には原母岩から遠く離れて堆積した運積土（輸土）と、その場所に存在する定積土（原土）との別がある。平野は概ね前者で、山地の土壤は多く後者に屬する。土壤は種々成分を異にするから、植物の種類によつて適・不適があるが、概して純粹なものは耕作に適しないから、適宜に混在せねばならぬ。運積土はその層が深く、諸種の物質を含有して、概ね豐沃であるが、定積土は淺く、その性質が一方に偏し、耕作に適しないことが多い。平野に農耕が盛で、山地に然らざるのは之が爲にもよる。耕作に適しない土壤は、人工で之を調節し、或は肥料を施してその缺を

圖解 鑛山の模型

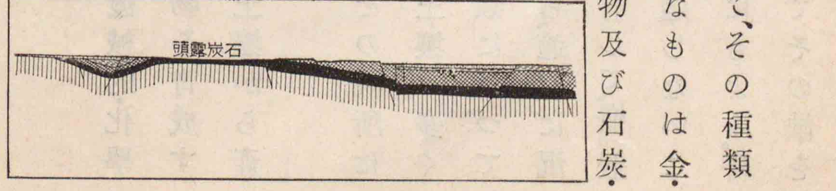


補ふ必要がある。

鑛物の大部分は地中に埋藏されて、その種類は極めて多いが、經濟上產業上重要なものは金・銀・銅・鐵・鉛・アルミニウム等の金屬鑛物及び石炭・石油等の非金屬鑛物である。

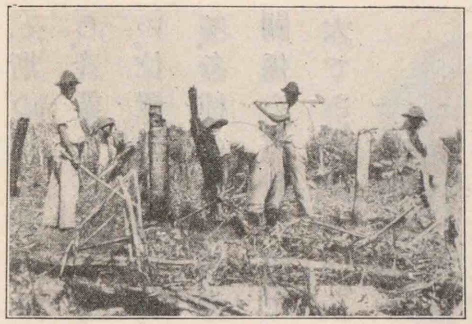
金屬鑛物は比重が大きく、元來地中深く存在してゐるものであるが、造山運動・斷層運動等の爲に、地表に近く持ち來され、更に浸蝕削磨によつて露頭を生じ、我等の稼行に便する。鑛業が地殼變動の著しい山地と、密接な關係のあるのは之が爲である。石炭と石油とは寧ろ火山作用や、地殼運動の少い地方に多く埋藏され、殊に石油の露頭は泉の如く湧出するので、その採掘と地形との關係は、金屬鑛物と大いに趣を異にしてゐる。

歐米の石炭は古い地質時代に生じたものが多いが我が國のものは極めて新しい



斯の如く世界の富源は、直接間接に大部分を土地に仰いでゐるから、產業の盛衰は、地味の肥瘠・鑛物埋藏の多少等によることが甚だ多い。位置・地形等は著しく氣候の差異を來し、氣候は地味に變化を與へて、各種の產業を支配し、又人類の交通を左右する等、互に密接な相關關係を有し、同時に其等の自然的條件が、人類に及ぼす影響は極めて大である。

圖解 開拓初期の光景（南米に於ける伐木作業）



第二篇 生産地理

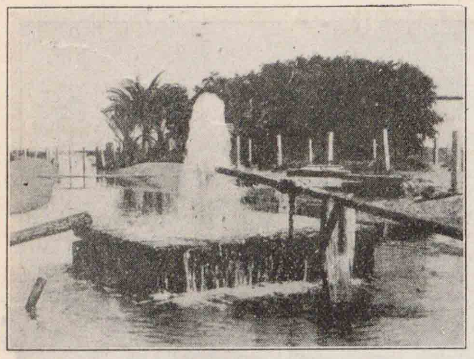
第一章 農業

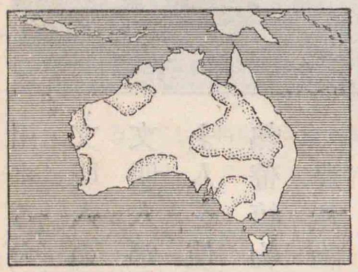
生業が産業としての形態を備へるに至つた第一歩は農業である。人類は農業により始めて一所に定住し、生活の安定を得て高尚な文化活動に入る端緒を開いた。人類は衣食の原料を多く農業によつて供給せられ、商工業も亦之を基礎として立つものが多いから、産業中極めて重要なものである。

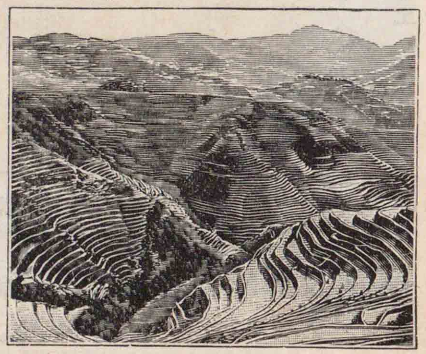
農業は植物（廣義には動物をも含む）を人爲的に增殖・改善するを目的とするから、土地の支配を受けることが最も深く、特に氣候は農産物の種類・分布を決定する根本的條件である。作物は夫々氣候條件によつて異なり、各地特有の農業が行はれるが、その最も盛なのは亞熱帶から溫帶に亙る地方で、內陸盆地は乾燥

圖解 階段狀をなすルソン島の水田

圖解 濠洲に於ける灌漑用の鑿井と人工灌漑の行はれる地方



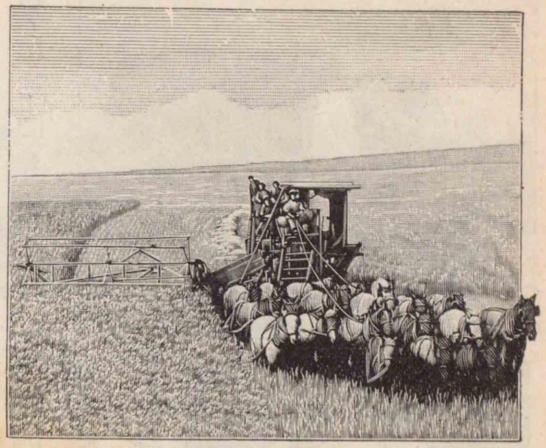




に過ぎ、寒帶は氣溫が低く、共に農業には適しない。地形・地味の適否も作物によつて一樣でないが、槪して耕地は、平坦で地味が肥え、水利の便なのを必要とするから、世界の農業は、先づ河岸の平野に開け、人口が稠密となるにつれて、次第に山麓・丘陵にも及んで行く。殊に人智の進むにつれ、地味・水利等に人爲的の改造・施設が加へられる。肥料の改善は勿論、ナイル河の堰堤・濠洲の鑿井等は、その一手段である。農業が早く開け又は土地の狹い處では、小規模な農法（集約的農業）が行はれ、平野が廣く、人口が稀少な處では、豐富な資本により家畜や機械を利

圖解 米國の粗放的農業（小麥刈採

印度支那では四季を通じて收穫がある

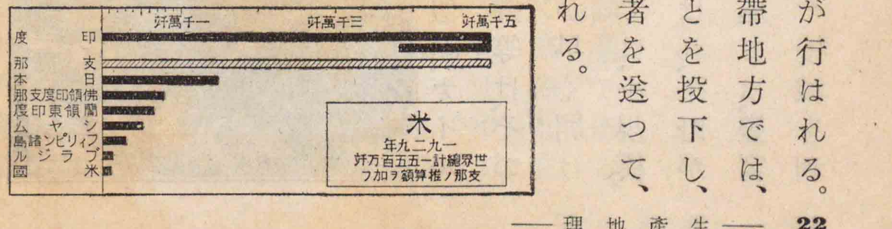


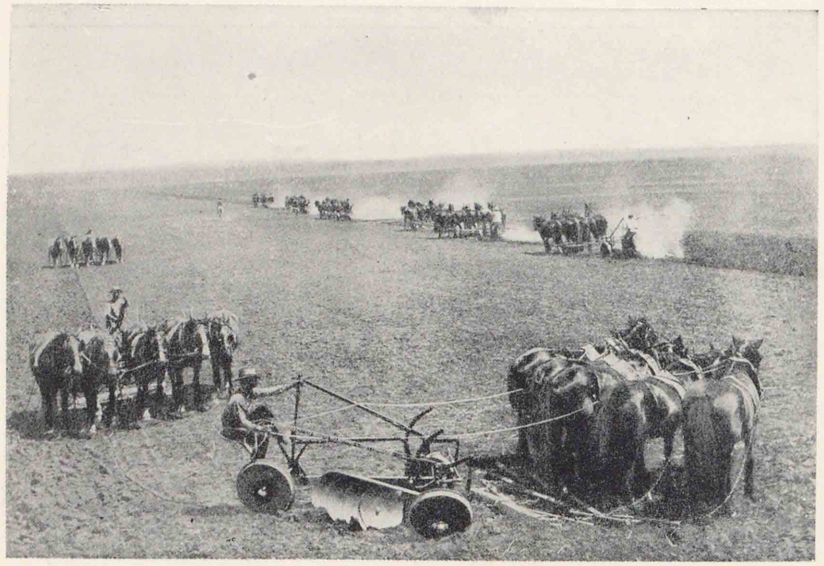
用する大規模の農法（粗放的農業）が行はれる。文明人の移住に適しない熱帶地方では、文明人が此處に知識と資本とを投下し、土人を使ふか、又は他の勞働者を送つて、熱帶植物の栽培農業が行はれる。

農產物の種類は極めて多いが、商品として重要なものは、食糧品・纖維原料品・嗜好品等である。

第一節　農產食糧品

米　東洋人の主要食糧品で、世界の全產額は約一億五千萬石と推算され、小麥と對立し世界の二大食糧品である。稻は溫暖で夏期に雨量の多い印度・印度支那・支那・マレー地方及び日本等を主產地とし、近來歐洲南部・エジプト・



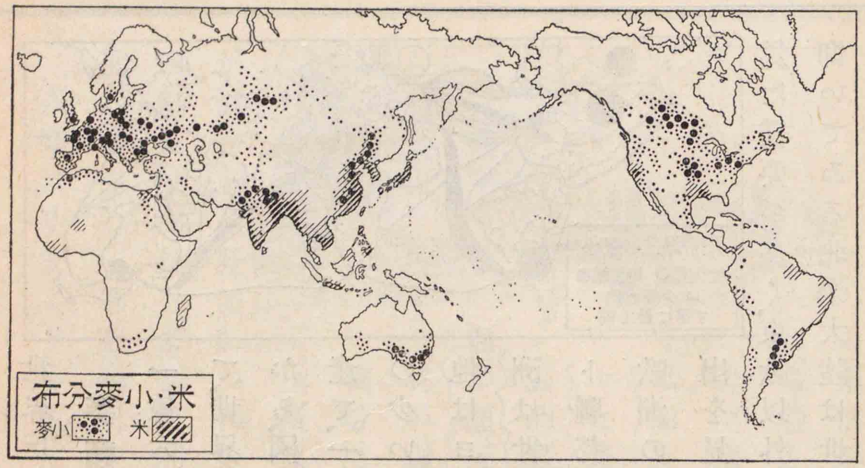


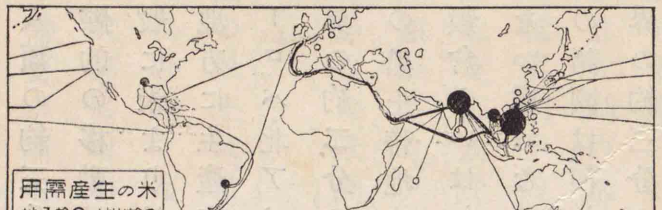
濠洲の農園

ニューサウスウェールスで五頭立の馬に耕耘機を曳かせ粗耕をしてゐる

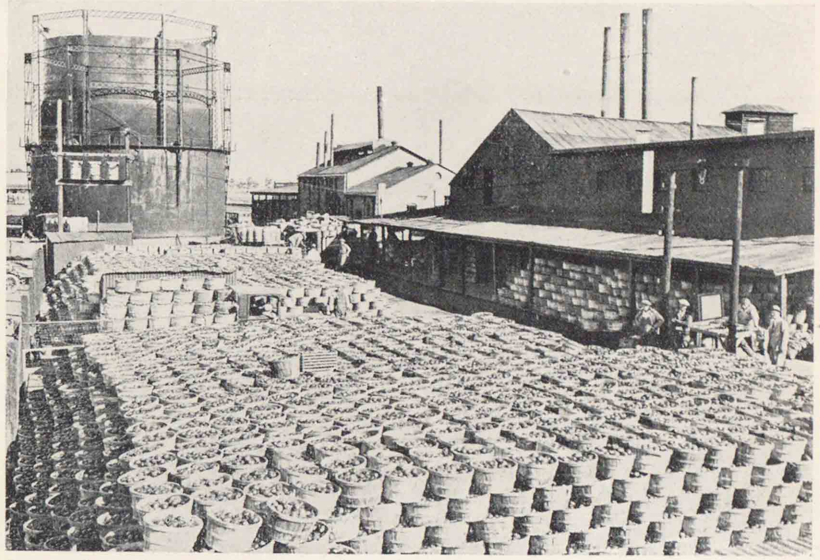
北海道の農園

十勝平野の豆畑で茫漠たる開拓地の氣分が十分に窺はれる





米國南部・ブラジル等にも移殖されて、その產額が漸く增加した。我が國は古來瑞穗ノ國と呼ばれ、主要の米產地ではあるが、人口の增加につれて、漸次不足を告げ、近年その輸入が少くない。支那も產額は多いが、防穀令を布いて輸出を許さず、印度も國內の消費が多いから、國際商品として重要なのは、印度支那の蘭貢(ラングーン)米・西貢(サイゴン)米・東京(トンキン)米及び暹羅(シャム)米等で、ラングーン・サイゴン・ハイフォン・バンコク等はその集散が多く、香港は



カリフォルニヤのトマト

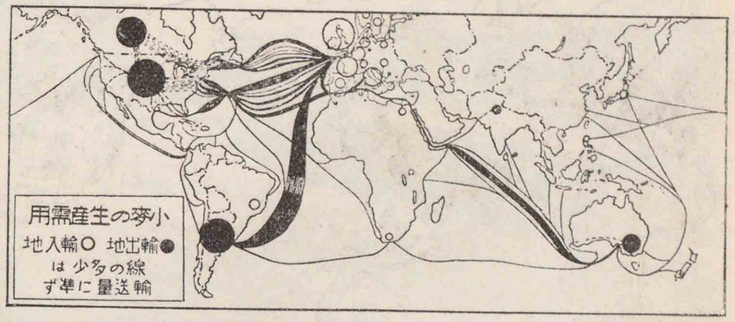
罐詰に製造する爲工場內に累積されてゐる無數のトマト

臺灣の鳳梨採集

殖産局農場の光景で多くは罐詰の原料として工場へ運ばれる

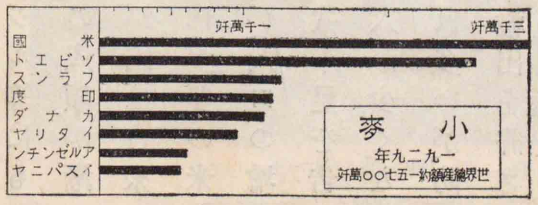
歐洲では食糧の外に工業用の糊として織物の艶出に用ひられる

溫暖な地方には冬小麥寒冷な地方には春小麥を作り收穫率は前者が多く國際商品としては後者が重い



世界に對する米の大中繼市場である。

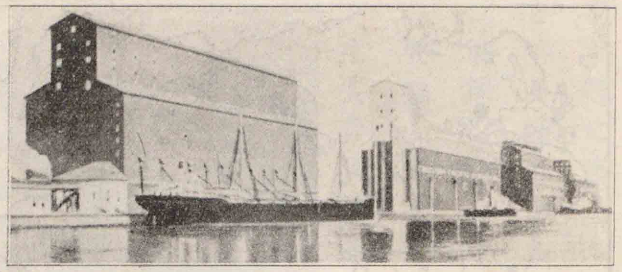
麥類 最も主要なのは小麥で、世界の全産額は約一億六千萬瓩に達する。歐米人の主要食糧品として、世界人類の約三分の一は之によつて生活するから、國際的の移動は米よりも遙に多い。溫帶の原產で、一般に米よりは氣溫が低く、雨量の少い地方に生產する。世界の主要產地はヨーロッパ・北アメリカの二洲で、歐洲は世界の約二分の一を出し、ソビエト聯邦の黑土帶地方・ルーマニヤ等は、歐洲の穀倉といはれ、その他各國殆ど產出を見ない處はないが、人口が稠密な爲に需要が多く、東歐以外の諸國は、何れも多量の輸入を仰いでゐる。北米大陸は世界の約三分の一を出し、カナダ



印度では割合に氣溫の低い地方に栽培され夏期の降雨前に收穫する

圖解 カナダの穀物蓄積庫

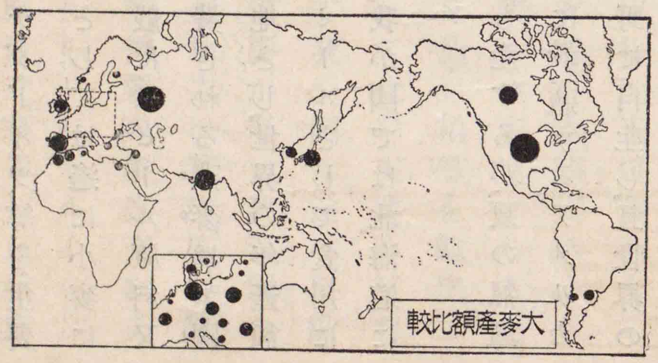
醬油・菓子等の原料とする外麵麭粉の需要が著しく增加した



の南部から米國の中部に亙つて大規模に耕作せられ、鐵道と五大湖の水運とにより、盛に歐洲に送られ、シカゴは世界第一の小麥市場である。その他アジヤでは印度・北支那及び西部シベリヤに產額が多く、アルゼンチン・濠洲等からは、歐洲への輸出額が頗る多い。

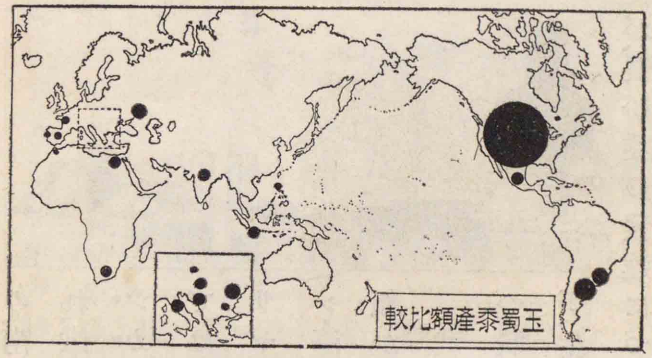
我が國の風土は、概して小麥の栽培には好適でないに拘らず、生產は次第に增加して來たが、製粉業の發達につれて需要が漸增し、原料の四割五分內外を米國・濠洲等から輸入し、小麥粉としてその一部を輸出する。

大麥は小麥よりも更に寒冷な地方にも生育

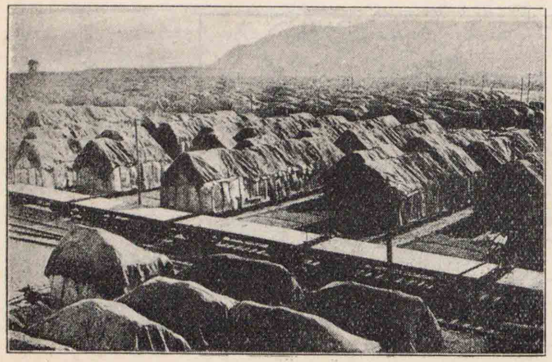


ライ麥は小麥に似て小粒である寒冷と濕潤とに耐へ瘦土にも栽培される貧民のパン原料となりソビエト聯邦を主產地とする

し、穀物中で分布が最も廣い。ソビエト聯邦・米國・カナダ・ドイツ等を主要產地とし、年產額は約六千三百萬瓩で、國際商品としては遙に小麥に劣つてゐる。日本では主として米の代用とし、一般にはビール原料又は家畜飼料として多く消費される。燕麥は米國及びソビエト聯邦を主產地とし、世界の年產額は約一億瓩である。オートミールとして食用に供し、又家畜の飼料となる。我が國では北海道に多く產する。



玉蜀黍　割合に寒地にも產するが、夏の氣溫が高く、且雨量の多い地方に最も適する。アメリカの原產で、今も尙大陸の原野に自生し、且世界の各地に廣く栽培される。米國は世界全產額の五割餘を出し、アルゼンチンが之に次ぐ。ヨーロッパではソビエト聯邦・ルーマニヤ・ハンガリー・イタ

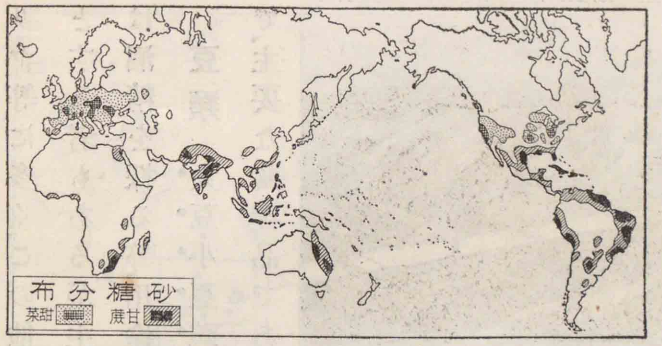

圖解 大連埠頭の大豆集積

リヤ等に多く、この他メキシコ・印度等にも栽培される。歐洲では常食とする者もあるが、主として家畜の飼料に供せられ、又澱粉を造り、或は酒精を採る等用途が頗る廣い。

豆類　大豆・小豆・豌豆等があつて、種類が多く、植物性蛋白質を含んで、主要な食糧品である。大豆は殆ど東洋の特產で、支那・日本・印度等からも產するが、滿洲國は世界第一の產地である。大豆はその儘、或は搾油して豆油・豆粕等を輸出する。豆油は多く歐洲に送られて化學工業の原料となり、豆粕は肥料用として我が國に送り、又歐洲でも家畜飼料等として需要が多い。我が國の豆類は、多く朝鮮・北海道・奥羽地方に產するが、醬油・味噌・豆腐等の原料として、需要の半を充たすに過ぎない。

馬鈴薯　北アメリカの原產で、寒帶から亞熱

帶に亙り、地味・土質を問はず、何れの地にも廣く栽培されるが、產出の最も多いのは歐洲及び北米である。ドイツはその產額が甚だ多く、住民の主要食糧となり、又澱粉酒精等の原料或は家畜の飼料とする。その他ソビエト聯邦・ポーランド・ベルギー・フランス等にも產出が多い。我が國では北海道・奥羽地方等に多く栽培し、食糧並に澱粉酒精等の製造に用ひる。



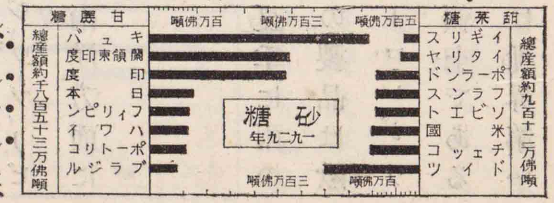
砂糖 人類は生存上の必要から、適度の糖分を攝取せねばならぬ。文化の開發につれて、砂糖の需要が益々増加し、今では砂糖の消費量が文化程度を測る尺度だといはれる位である。砂糖の原料植物は甚だ多いが、世界的商品として價値のあるのは、甘蔗糖と甜菜糖とである。

甘蔗は東南アジヤの原產といはれ、熱帶及び

ハンブルグは戰前まで歐洲に於ける大取引市場であつた

亞熱帶の霜害を見ない平野に適し、早くから各地に栽培された。世界の主產地はキュバ・ジャワ・印度・ハワイ等であるが、印度は國內の需要に不足を告げ、ハワイは大部分を米本國に送るから、國際商品として重要なのは、キュバ糖及びジャワ糖である。

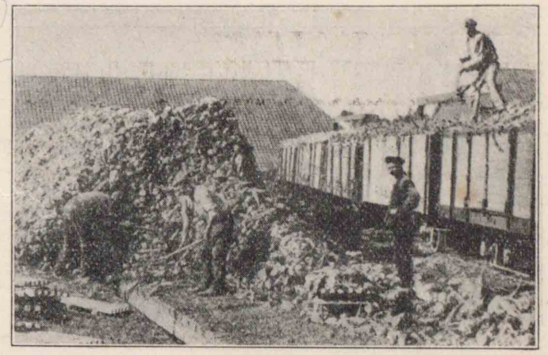
キュバは世界全產の約三割を產し、その大部分は粗糖の儘で米國に輸出し、又精糖として歐洲へも送られる。ジャワは約一割五分を出し、キュバと共に世界の二大供給地となつてゐる。從來主として東洋諸國に供給してゐたが、大戰後、歐洲への出荷も著しく増加し、ロンドンは、歐洲に於ける砂糖取引の中心で、キュバ糖のニューヨークと共に、世界の二大市場となつてゐる。



甜菜は夏期が冷涼で適當の降雨があり、秋季乾燥する地方に適する。フランスからソビエト聯邦に亙る歐洲大平原を主產地とし、ドイツ・チェッ

熱帶地方では年中新芽を出してゐるから大規模の工業が可能である

圖解 列車で工場へ運ぶ甜菜



コスロバキヤ・フランス・ポーランド等は產額が殊に多く、又米國の北部にも栽培される。

　我が國は甘蔗糖を主とし、臺灣がその主產地で、沖繩・鹿兒島の諸縣からも產する。甜菜も近年北海道・朝鮮等に栽培されて、頗る有望である。我が國は近年精糖業が急速に發展して、ジャワ・フィリピン等から粗糖を輸入し、精糖を支那・南洋方面に輸出するやうになつた。

第二節　農產嗜好品

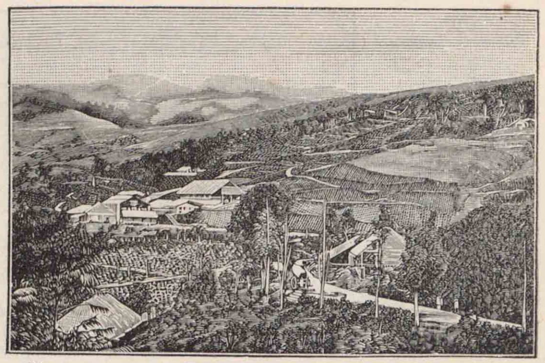
茶　茶樹は印度の原產と稱せられ、溫帶及び亞熱帶の夏季に雨の多い地方に適する。製茶は支那・日本の特產であつたが、その製品は歐米人の嗜好に適しない綠茶を主としたから、近年印度・セーロン・ジャワ等から盛に產出する紅茶の爲に壓倒された。英國はその領土である印度・セーロン島等から世界總產額の六割を產し、且英國は世界第一

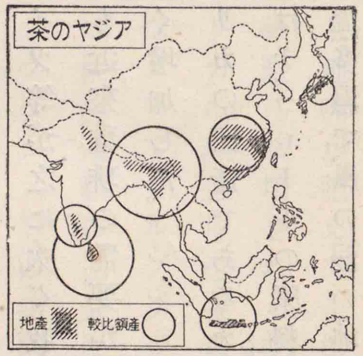
Green　Oolong tea（烏龍茶）
Black　Pouchong（包種茶）
Black（磚茶）

印度ではアッサムを主としベンゴールにも產する

圖解 セーロン島の茶園

輸出の九割は米國へ向けられるが綠茶の輸出は漸次減少した

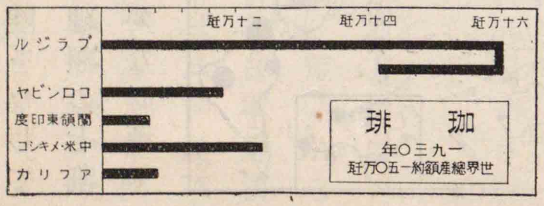




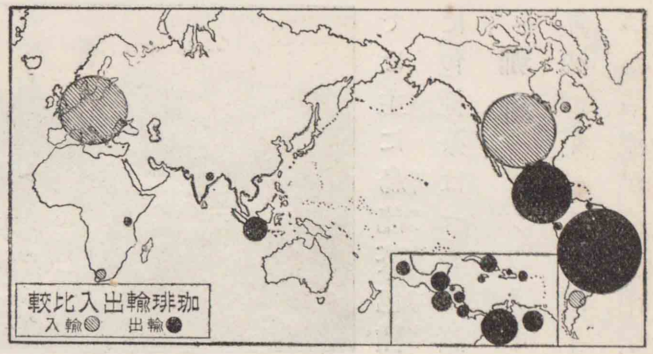
の紅茶消費國である爲、茶の取引は英人に握られてゐる傾向である。

　我が國では臺灣及び靜岡・京都・三重・鹿兒島・埼玉等の諸縣に栽培され、靜岡・三重の綠茶は、米國に對する重要輸出品の一であるが、近年紅茶に轉向せんとする傾がある。臺灣では主に烏龍(ウーロン)茶・包種(パウシユ)茶等に製造され、烏龍茶は多く米國に、包種茶はマレー諸島に輸出される。

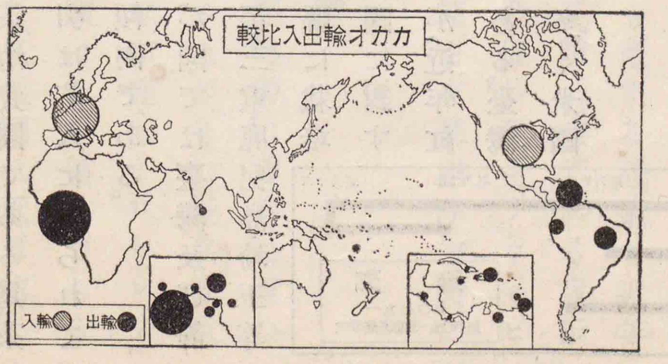
珈琲　アフリカの原產であるが、今は各地に傳つて、生產額は茶の二倍以上に達し、嗜好品中の重要なものとなつた。氣溫が高く雨量も豐で、且排水の良好な處に適する



から、珈琲園は熱帯多雨地の高臺・丘陵をなしてゐる處に發達する。ブラジルは世界總額の七割以上を出し、この輸出税は本國の主要な財源である。その他コロンビヤ・ベネズエラ・中央アメリカ諸國・ジャワ等にも産額が少くない。消費量の多いのは米國を第一とし、フランス・ドイツ等が之に次ぐ。我が國も近來珈琲の需要が著しく増加した。



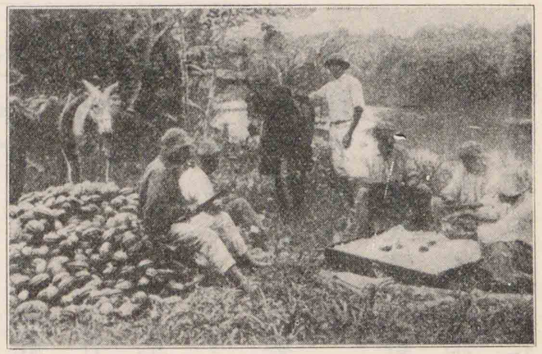
ココア Cocoa 熱帯アメリカの原産であるカカオ Cacao の實より採り、飲料或はチョコレートの原料とする。珈琲よりも更に高温・多濕で、風の弱い地に適



風が強いと果實を拂ひ落されるから強風の襲來する地方は不適當である西印度で山間・谷地にのみ植ゑられるのは風を避ける爲である

圖解 エクアドルに於けるカカオの採收
黄金海岸は世界の四割以上を出す

煙草には刻煙草・紙卷煙草・葉卷煙草・嚙煙草・嗅煙草等がある

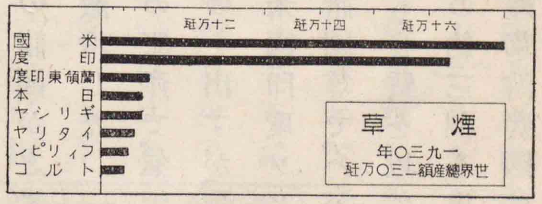


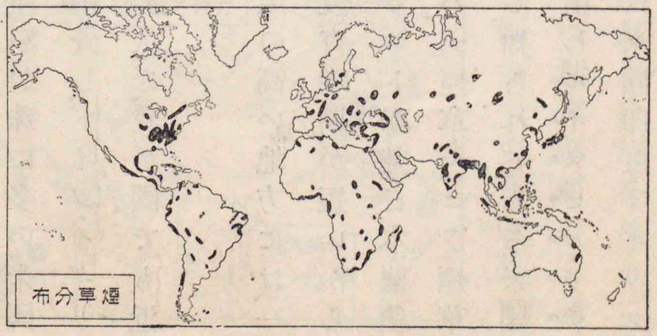
し、地味が肥えて土壤の深い處を好むから、多く平野に栽培される。熱帯アフリカ及び南・北アメリカの熱帯地を主産地とし、アフリカの黄金海岸・エクアドル・ブラジルは産額が殊に多い。米國は世界産額の三分の一を消費し、ドイツ・イギリス・フランス等の諸國が之に次ぎ、我が國でも近年その消費が激増した。

煙草 米國の原産で、氣温の高い地方には、一般に良質のものを出すが、發育時期が短いから温帯地方にも栽培される。主産地は米國・印度・ソビエト聯邦・日本・蘭領東印度・フィリピン・ブラジル・バルカン諸國等で、ハバナ煙草・マニラ煙草・エジプト煙草・トルコ煙草等は、何れも良質を以て知られてゐる。米國は世界最大の煙草供給國で、全産額の約三割を出し、ルイスビル・リチモンドはその取引の中心地である。煙草消費國は米國・印度・イギリス・

ドイツ・オランダ等で、米國・印度は主として自國産を充て、英國は多く米國から供給を仰ぎ、ロンドンはその中心市場である。

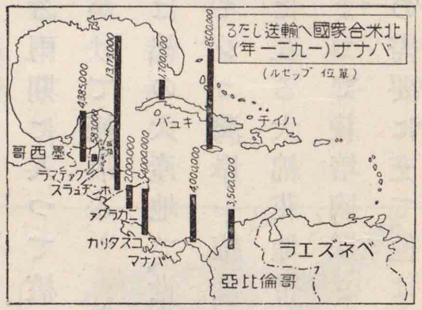
我が國は世界有數の產地で、栃木・茨城・鹿兒島及び朝鮮等に栽培されるが、品質は良好でない。煙草は政府の專賣で、民間から葉煙草を收納する外、米國・エジプト・フィリピン等からも原料を輸入する。製品及び葉煙草は輸出もあるが輸入もある。

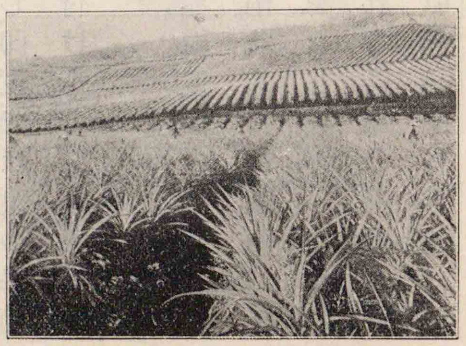




野菜及び果實　野菜は氣候・風土又は住民の嗜好により種類が甚だ多い。その性質上、消費地の附近で多く集約的に栽培してゐたが、近年輸送機關の發達につれ、新鮮のものを遠隔の地に送り、又果實と共に罐詰・乾製等の貯藏法も著しく進歩して、世界的商品たらんとする傾向がある。

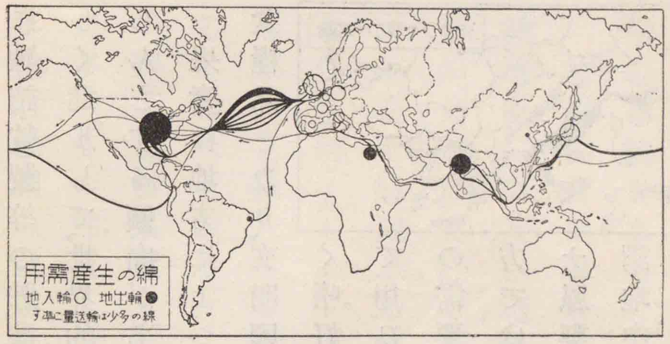
果實は地方によつて主要食糧品となり、文明國では多く嗜好品として用ひられ、その需要は益〻增加する。稍〻寒冷な地方では、主として苹果・櫻桃等を出し、熱帶地方ではバナナ・鳳梨等を始め、その種類が多い。地中海沿岸、その他所謂地中海式氣候の處は、一般に乾燥し、人工灌漑によつて柑橘類・葡萄・オリーブ等の良質なものを出す。我が國では臺灣の熱帶果實・中部の柑橘類・梨・葡萄、北部の苹果・櫻桃等が主なものである。




圖解 ハワイの鳳梨畑

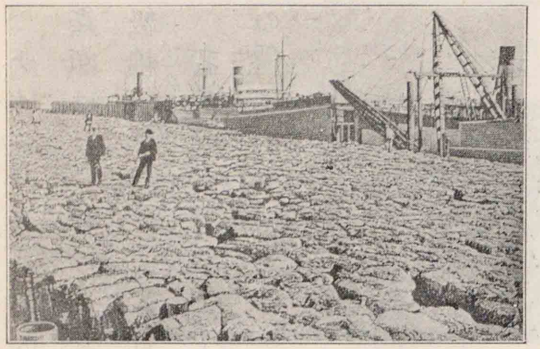
綿實から油を搾つて人造牛酪の原料ともする

第三節　農産原料品



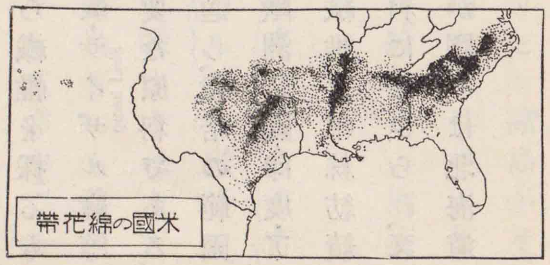
綿　繊維原料品として最も重要なもので、熱帯の原産であるが、漸次に馴化されて、今は北緯四十度、南緯三十度以内の地方に廣く栽培され、米國・印度・支那・エジプト等が主産地である。生育期には氣溫が高くて雨量が多く、收穫期には乾燥する處が好適なので、米國では春季に播種して夏秋(八月最盛)の候に收穫し、印度では夏の季節風による雨期に入つて植付けをなし、冬季から春季にかけて摘取る。

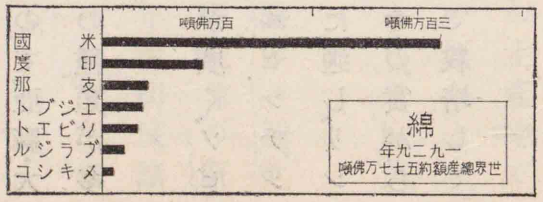
米國は綿の大產地で、世界總產額の半以上を占め、メキシコ灣岸一帶は、南北八百粁、東西二千四百粁に亙る大綿花地帶をなし、主として黒人の手によつて栽培摘採される。產額の三分の一を自國の需要に充て、他は歐洲諸國・日本等に送る。ニューオルリヤンスとガルベストンとは、その大輸出港で、ニューヨークは取引の中心地である。


圖解 米國ガルベストンの綿花積出

印度政府は近來盛に木綿工業を奬勵してゐるが土人は工場勞働に適しない爲發展は著しくない

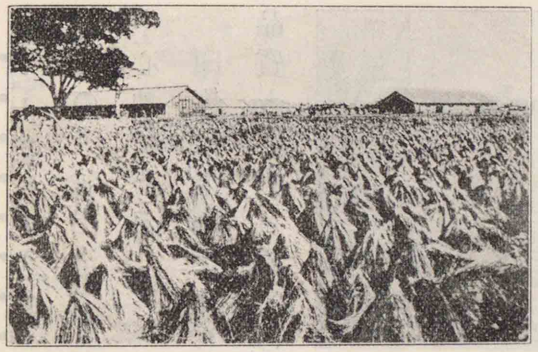
印度は米國に比して產額は遙に少く、品質も亦劣る。國內の紡績業も盛になつたが、大部分は綿花の儘で輸出され、我が國は實にその三分の一以上を輸入する。主產地はボンベー背後の高臺で、ボンベーから積出すものは全輸出の九割を占める。





支那では揚子江流域から山東方面に亙つて產出し、品質は宜しくない。近年紡績業の勃興により、大部分は自國紡績の原料とする。

內地では中國その他に栽培したが今は產額が極めて少い


圖解 亞麻の乾燥(北海道石狩平野)

ナイル河の三角洲は、綿花栽培の最好適地で、良質のものを出すが、產額は多くない。アレキサンドリヤから多く英國に仕向けられ、又高級綿絲原料として日本へも輸出する。

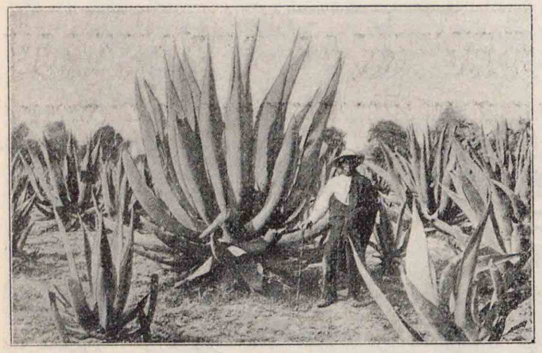
我が國は朝鮮を主產地とするが、紡績工業の發達につれ國內消費の僅に一割を充たすのみで、繰綿は常に輸入品の第一位を占める。

麻 莖又は葉から纖維を採るもので、亞麻・大麻・苧麻・黃麻・マニラ麻(Manila hemp)・サイザル麻(Sisal hemp)等の種類が多く、麻布綱具等の重要な原料である。

亞麻は溫帶地に適し、栽培の範圍が廣く、ソビエト聯邦その他の歐洲諸國・印度・アルゼンチン等を主產地とする。纖維は細絲紡績に適し、リンネル・レース等の原料に用ひられ、又その實から亞麻仁油を採る。我が國では北海道で栽培してゐる。

マニラ麻は芭蕉に似た植物の包皮から採るものであるがマニラを市場とするからこの名がある

サイザル麻はメキシコのサイザル港から積出すからこの名がある


圖解 サイザル草の畑(メキシコのユカタン地方)

マニラ麻はマレー地方に多く產し、フィリピン諸島がその主產地である。マニラから英・米等に輸送し、又我が國も綱具・眞田等の原料として、多量の輸入を見る。よく水に耐へるから、船舶用の綱索とし、又麻眞田の原料とする。

サイザル麻は、メキシコ半乾燥地方の原產である龍舌蘭の一種、サイザル草(ヘネケン)の葉から採る纖維で、綱・袋等の原料として、多く歐米に輸出される。近年西印度諸島・アフリカ・マレー諸島等にも移殖されて、成績が頗るよく、我が臺灣でも試作中である。

大麻は生產區域が極めて廣く、ソビエト聯邦その他の歐洲諸國・支那・米國・日本等に產し、殊にソビエト聯邦は世界總產額の約二分の一を出す。用途は麻絲・麻布・網・蚊帳・綱索・ヅック等の原料に供する。我が國では栃木・廣島・長野等をその主產

英國のダンヂーは黄麻工業が甚だ盛である

地とし、品質は優良である。

黄麻は熱帶の原産で、印度のガンジス河平原に多く栽培され、纖維中最も廉價であるから、包袋の原料として、歐洲を始め各地に輸出せられ、カルカッタは世界第一の市場である。我が臺灣にも産するが、印度からの輸入も少くない。

苧麻は支那草とも呼ばれ、支那・印度・北米・南米等に産する。我が國にも産するが、支那からの輸入が多い。纖維が細長く强靭で、上布類の原料とし、又耐水力に富むから、帆布・網等に製造される。

第二章　牧畜業及び蠶業

第一節　牧畜業

家畜は纖維原料・皮革及び食糧品等を供給し、或は運輸の機關として人類に寄與貢獻する所は極めて大きい。家畜の種類は多いが、最も重要なのは羊・牛・馬・豚等である。此等の家畜は、氣候の制限を受けること

濠洲の牧羊場

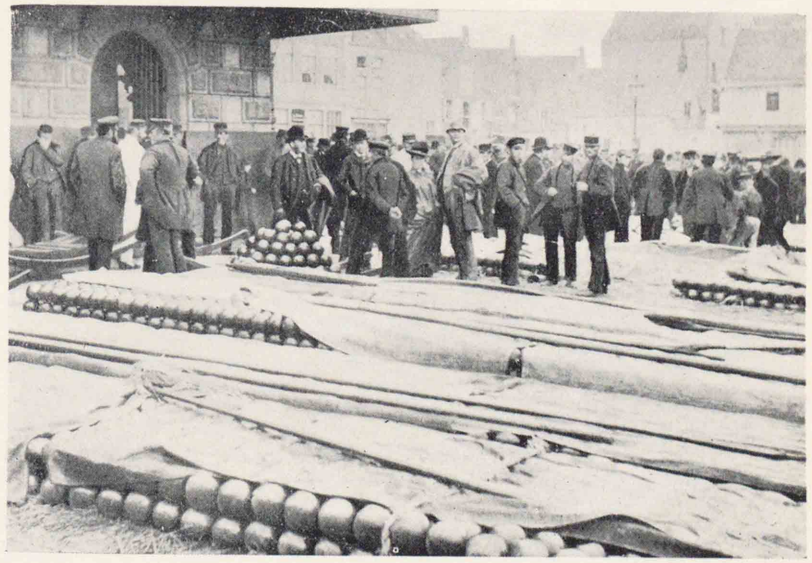
さすがに世界第一の羊毛産地その規模の大きなことが察せられる

ウルグァイの牧牛

草原が廣く野獸の害は少く牧畜には理想地といはれてゐる

スエーデンの馴鹿

馴鹿は歐・亞等の北部寒地で飼養せられ住民唯一の資産となつてゐる

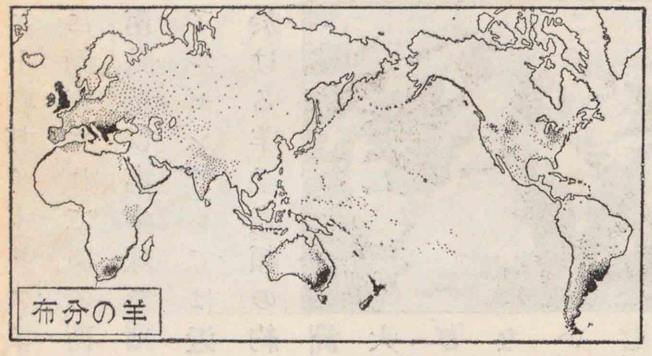


オランダの乾酪市場

大砲彈のやうな形をした赤い乾酪の球が無數に積まれてゐる

米國・イギリス・フランス・ドイツ・ベルギー等は世界の主要な羊毛消費國である

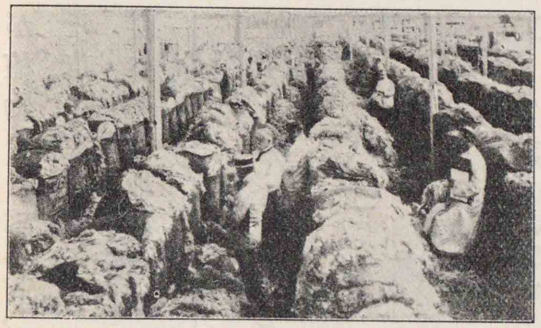
が植物よりも少く、殆ど世界到る處に飼養されてゐるが、牛・羊・馬の如き牧草を主食とする家畜は、概して氣候の稍々乾燥する地方に適する。溫暖・多雨の地には、草の繁茂は盛であるが、牧草としては粗剛に過ぎ、好適でないからである。又平野が廣く、人口の疎な地方は、大規模の牧場に適し、毛用・肉用を主とするものが多く、人口の密な地方、又は山岳の多い地方では主に乳用・肉用で、飼育の規模が小さく、農家の副業となつてゐるのが多い。



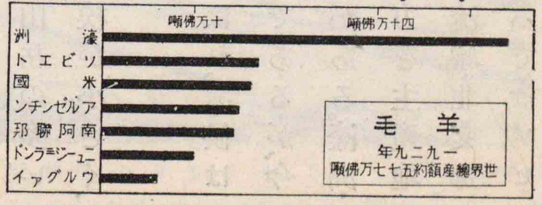
羊の分布

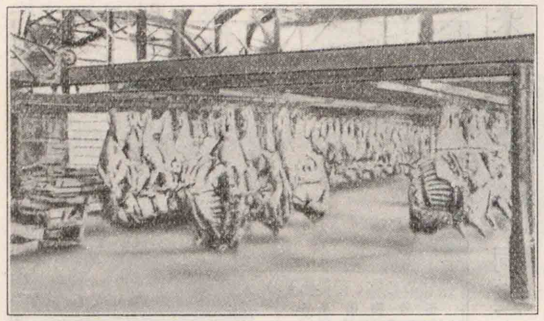
羊 中央アジヤ山地の原産といはれ、氣候は涼しく、且乾燥の地方に適する家畜であるが、今は亞熱帶の草原地方にこの大牧場がある。濠洲・南・北アメリカ・アフリカ等の草原地方を主産地とし、アジヤでは印度のインダス河流域・北支那及びイラン高臺等に飼はれ、ヨーロッパではソビ

英國は肉羊の良種を産しイスパニヤは毛羊の優種を出した


圖解 シドニーの羊毛蓄積場

エト聯邦・イギリス・イスパニヤ・フランス等を始め、到る處に飼育されてゐる。西歐及び北米は肉羊を多く飼ひ、東歐・南歐及び南半球では毛羊を主とするが、ニュージーランド・アルゼンチンでは近年肉羊が多くなつた。濠洲は世界に於ける羊毛産額の約三分の一を出し、その五分の三は歐洲諸國に輸出され、シドニーは取引の大中心地である。米國はロッキー山地及びその東麓を主産地とし、毛羊も少くないが、羊毛は需要を充たすに足らない。南米ではアルゼンチン・ウルグヮイ等を主産地とし、毛及び肉を佛・獨・白等の諸國に輸出する。アフリカは南阿聯邦を主産地とし、英國を主として歐洲諸國に羊毛を輸送し、その輸出額は世界の第三位を占める。

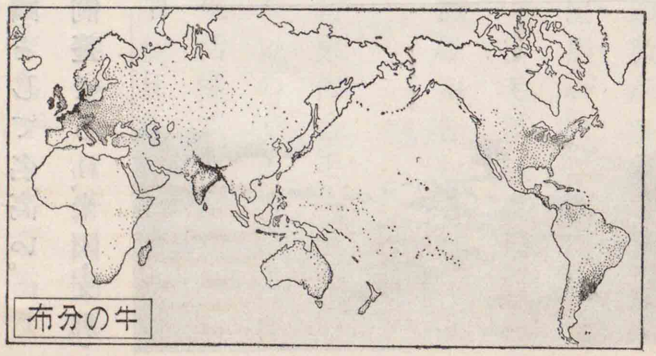



圖解 シドニーに於ける冷藏庫內の牛肉

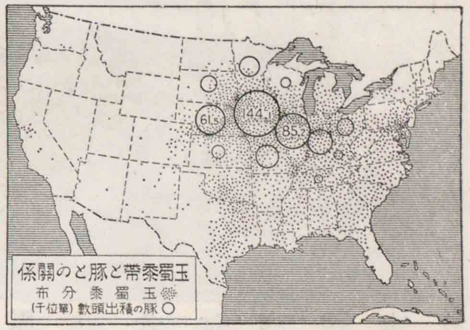
牛

牛は氣候に對する抵抗力が強いから、その分布は廣く、用途も肉・皮革・乳製品を供給し、又勞役に用ひられ、極めて重要な家畜である。歐洲諸國・北米中部・南米溫帶地方及び印度等は主要な牧牛地である。

印度は頭數に於いては世界の首位にあるが、品種が劣り、且宗教上の關係から肉を食はず、耕耘運搬に使役するに過ぎないから、牛皮の外は、商品としての價値が少い。米國は肉牛を大平原の草地に飼つて、玉蜀黍帶を肥育地とし、乳牛を大湖地方に養つて、肉製品・乳製品等を輸出する。南米ではパンパ地方に肉牛が多く、


牛の分布

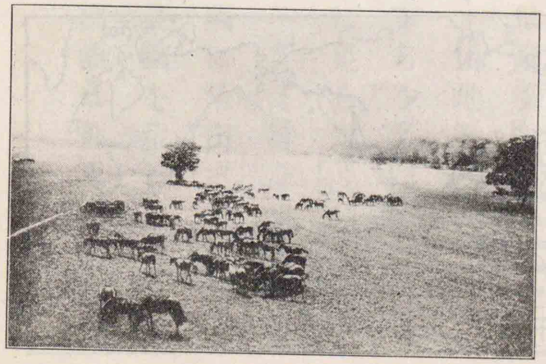
圖解 馬の牧場（北海道



歐洲に對する肉・皮革の主要供給地である。歐洲の東部では肉牛を主とするが、中部以西は乳牛が多く、盛に酪業を營み、デンマーク・オランダは牛酪、スイスは乾酪の輸出國として名高い。

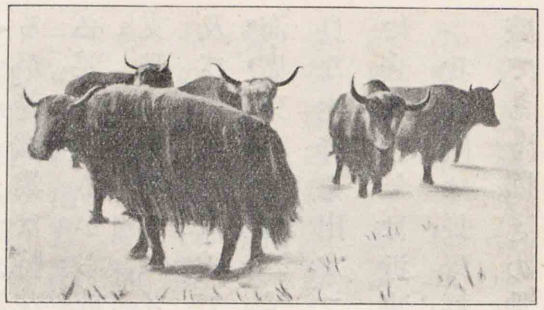
豚 一般に肉用として飼養せられ、米國・支那・ドイツ・ブラジル等を主産地とする。豚は粗食で穀物・草根等を主食とするから、米國に於ける飼養地域は、玉蜀黍帶と一致し、歐洲の飼養地は、馬鈴薯又は大麥の分布と一致してゐる。

馬 駄用として交通・運輸を助けるのみならず、軍事上の必要もあるから、文明國では多く特別の保護を加へてゐる。ソビエト聯邦・米國・アル



驢・騾等も馬の一種で主に運搬用に使用される

圖解 西藏高原の犛牛



ゼンチン・ブラジル等はその頭數が多い。

此等の外、駱駝(沙漠地方)・犛牛(西藏)・駱馬(アンデス山地)・馴鹿(寒帶地方)等は駄用として、山羊(印度・南阿・小アジヤ・蒙古)は毛及び皮革用・乳用として、アルパカ(アンデス山地)は纖維用として、何れも地方的に重要なものである。

日本の牧業 我が國民は古來肉食毛衣の習俗がなく、且風土も牧畜に適しないので、その規模は遠く列國に及ばないが、近年生活樣式の變化と共に、畜産品の需要が著しく增加し、且各種の保護・奬勵が加へられて、進歩の跡は著しい。然し我が國の地形・人口等の關係は、到底大規模の牧畜を許さない狀態にあるが、豚・家禽等の小家畜は副業的に廣く行はれ、北海道・奧羽等には酪業發展の緒を開いてゐる。牛は中國・九州及び朝鮮等に多く、臺灣では水牛・黃牛を飼育し、馬は北海道・奧羽・九州等を主産地とし、豚は臺灣・沖繩等に多いが、肉類・皮革及

室内の加温裝置が施し得られるから相當に寒い地方でも飼育される

び乳製品等は、尚多額の輸入を仰いでゐる。羊毛の需要激增につれて、羊の飼育に保護・獎勵を加へてはゐるが、尚微々たるもので、濠洲・南阿及び支那等から輸入する羊毛は頗る多い。

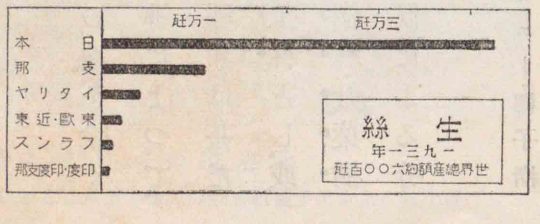
第二節　蠶業

蠶は溫暖で、濕潤に過ぎない氣候に適し、桑の成長は廣い範圍に亙るが、養蠶業は特殊の經驗と技能とを要し、且短期間に多大の勞力を必要とするから、或局部に制限される。世界最大の養蠶國は日本及び支那で、歐洲ではイタリヤに盛である。支那に於ける主產地は揚子江及び珠江の流域で、生絲は主として米國及び歐洲方面に輸出され、上海・廣東はその二大取引地である。イタリヤではポー河流域に盛で、優良な生絲を出す。フランスも嘗て主要の養蠶國であつたが、今は大いに衰へ、近年は近東諸國にその飼育が盛になつた。

我が國は長野・群馬・愛知・岐阜等の諸縣を主とし、丘陵・盆地の地方に盛である。卽ちこの地方は、農業に好適でない爲に、土地の利用上、桑を植ゑて養蠶を行ふのを有利としたのが一因であるが、今は平野の地方にも盛となり、長野縣の生絲は、內地全產額の約四分の一を占める。我が國は世界第一の生絲產國で、世界全產の約七割を出し、その中の約二割五分を國內で消費し、他の七割五分を海外に輸出する。從つて生絲は、輸出品の首位を占める。輸出先は米國を第一とし、又フランスを主とする歐洲諸國への輸出も少くない。米國は世界第一の生絲消費國で、然も自國には產しないから、世界產額の約六割を買入れる。近年人絹の工業が興り、生絲はその爲に多少の壓迫を受ける傾向もあるが、素より品質に格段の相違があり、生絲には生絲の特長がある。

米國で消費する生絲の約八割は日本から輸入する

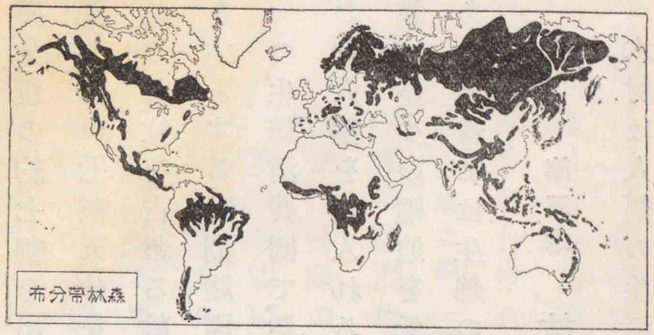
蠶絲と人絹との關係に就いては所說が區々で或は蠶絲に對する脅威であるといひ或は却つて蠶絲の需要を增すものとも見られてゐる



第三章　林業

木材は人類の生活に缺くべからざるもので、家屋の建設から諸器

具・船車等の製造に至るまで、その材料を之に仰ぐことが多く、又燃料としても廣く用ひられる。文化の進むにつれて、此等の用途は次第に他の材料に變移する傾向はあるが、更に工業原料として種々の新用途が開け、木材の需要は益々擴大されて來た。



森林帶分布

森林分布　森林は極寒及び極乾の地を除く外、地球上到る處に散布し、氣候・風土等によって、各固有の樹種を有するから、木材の種類は甚だ多い。森林は林相によって、自然林・人工林とし、或は樹種によって落葉樹林・常綠闊葉樹林・針葉樹林に分ける等、幾多の分類があるが、最も地理學的なのは氣候による分類で、次の四大別がある。

熱帶林　主として兩回歸線內の地を占め、紅樹・林投樹・マホガニー・椰子樹

オタワ河の木材の筏

多數の小筏は繋がれて一大筏となり汽船に曳かれて流れ行く

北海道のパルプ工場

苫小牧にある王子製紙會社の工場で累々たる木材はその原料である

森林の分布は下記のやうに水平的にも區分されるが同樣に垂直的にも區分される卽ち熱帶でも高度を增すと共に漸次各帶の樹種を見るからである

等の材質の堅い常綠闊葉樹が多い。我が國では琉球の南半から臺灣に至る地帶が之に屬し、榕樹林投樹・芭蕉等が生育する。

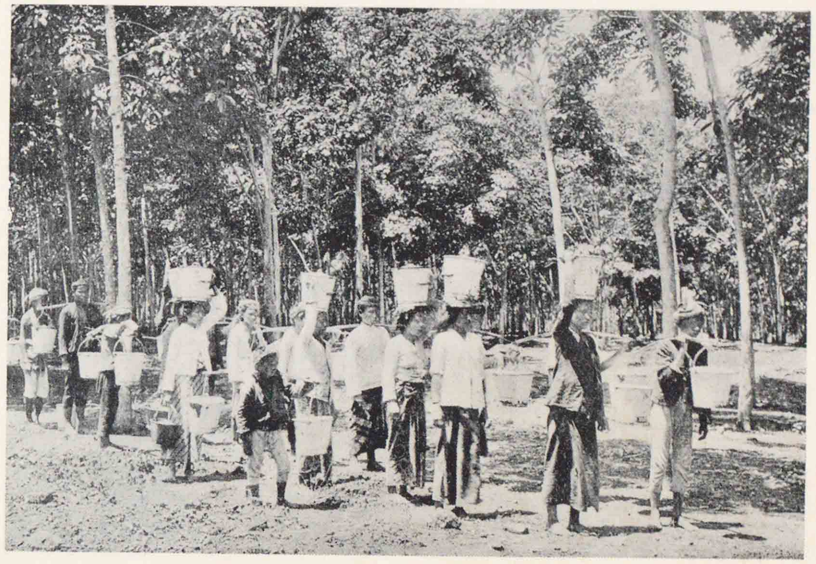
暖帶林　回歸線から南北三十七度邊に至る常綠闊葉樹で、樫・樟等を主とし、オリーブ・チーク等もこの森林帶に屬する。我が國では本州の南半に亙り、樟・樫・椎・楢等がある。

溫帶林　アジヤ・北アメリカでは北緯四十五度、ヨーロッパでは六十度に達し、山毛欅・楡・槲等の落葉樹、松・杉等の針葉樹を含む。我が國では、本州中部から北海道の西南部に亙り、檜・椹・杉等の建築用材を供給する。

寒帶林　アジヤ・北アメリカでは北緯五十五度、ヨーロッパでは七十度に達し、シラベ・蝦夷松・落葉松等の針葉樹があつて、建築土木用材の外、パルプ原料となるものが多い。我が國では北海道・樺太・朝鮮等が之に屬する。

林產物　斯の如き森林帶には各〻特有の林業が發達してゐる。熱帶性の樹木は、材質が堅緻で、家具・裝飾器具等の原料に適し、暖帶林の樹木にも、建築用の良材は多いが、產業上最も重要なものは、溫帶林の建築用材、寒帶林のパルプ原料等である。

現今木材の世界的供給地は、米國及びカナダで、歐洲及び東亞方面



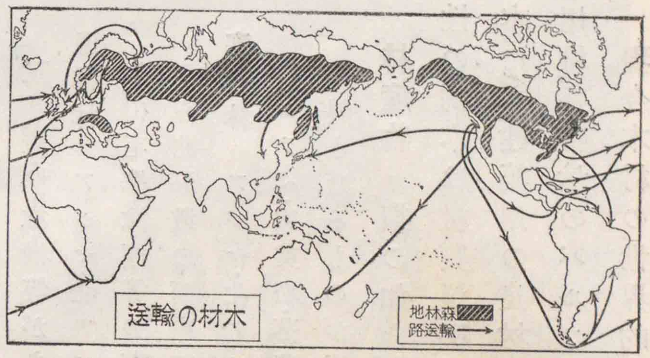
マレー地方の護謨林

採集した護謨液の容器を頭に載せ又は手に提げて工場へ運ぶ

臺灣の樟樹

造林された樟樹の並木通で今は造林計畫が着々と進んでゐる

への輸出額が頗る多い。我が國に輸入される木材は、主に太平洋岸の地方から伐採する針葉樹で、俗に米材といはれるのは、この地方のオレゴンパイン(Oregon Pine)・ダグラスファー(Douglas fir)等を總稱するものである。歐洲ではスカンヂナビヤ・バルチック沿岸地方より東方に亙る一帶を主要林産地とし、フィンランド・ノルウェー・ポーランド等は林産が主要の輸出品で、ソビエト聯邦もその産出が多い。獨墺は林制の整備してゐるので聞えてゐたが、大戰の爲に濫伐し、その回復には尚時日を要する。その他原始林として將來に待つものは、アマゾン河流域の熱帶林及びシベリヤ・滿洲國の針葉樹林等である。



木材の輸送

圖解 ドイツの森林

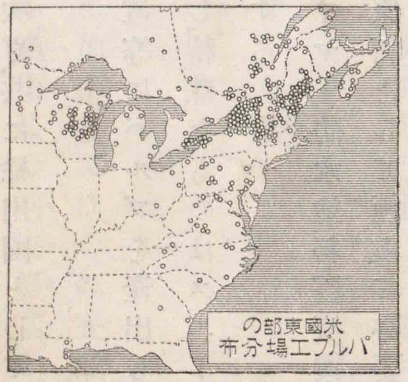
林業の發達は運輸機關の整否に關係することが極めて大きい

我が國の氣候風土は植物の生育に適し、全面積の半以上は森林である。臺灣には熱帶暖帶溫帶に屬する森林があるが、重要なのは山中の針葉樹と樟樹である。木曾・熊野・秋田・津輕等は檜・杉・椹・羅漢柏等の溫帶林で知られ、北海道・樺太・朝鮮には寒帶林の富源がある。然し地形が一般に峻しく、運搬に困難であるから木材が不廉となり、米國及びシベリヤ等から建築材の輸入が頗る多い。

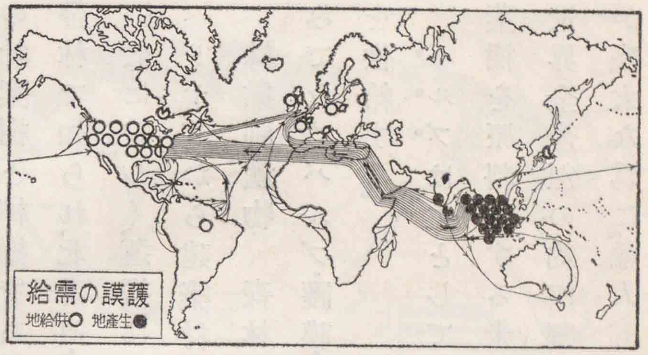
林業副産物 森林は啻に木材を産するのみでなく、パルプ・護謨・樟腦の如き有用な商品を供給する。

・パルプ・ パルプは主として溫帶林及び寒帶林の針葉樹を原料とする。米國はその製造が最も盛で、世界全産額の約四割を占めてゐるが、製紙業が盛大な爲に、輸入も亦頗る多い。カナダ・スエー

パルプを製紙原料に供することは一八六七年始めて米國に行はれその爲に北アフリカのアルファ草は大打撃を受けた


米國東部のパルプ工場分布

アラビヤ護謨はステップ地方に産する樹脂で糊として用ひられる



デン・ノルウェー等は之に次ぎ、共に輸出國として知られてゐる。

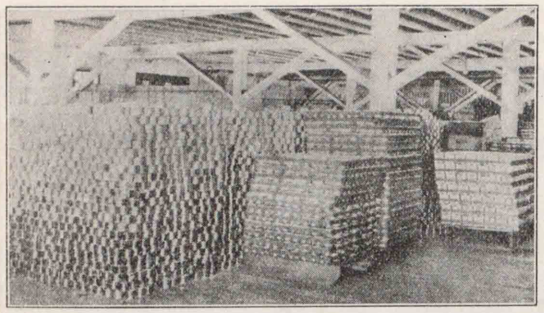
我が國では樺太・北海道等にパルプを産出して、略内地の需要を充たし、特殊なものはスエーデン・カナダ等から輸入する。

護謨は各種車輛のタイヤー・防水塗料・醫療機械、その他日常生活品の原料として極めて必要なものである。護謨の原料植物は、その種類が極めて多いが、現在商品として最も重要なのはマレー地方の栽培護謨で、南米から移殖したものである。目下世界需要の大部分は此處から産し、生護謨の儘シンガポールから米・英その他に輸出される。ブラジルのアマゾン河

樟腦は防腐・除蟲剤として用ひる外セルロイドの原料、火藥の安定劑とする等その用途が極めて廣い

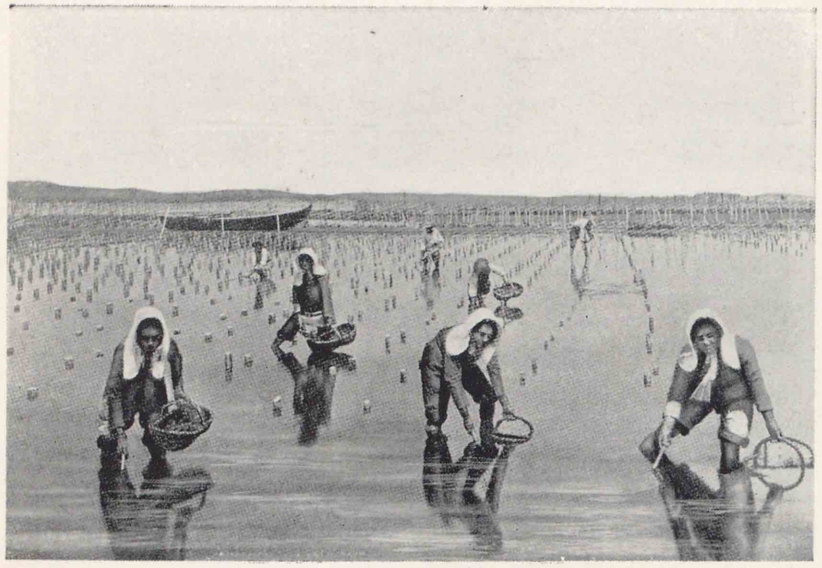
流域（パラ護謨）・メキシコ及び中央アメリカ・アフリカ等の熱帯林も、天然護謨の産地として知られる。世界最大の護謨消費國は米國で、實に全産額の半を輸入し、その半は自動車のタイヤーに使用される。それに次ぐのは英・獨・佛・カナダ・日本等である。

樟腦は樟樹から採る。樟は臺灣を主とする本邦南部の特有植物で、樟腦は臺灣に於ける重要産物の一として、總督府の專賣に屬し、世界需要の過半を供給する。近來樟腦の化學合成法が發見せられ、樟腦産國たる我が國は、之が爲に打撃を受けることが少くないが、我が樟腦の聲價は依然として下らない。


圖解 米國の罐詰工場

第四章　漁業

水生物を漁獲し、或は之に加工し、又はその養殖を行ふを一般に漁業といふ。漁業には河湖漁業と



フランスの牡蠣養殖地

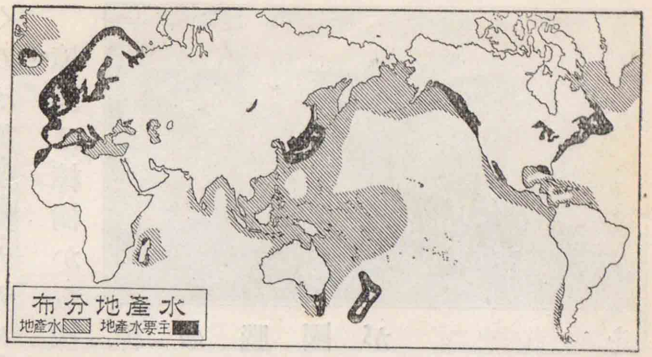
ビスカヤ灣岸のガロンヌ河口に近い處で大規模な養殖地である

膃肭獸の群

膃肭獸の繁殖保護地として世界的に著名な樺太海豹島の一部

魚介は貯藏法の進歩(冷凍・鹽藏・乾製・燻製・罐詰)と交通機關の發達とによつて販路が大いに擴張され重要な食糧品となつた

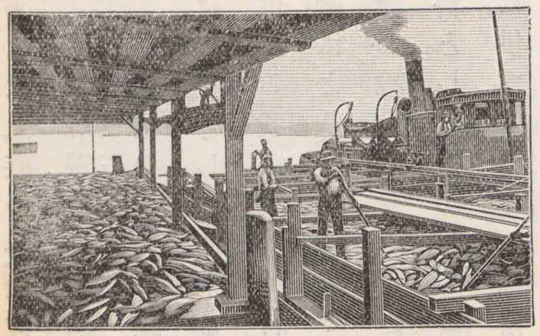
近年は貯藏法の進歩により熱帶の海洋及び南極洲附近にも漁業が行はれるやうになつた



海洋漁業とがあり、海洋漁業にも沿海漁業・遠洋漁業等の別がある。海洋は地球表面の約四分の三を占めてゐるが、その總てが漁業に適するのではない。即ち魚族の棲息は海流・水深・水質等と密接な關係があるからである。暖流と寒流とは棲息する魚族を異にするから、兩流の會する邊は、その種類が最も多い。又魚類は深海に少く、陸棚の發達した處に多く集る。淺海は浮游生物が多く、食餌が豐であるのと、海藻が繁つて、安息所となる爲である。加ふるに産卵期には、魚族の多くは海岸に集合するから、漁業は一般に陸棚の發達した寒溫帶の海岸に盛である。陸棚の廣く發達してゐる處は、スカンヂナビヤ半島からフランスに亙る北海地方、ニューフォンドランドを中心とする地方及び日本列島の東北部で、何れも漁業が盛に行はれ、世

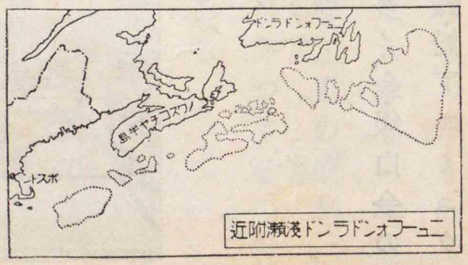
圖解 捕獲した鮭
（カナダの西部

膃肭獸は日・英・米・ソの四國で條約を設け保護を加へてゐる



界の三大漁場と稱せられる。國別水產額は日本が第一で、米・英・ノルウェー等が之に次ぐ。

北海漁場は鰊・鱈・鯨等の漁獲が盛で、グリムスビー・ベルゲン・コペンハーゲン・アムステルダム等はその中心である。ニューフォンドランド漁場は鰊・鱈を主とし、セントジョンスはその中心漁港で、米國の東北岸には、牡蠣・鰕等の漁獲が盛である。日本漁場の北部は、鱈・鰊・鮭・鱒及び蟹等を主として、又海藻に富み、南部には鰮・鰹・鮪・鰤等が多い。

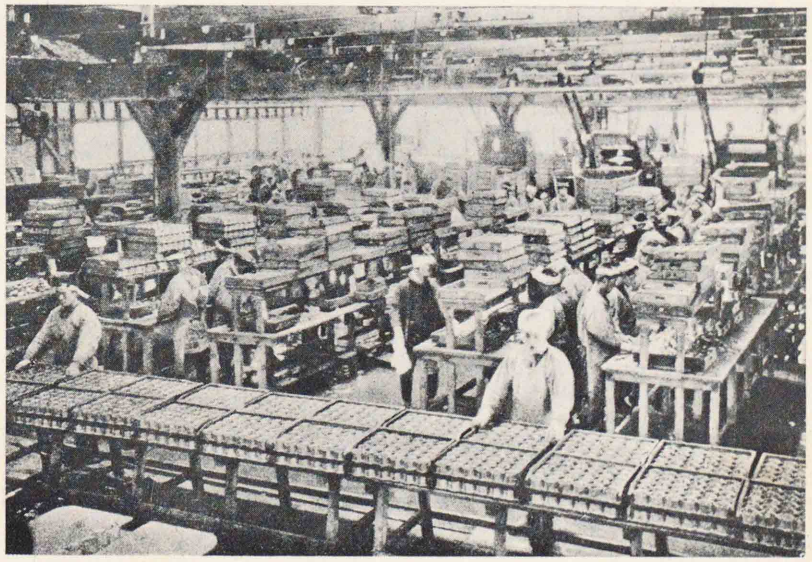


ニューフォンドランド淺瀨附近

日本漁場の北部からベーリング海峽に至る地方には、海豹・膃肭獸等が多く棲んで、良好の毛皮を供する。プリビロフ諸島・コマンドル諸島・海豹島は、膃肭獸集合の三大中心である。溫暖な地

北洋漁場の鮭

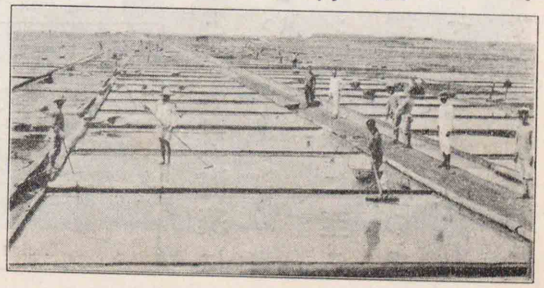
漁獲した無數の鮭を濱から運び込んでゐる日露漁業會社の工場



罐詰工場

適當の大きさに切られた鮭の肉を多數の人夫が罐に詰めてゐる

圖解 鹽田



方には魚族の外、裝身具として貴重される珊瑚（日本・イタリヤ）・眞珠（木曜島・日本）・鼈甲（セレベス）等の産がある。

海産物の一種に食鹽がある。歐米の主要國では、主に岩鹽として産するが、地中海岸では天日製鹽が行はれる。我が國には岩鹽がなく、内地では全く火力製鹽により、臺灣・朝鮮では天日製鹽を行つてゐるが、食鹽の輸入は少くない。食鹽は食用の外、化學工業の原料として大切なものであるが、我が國では、工業原料に供するまでの餘裕がない。

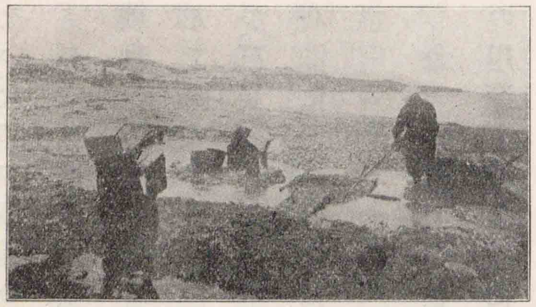
第五章 鑛業

第一節 鑛業の現況

地殼の中に埋藏されてゐる鑛物は、種類が極めて多く、金・銀・白金の如く貴金屬として裝飾用に供されるものもあり、銅・鐵・鉛・アルミニウムの如く、實用鑛物として專ら機械・器具等の原料とされるものもある。非金屬鑛物中には、石炭石油の如く、燃料として重要なものもあり、建築石材としてその用途の廣いものもある。その他化學工業の原料（加里鹽・岩鹽・硝石等）となり、或は寶石として珍重されるものなどがあつて、その利用は遠く太古から行はれ、將來も益々盛ならんとしてゐる。

此等の鑛物は、殆ど全部地中に含まれる天惠の富源で、人力で如何ともすることは出來ない。鑛物は概して氣候・風土等の影響を受けることが少く、鑛業の運命は全く埋藏量によつて決定される。然し金屬は純粹な物質として存在することは極めて稀で、多くは化合物として採掘され、その製錬には深奧な學理と、熟練した技術と、更に豐富な資本とを要するから、相當に文化の進んだ地方でなければ、埋藏は豐富でも、鑛業の發達を見ることは出來

圖解 砂金採集（河底の土砂を採つて水に流しネコと呼ぶ蓆に砂金を沈溜せしめる法で之をネコ流しといふ

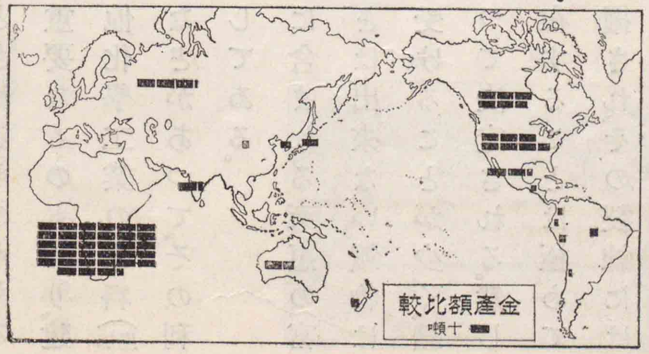


支那・印度等では蓄積死藏する額も少くない

ない。大陸中、鑛業の最も盛大なのは北米で、南米も近年著しく發達し、ヨーロッパ洲は既に全盛を過ぎたかの感がある。アフリカ・濠洲等は、實用鑛物の産出が割合に乏しく、アジヤ洲も埋藏は豐であるが、採掘は進んでゐない。我が國は鑛物の種類に乏しくないが、石炭の外には輸出を見るものは少く、殊に鐵・石油に乏しいのは遺憾である。

第二節 鑛産物

金 美術工藝・貨幣鑄造・兌換紙幣正貨準備等の用途を有し、殊に文明國は、何れも金貨本位制を採用してゐるから、その價格は物價の標準となる。又金の散逸は、國家財政の基礎に影響するから、その輸出を禁止することも少くない。國内でも貨幣の流通は極めて少額で、大部分は中央銀行に貯藏されてゐる。



全産額を領土別にすると英國が第一で約七割を占め米國が之に次ぐ

日立・佐賀關は買鑛によつて製錬する

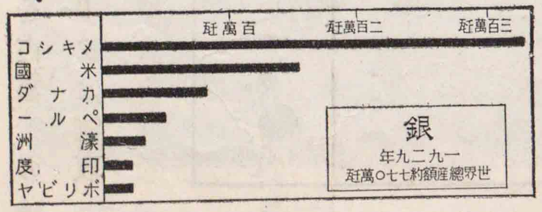
銀は相場の變動が少くないから銀貨本位制には種々の弊がある

銅の合金に黄銅・青銅・赤銅・白銅等があつて用途が甚だ廣い

世界の主要な金産地は、南阿聯邦・米國・カナダ・ソビエト聯邦・メキシコ・ローデシヤ・濠洲等で、我が國では大分(佐賀關)・茨城(日立)・鹿兒島(三井串木野)等の諸縣及び朝鮮(雲山)・臺灣(金瓜石)等より産するが、その額は多くない。

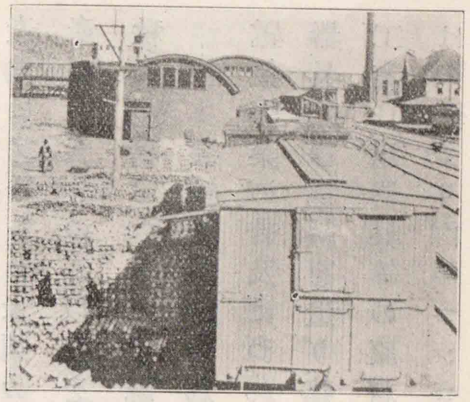
銀 金と殆ど同樣の用途を有し、貨幣鑄造・美術工藝等に用ひられ、支那は銀貨本位制の上に、印度と共に財寶として之を蓄積する風があつて、共に世界に於ける二大需要國である。銀の世界的大産地はメキシコ・米國・カナダ・ペルー等で、メキシコは世界産額の五分の二以上を出す。我が國では茨城(日立)・大分(佐賀關)・秋田(小坂)・栃木(足尾)等の諸縣が主要な産地である。

銅 製錬が容易な爲、人類は早く之を利用したが、近年電氣事業の普及につれて、需要が益々增加し、主として電氣器具及び電線を造り、建築・造船・貨幣等の材料を始め、化學工業・日用器具等の原料としても用途が甚だ廣い。主産地は米國・チリ・白領コンゴ・カナダ・日本・メキシコ・ペルー等で、



世界大戰まではロンドンが世界的の中心市場であつた

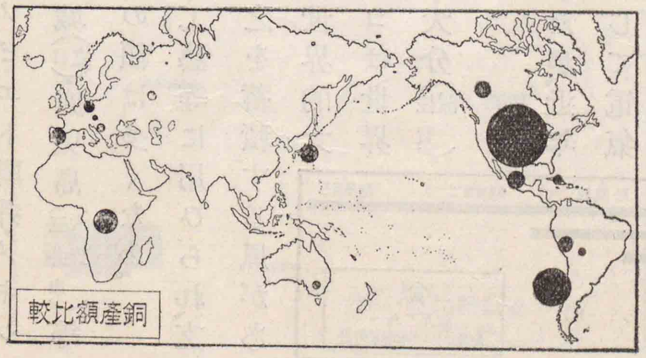
圖解 銅の積出（スペリオル湖畔の光景



就中米國は世界全産額の半以上を占め、その消費も亦第一であるから、ニューヨークは銅取引の世界的中心地である。

我が國は世界有數の銅産國で、栃木(足尾)・愛媛(別子)・茨城(日立)・秋田(小坂)・大分(佐賀關)の諸縣が主産地である。嘗ては重要の輸出品であつたが、工業の勃興につれて、その需要が激増し、今では殆ど自給の程度である。

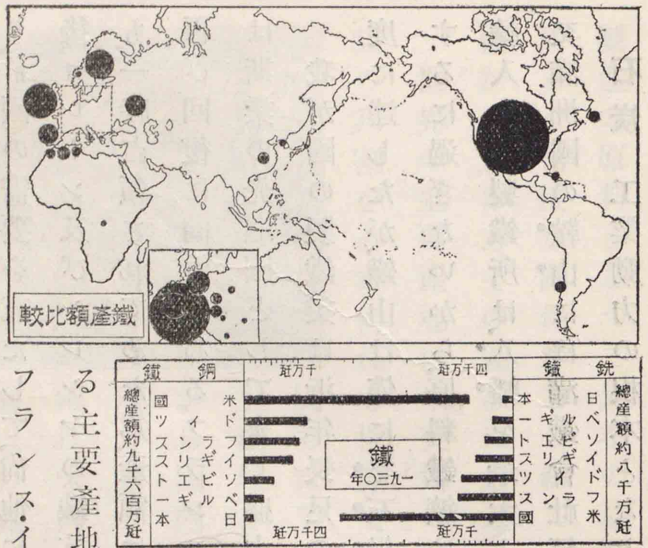
鐵 鐵鑛を冶金したものを銑鐵といひ、之を再製して鋼鐵を造る。大小の機械を始め、船車・兵器・建築・土木等には鋼鐵を原料とするものが甚だ多く、軍事上にも亦極めて重要である。されば



支那も鐵の埋藏量は多い

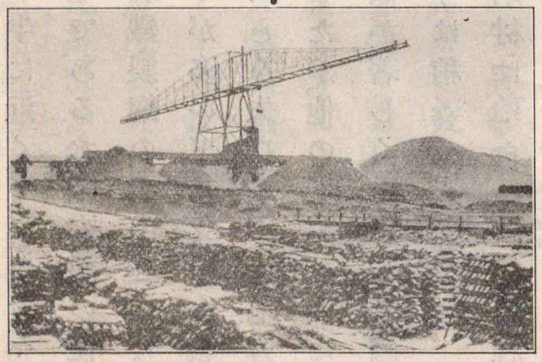
スエーデンでは近來水力電氣を利用して製鐵業が盛となりイスパニヤでも亦製鐵事業が興つた

圖解 米國ペンシルバニヤの鐵材積出



現代は鋼鐵時代ともいはれ、國家の富力・産業の發展等は大いに鐵の産額に左右される。鐵の製錬には壯大な設備と、豐富な石炭及び潤澤な資本とを要するから、製鐵業は此等の條件を具備する地方に盛である。

世界に於ける主要産地は米國・ドイツ・フランス・イギリス・ベルギー等で、スエーデン・イスパニヤ等も鐵鑛の埋藏は豐富であるが、石炭の産出に乏しく、鑛石の儘で輸出するものが多い。



ピッツバーグにはユー、エス、スチール會社がある

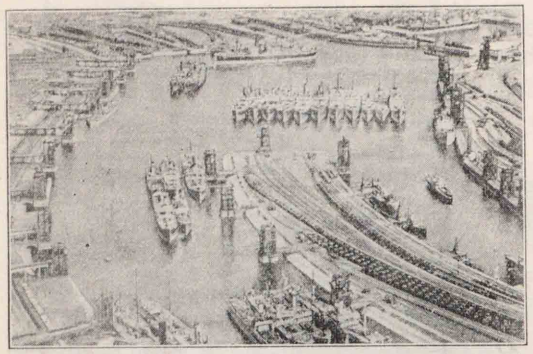
米國から産する銑鐵・鋼鐵は、共に世界全産の半に近く、アパラチヤ山地とスペリオル湖西とが、その鑛石の主産地である。水陸交通の便と、世界無比の炭田とを有するピッツバーグは、製鐵製鋼の大中心となり、自國の需要を充たして、尚他に輸出するものが多い。ドイツは大戰後、ロレーン及びシレシヤの鐵坑と、ザール炭田とを失ひ、ルール地方も一時占領されてゐた爲、産額は大いに減少したが、他の産業と共に再び回復に向つてゐる。フランスは大戰後産額が著しく增加し、英國は斯業の先進國として永く盛大を極めたが、今は稍衰退してゐる。

我が國の製鐵業は近年長足の進歩をなし、鋼材は殆ど自給し得る程度に達したが、鐵山は僅に釜石・倶知安等の外、朝鮮に載寧・殷栗等を有するに過ぎないから、原料鐵鑛はマレー半島・支那及び滿洲國等から輸入する。製鐵所は八幡を最大とし、室蘭・釜石・兼二浦等にも設けられ、又滿洲國の鞍山には滿鐵會社經營のものがある。

石炭の使用は次第に過去のものたらんとし今は石油時代に入つたといはれるが石油の生産量は未だ石炭の二十五%に過ぎない

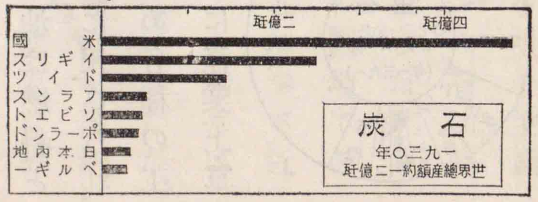
石炭は成生の時代によつて無煙炭・黒炭・褐炭・泥炭等の種別がある

石炭 工業動力の根本となり、汽車・汽船の原動力となり、或は瓦斯製造の原料となつて、産業の盛衰を左右し、我等の日常生活とも密接な關係があり、總ての鑛産物中、量から見るも價から見るも、その産額は最も多い。



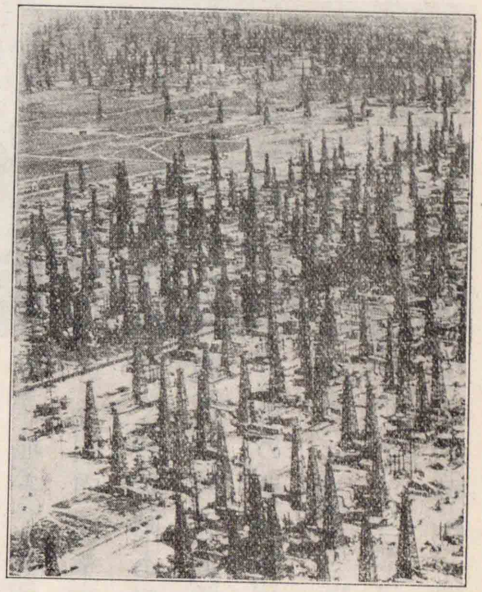
圖解 英國のカーヂフ港に於ける石炭運搬船の群集

世界の主要産地は米・英・獨の諸國で、三國の産出は全産額の八割を占め、何れも世界に於ける大供給地である。米國ではアパラチヤ山脈の大炭田を主産地とし、その輸送も容易であるから、國内工業の原動力を供する外、廣く新大陸の各地方に供給する。英國は米國と共に石炭の大供給國であるが、既に衰退の兆が見えてゐる。ドイツは大戰によつてザール及びシレシヤの炭田を失つたが、尚ルール・サクソニヤ等に豊富な炭田を持つてゐる。



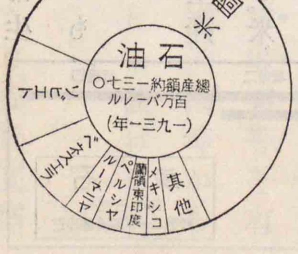
我が國は九州・北海道・福島縣等より産し、その

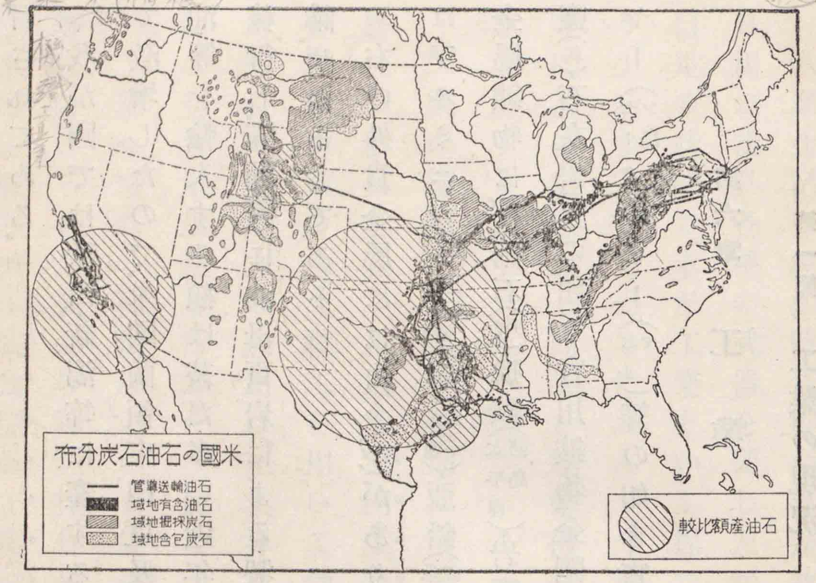
圖解 群立せる石油櫓(米國のカリフォルニヤ地方)



產額は鑛產中の首位を占めて、總價額の七割餘に當り、重要の輸出品であつたが、今は輸入の方が多くなつた。

石油 燈用としての用途は著しく減少したが、揮發油は燃料として自動車・飛行機等に用ひられ、重油は軍艦・汽船を始め、各種の工場等に於ける原動力となつて石炭に代らんとし、鐵と共に產業上・軍事上極めて重要なものである。然るに世界に於ける推定埋藏量は比較的に少いから、國際間に油田の爭奪が激甚を極めてゐる。米國は處々に大油田があつて石油の產が甚だ多く、世界全產額の約七割を占め、カリフォルニヤ・テキサス・オクラホマ・ペンシルバニヤの諸地方をその主產地とし、ロスアンゼルスは石油の積出によつて繁榮を來した。メキシコは永く世界第二の產地であつたが、人爲的の原因も加つて近年產額が激減し、ソビエト聯邦は革命の爲に一時全く沈衰したが、今は再び世界第二の地位を復活し、コーカシヤのバクー地方はその中心である。その他マレー諸島・ルーマニヤ等は古い產油地で、ベネズエラ・ペルシヤ等は新進の產油地として知られ、メソポタミヤ・支那・北樺太等の油田も、前途を囑

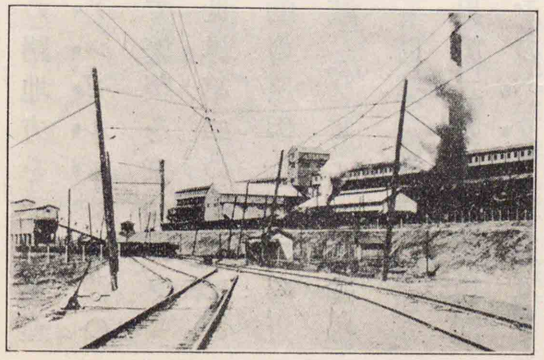




目されてゐる。

我が國では秋田・新潟等に產するも、その產額を漸減し、需要は却つて激增したので、米國・蘭領東印度及び歐露等から、原油及び重油・揮發油等を輸入する額は甚だ多い。近年北樺太に石油採掘權を得て之を稼行し、滿洲國に油母頁岩による製油工業を起す等によつて、自給を講ぜんとしてゐる。

右の外貴金屬には白金(ソ米)があり、實用鑛物にはアルミニウム(米・佛・獨)・鉛(米・西・獨)・亞鉛(米・獨)等がある。非金屬鑛物には硝石(チリ)・燐礦(太平洋諸島)・岩鹽(米・獨・ポーランド)・加里鹽(獨)・石灰岩(米)の如き實用鑛物、金剛石(南阿)・サファイヤー(セーロン島)・ルビー(ビルマ)等の如き寶石がある。



圖解 滿洲國にある我が製油工場

第六章 工業

第一節 工業の現況

ドイツ人は勤勉で野外作業に適しない折は手內職を勵む者が多いから玩具等は工場製作の外に個人の手工によるものも頗る多い

人類生活の原始時代、即ち狩獵・遊牧等を生業とした時代に於いても、日用の器具・各種の武器を要したが、當時は殆ど各人の手工に屬し、自給自足の狀態で、未だ工業といふ程ではなかつた。然るに農業時代に入り、生活の安定を得るに及んで分業が起り、專ら器具の製作・布帛の紡織等に當る者を生じ、商業と運輸機關の整備とにつれて、所謂工業時代を現出するに至つた。

工業の種類 工業の初期には、機械の力を藉らず、專ら手工によつて各種の器具を造つた。之を家內工業といふ。漸く進んで小規模の機械を用ひ、少數の人夫・職工を用ひて營業するに至れば、之を小工業といふ。然るに蒸氣力の應用は、工業界に一大革命を起し、大規模の機械力により、大量生產を行ふやうになつた。之を大工業(時に機械工業)といふ。

工業は原料の種類によつて、農產工業・水產工業・林產工業・金屬工業等に分けられ、又製品の種類・操作の方法等によつて、纖維(染織)工業・化學工業・造機(機械)工業・食糧品工業・雜工業等に分類される。

工業發達の條件

工業の發達を支配する主要條件は、凡そ次の如きものである。

原料の豐富なこと　原料の產地にその加工業の發達するのは、最も自然である。然し原料は、他に送り得るのみならず、工業の種類によつては、原料よりも製品の運搬に却つて手數を要するものもあり、又原料產地が工業地として不適當な場合も多いから、運輸機關の發達につれて、原料產地と工業地帶とは相隔る傾がある。

動力を得易いこと　工業は原動力を多く石炭に仰ぐが、石炭の輸送は莫大な運賃を要するから、原料を此處に運ぶのが有利である。從つて大工業は多く石炭產地に近く發達するが、近年科學の進步に伴ひ、石炭に比して容易に運搬し得られる石油及び水力電氣を原動力とする傾向が著しくなり、

殊に水力發電は、地形の起伏が大きく、工場の建設には不適當な處に盛であるから、工業地は益〻此等の發源地を離れんとする傾がある。

勞力の豐富なこと　工業には多くの人力を要し、加ふるにその賃銀は低廉なのを必要とするから、人口が稠密で、生活費の安いことは大工業發達の重要な原因である。然し工業が發達すれば、勞働者を吸收して、人口が稠密となり、生活程度が高まつて、勞銀は自ら高くなることが常である。

消費地に近いこと　製品の輸送に不便なもの、又は用途の範圍が狹いもの等は、他の條件を犧牲としても、消費地に近く工場を設けねばならない。食糧品工業等には、その例が多い。

地形が良好なこと　地形の良否は、原料・製品及び燃料等の輸送に重大な關係があり、又直接に工場の建設をも支配するから、地形は工業の發達を左右する根本要素である。從つて起伏の少い低平な地方、殊に河湖・海岸等の交通自由な處には、大工業が勃興する。

氣候の適當なこと　氣候は人類活動の能率を左右し、酷熱・嚴寒の地方に於ける住民は、工業勞働に適しない。又英國に於ける纖維工業の發達が、その適當な濕度に起因するといはれる如く、氣溫・濕度等が直接に工業の盛否に關係することもあるが、其等は或程度の調節が困難ではない。

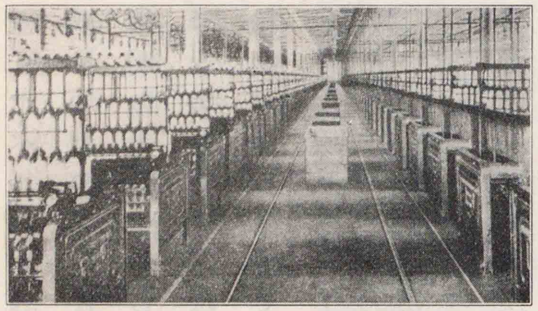
資本の豐富なこと　工業は他の産業に比べて、最も多くの資本を要するから資本の有無と、資本家の見識とは、その發達を支配する一大要素である。

科學の發達せること　大工業は科學の應用に待つものであるから、學術の進歩と否とは、工業發達の重大原因となる。

その他歴史的關係や國民の才能・政府の方針等、各種の條件が結合して、工業の振否を來すものである。

世界の工業　工業の最も盛なのは歐洲及び北米の兩大陸で、鐵・石炭の産出が多い處、水力の利用に便利な處と工業地とは殆ど一致する。各

圖解 英國の紡績工場



種の生産が最も多いのは米國で、イギリス・ドイツ・ベルギー・スイス等は各特色ある工業國である。

我が國人は由來手工に長じ、又早く大陸文化に接してその技藝を傳へたが、大工業の發達したのは近年のことである。從つて染織工業の如き簡單なものが最も盛で、化學工業・機械工業等は先進國に一歩を讓り、工場も大規模のものは未だ多くない。

第二節　纖維工業

衣服の原料は、その大部分を纖維工業によつて供給せられ、日用品・裝飾品等も、亦この工業によるものが多い。

綿絲・綿織物　綿絲は綿織物の原料で、綿織物は衣服の主要原料であるから、綿絲布の製造は、文野を問はず殆ど世界の各地に行はれる。就中英・米の二國は世界の雙璧で、日本・ドイツ・フランス・

英國木綿工業の大中心はマンチェスターである

支那には我が國人の經營によるものも多い

イタリヤ・ベルギー等が之に次ぎ、印度・支那等にも紡績業が勃興した。

英國は原料の豐富な植民地を持ち、氣候は紡績に適し、國人が紡績機械發明の先驅をなした等から、夙に斯業が發達し、品質も優良で名高い。ランカシヤ地方はその中心で、リバプールは原料綿の輸入と製品の輸出が世界第一である。米國は豐富な原料を以て、アパラチヤ山脈東麓の瀑線及びニューイングランド地方に發達し、綿花の消費額は世界第一である。印度及び支那の紡績事業發達は近年のことで、共に我が綿業の將來に關係を及ぼすものである。

我が國では阪神及び尾勢地方を主とし、京濱地方が之に次ぎ、近來山陽地方・九州・四國等の各地にも工場が建てられた。綿製品は生絲に次ぎ重要な輸出品で、主として支那・南洋・印度方面に供給する。

絹織物 絹織物の產額が多いのは米國で、その原料生絲は、多く我が國から輸入され、パターソンは絹織業の中心である。品質の優良で名高いのはフランスで、多額の生絲を東洋から輸入し、精製品として

圖解 佛國リヨンの絹織工場

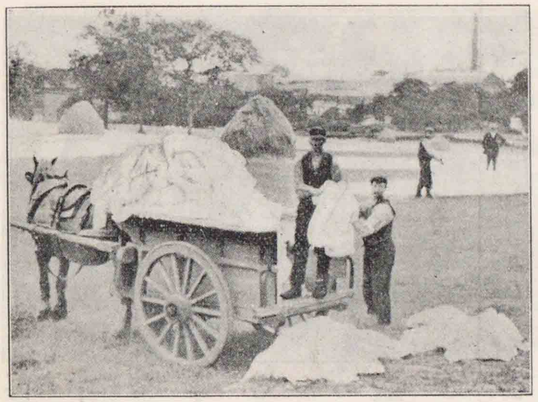
リーヅ・ブラッドフォード等は毛織業の中心である

再び海外に輸出する。リヨンは歐洲絹織業の大中心で、ドイツのクレーフェルドも亦此等に次いで著名である。この他スイス(バーゼル)・イタリヤ(ミラノ)等も、絹織の產地として知られ、支那(揚子江下流及び四川・廣東等)も古來優品を出す。

我が國では京都・福井・群馬・石川・栃木・東京等に盛で、殊に京都は美術的の製品に著れ、福井・石川の羽二重は重要輸出品で、米國・濠洲・英國・印度・フランス等に多く仕向けられる。

毛織物 毛織物の原料には、山羊毛・駱駝毛・アルパカ毛等もあるが、羊毛が最も重要である。英國・米國・ドイツ・フランス・イタリヤ・ベルギー等は毛織業が甚だ盛で、何れも多く海外に輸出する。英國はヨークシヤ地方を中心とし、品質・產額共に世界第一で、米國ではアパラチヤ山脈の東麓に盛である。原料は多く濠洲・南阿等から輸入する。

我が國は毛織の製織が振はなかつたが、大戰以來急速に勃興した。愛知は斯業の中心で、總額の二分の一弱を出し、兵庫・東京・大阪・岐阜等が之に次ぎ、モスリン・フランネル・セルジ・羅紗等を產する。原料は殆ど全部を輸入に仰ぎ、技術にも尙遺憾の點があり、且國內の需要に不足を告げ、毛絲と共に外國品の輸入は尙少くない。



ダンヂーの原料黄麻は印度から輸入する

圖解 英國の亞麻工業(ベルファスト附近のリンネル干場

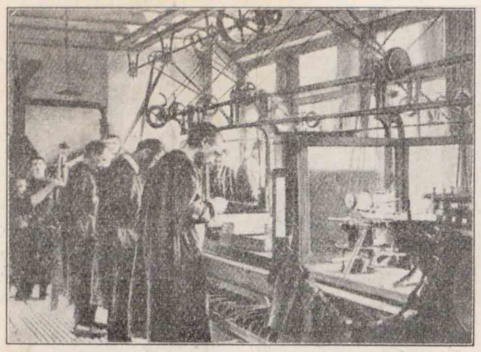
麻織物 麻の種類は多いが、衣服又は包裝原料として重要なのは、亞麻及び黄麻である。亞麻工業は英國及びベルギーに盛で、原料產地たるソビエト聯邦・ポーランド等にも勃興して來た。黄麻工業は英國のダンヂーを第一とし、印度のカルカッタにも盛である。

我が國では大麻・亞麻・苧麻等を原料とする製織が行はれ、製品は麻布・蚊帳地・リンネル・ヅック・ホース等が主なものである。又マニラ麻を

原料とする製帽眞田の製造が副業的に行はれ、輸出も少くない。

第三節 造機工業

總て產業は、之に對する特有の機械により、その能率を發揮し得るもので、工業發達の基礎は畢竟機械製造の進步によることが多い。造機工業は、船舶・車輛・汽罐等の大より、各種の機械・時計等の微に至るまで、種類が極めて多く、何れも獨創的の能力と、優秀な技術とを要するもので、化學工業と共に最高の科學的文明を有する地方にのみ發達し、鐵・石炭の產地とも關係がある。造機工業の最も進んでゐるのは英・米・獨の三國で、フランス・ベルギー・スイス等が之に次ぐ。

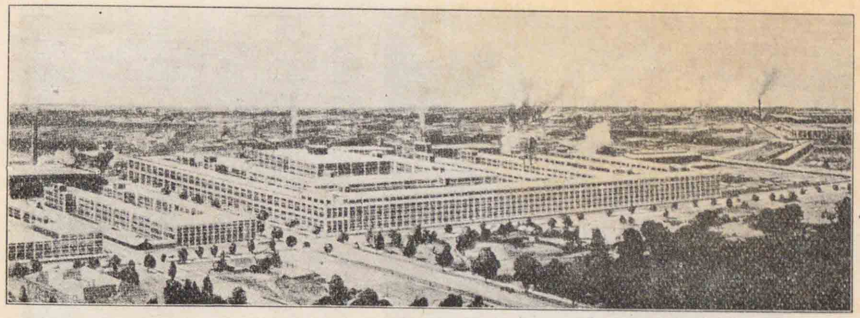


圖解 スイスの時計工場

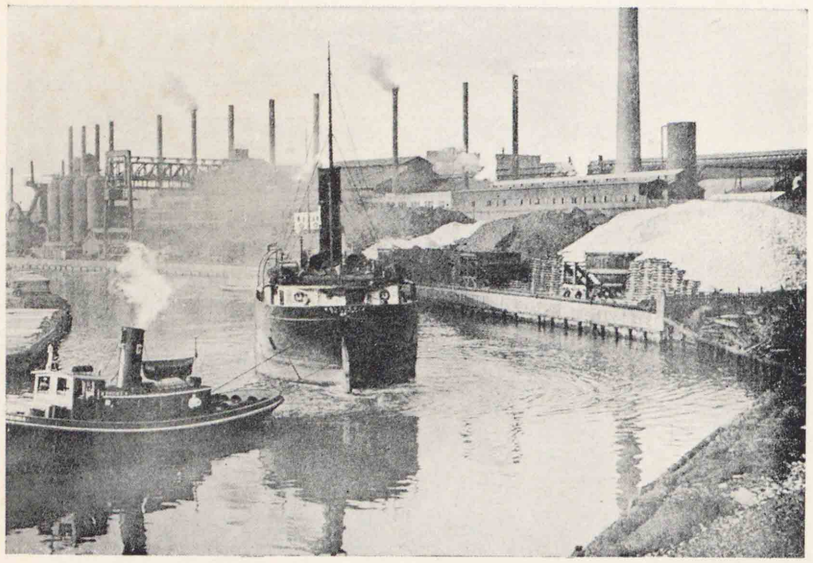
英國は世界最大の海運國であるから、造船業の盛なことは世界第一で、紡績機械・漁業機械・冶金機械・兵器等の製作も亦卓越し、其等の工場は、多く炭田地方にある。米國は戰後の發達が目覺し

圖解 米國デトロイトにあるモーター製造會社の全景

機械類の輸入は需用の約二割五分で輸入と輸出とは約七と二との割合である

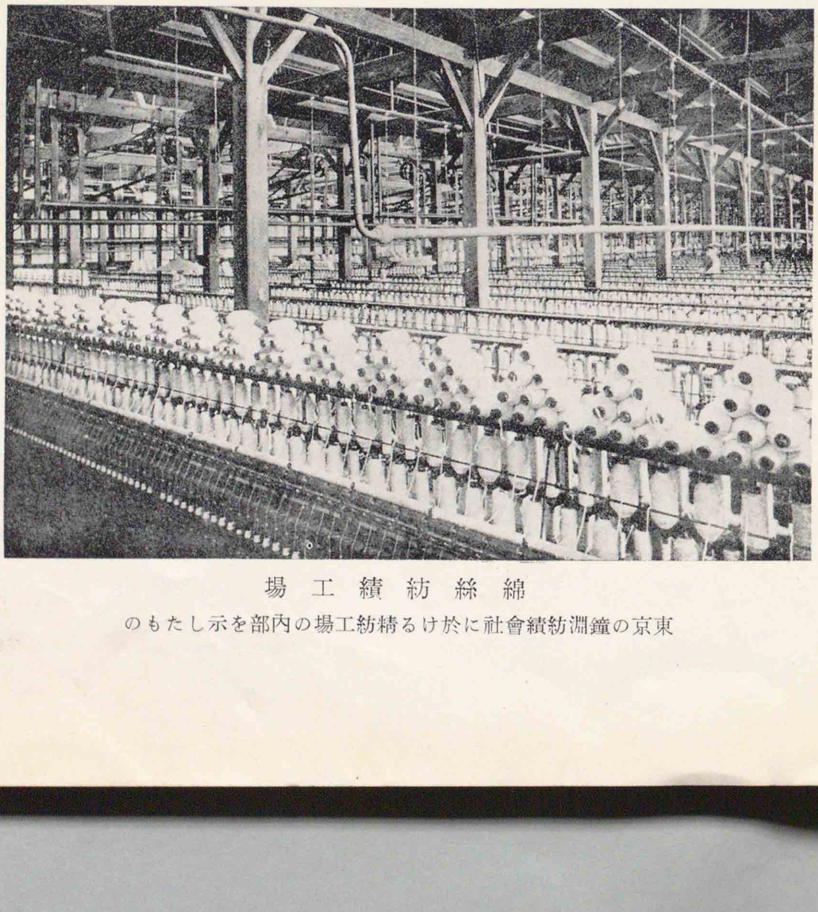


く、造船に於いても英國を凌がんとし、自動車・汽車・農耕機械・電氣機械・裁縫機械・タイプライター等の大量生産を以て世界の市場を獨占し、北部大西洋岸及び五大湖地方をその中心とする。ドイツは大戰の瘡痍が未だ癒えないが、科學的機械（殊に醫療機械）・兵器等は、列國の追随を許さないものがある。フランスは元來鐵・石炭の産に乏しく、前三國に及ばなかつたが、大戰の結果、其等の産地を得たから、今後の發展は注目に値し、スイスは時計及び機械の製作を以て知られてゐる。我が國の造機工業は近年長大足の發達をなし、その製品は外國品に比して殆ど遜色なきに至り、機械類の輸入は著しく減少した。殊に阪神地方・長崎附近及び東京灣岸の造船、大阪・呉の兵器製造等は、頗る大規模なものである。



製鐵工場

米國クリーブランドの製鐵場で河は市中を貫流せるカヤホガ河



綿絲紡績工場

東京の鐘淵紡績會社に於ける精紡工場の内部を示したもの

化學品工業　藥品　肥料
窯業工業　陶器　ガラス　セメント
製紙工業　洋紙　和紙
ゴム工業　エボナイト

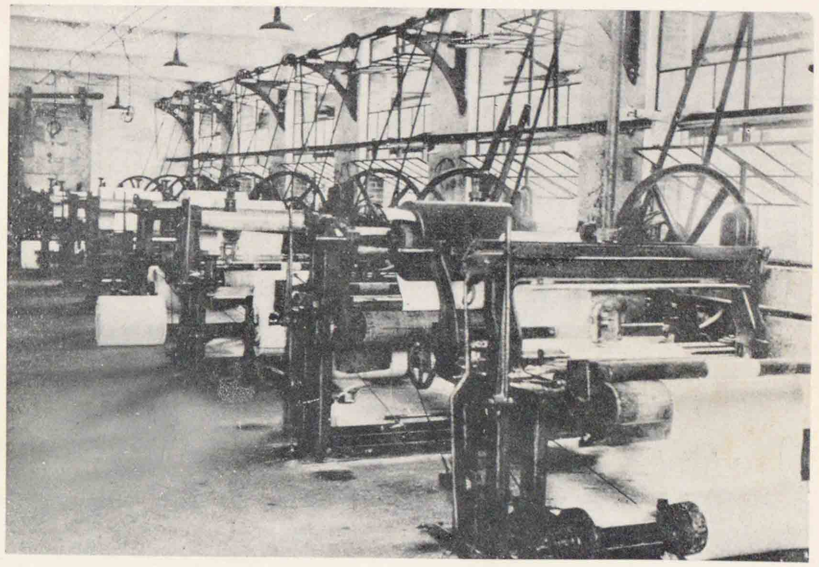
染料工業は化學工業の中樞をなすもので各國とも保護政策を採つてゐる

第四節　化學工業

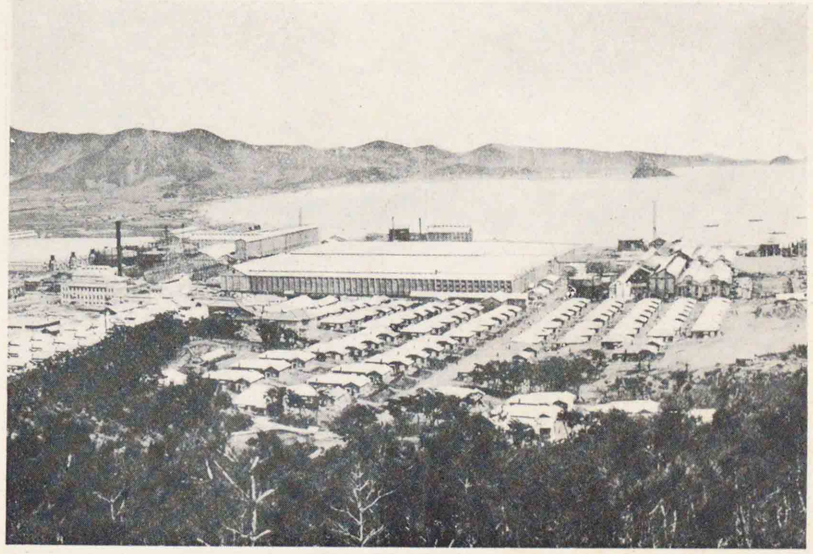
染料・肥料・藥品・硝子・陶磁器・マッチ・人造絹絲等の製造、精糖・製紙等を化學工業といふ。深い學理と熟練した技術とを要するから、科學の進歩した地方に發達し、又石炭・水力と密接な關係を有するものもある。ドイツは政府の保護・奬勵と、國民の科學的優越とによつて、斯業は世界獨歩と稱せられ、大戰の爲に大打擊は受けたが、尙依然として世界に重きをなし、英・米・白・佛等の諸國が之に次いでゐる。我が國には化學工業の見るべきものがなかつたが、大戰以來著しく進歩し、その製品を海外に輸出するやうになつた。

染料　染料には植物染料(熱帶地方の諸植物から採る)・動物染料(メキシコのカーミンの如き)等があるが、その生産に限度があり、且價格が高いので、その產業は漸次衰へて、化學製品たる人造染料が之に代るやうになつた。人造染料の種類は甚だ多いが、何れもコールタールから誘導したものである。ドイツは斯界の先進國で、戰前には世界の人造染料を獨占したが、現在でも

窯



製紙工場
三菱製紙會社の工場で摩擦機によリ紙に光澤を附ける光景



朝鮮窒素肥料會社の一部
朝鮮の興南に設けられ事業資金一億圓を超える大會社である

我が國には古來藍の栽培が行はれ德島縣を主產地としたが生產費の高價な爲產額は年々減少の傾がある

尚世界產額の二分の一以上を出し、米・佛・英等の諸國も大戰以來急に發達した。我が國でも大戰以來の新工業で、幾多の工場が設けられ、一時は內地の需要を充たした外、支那・ジャワ等に輸出したが、品質は先進國に劣り、最近には再び輸入額が增加して來た。

圖解 アンガウル島の燐礦採集

肥料 肥料には動物肥料(魚類・獸骨・骨粉等)・植物肥料(豆粕・油粕等)・化學肥料(曹達・加里・硫酸アンモニヤ・燐礦等を原料として加工したもの)等の別がある。その消費量に於いては動植物肥料が多いが、化學肥料は文明國に於いて需要が多く、國際商品としては最も重要なものである。

化學肥料の製造が盛なのはドイツ及び米國で、英・佛等の諸國が之に次ぐ。ドイツは加里を原料とする製品に於いて、米國は燐礦を原料とする製品に於いて、その產額は共に世界第一である。近年ドイツでは、空中窒素から窒素肥料(硫酸アンモニヤ・石灰窒素等)を製する方法が發明せられ、この法は肥料製造のみならず、火藥の原料を供給するものとして國際間に重視せられ、水力の豐富なドイツ・スエーデン等に行はれる。

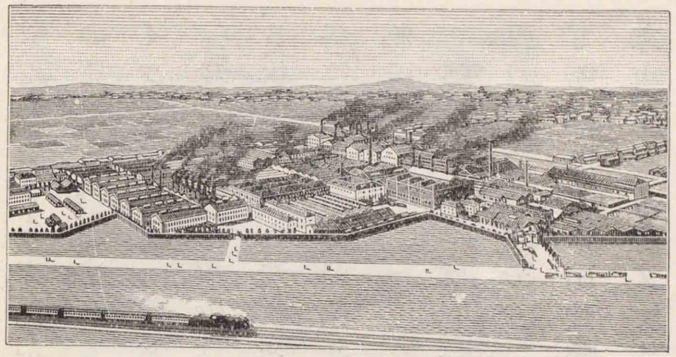
我が國の肥料輸入高は年額一億五千萬圓に達し大部分は豆粕及び油粕である

我が國では植物性肥料の消費が主で、豆粕は重要輸入品の一である。化學肥料も漸次その需要を增し、硫酸アンモニヤ・石灰窒素・燐酸肥料等は各地で製造せられるが、硫酸アンモニヤ・燐酸(原料)等の輸入は相當に多い。

藥品 往時は原料を多く草根・木皮に求めたが、近來は大部分を化學製品に仰ぐやうになり、ドイツ・スイスはその世界的大生產地である。藥品中には硝酸・硫酸の如く、あらゆる化學工業の基礎原料となり、軍事上にも極めて主要なものがある。我が國も近年製藥工業が著しく發達したが、輸入によることも亦多い。

硝子 硅酸・曹達・加里等を原料とするもので、その製造は此等の原石に富む地方に行はれる。生產額の多いのは米・獨の兩國で、品質の優

秀なので名高いのは、ベルギーとチェッコスロバキヤである。ベルギーは窓硝子を主として、炭田に近いリエージュ・シャールロア等から多く產し、チェッコスロバキヤは所謂ボヘミヤ硝子と呼ばれる切子硝子を造り、コップ・裝飾品等の優品を出す。我が國はもと總てを輸入に仰いでゐたが、近年京濱・阪神・北九州等にこの工場が設けられ、罎・コップ等を盛に支那・南洋・印度方面に輸出し、切子硝子も見るべき良品を製出するが、光學機械等の良質なものに至つては、多く輸入に仰いでゐる。



圖解 名古屋にある日本陶器會社の工場

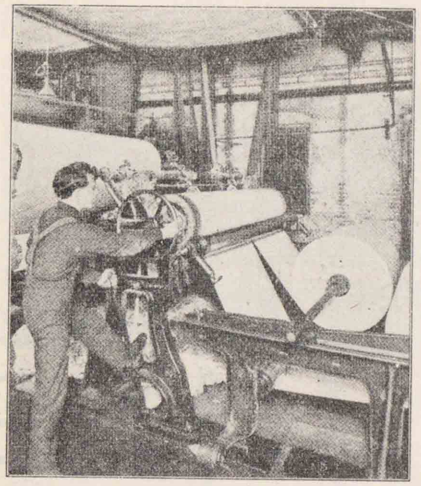
陶磁器　粘土及び陶石を原料とし、その簡單なものは原始時代に既に製作されたが、現今は製法も大いに進歩し、堅硬のもの、高熱に耐へるもの等も製出され、日用器具・建築材料・電氣器具・裝飾品等、その用途は甚だ廣い。世界に於いて最も

マッチには安全マッチ・黄燐マッチ・硫黄マッチ等がある。黄燐マッチは危險の虞があるから一九一三年萬國協定の上ベルン條約でその製造を禁止することとなり我が國も大正十一年之に加盟しその取扱を禁じた

盛なのはドイツで、マイッセン（ドレスデン陶器）は古い歴史を有し、その他チェッコスロバキヤ（ボヘミヤ陶器）・フランス（セーブル陶器）・オランダ（デルフト品）・イタリヤ（マヨルリカ品）等が著名である。支那は古來陶器の名品を出し、景德鎭が最も著れてゐる。我が國では愛知・岐阜・京都・三重・佐賀等を主產地とし、米國・蘭領東印度・印度・支那方面に輸送される。

セメント　土木・建築原料として極めて重要なものである。石灰岩・粘土を原料とし、石炭の豐富な處に製造され、英・白・獨・佛等は主要な產地である。我が國では大都市又は炭田に近く工場があつて、製品の輸出が頗る盛である。

マッチ　日用品として需用の範圍が甚だ廣く、スエーデン・ノルウェー・イギリス・ドイツ・カナダ・日本等は世界の主要產地である。マッチは嘗て我が國の主要輸出品であつたが、大戰後スエーデンマッチの活躍によつて販路を蠶食せられ、次第に產額を減じて今は最盛當時の三十分の一を出すに過ぎない。



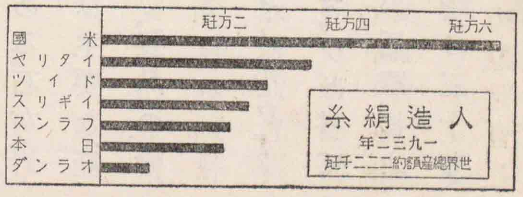
米國の紙産額は世界の過半を占めてゐる

圖解　米國の製紙工場

紙の用途として最も多いのは新聞紙である

人造絹絲　人絹は近年著しく製法が改善されて、優良品を出すやうになり、用途も擴大して産額は生絲の三倍を超え、米・伊・獨・英・日・佛等の諸國はその主産地である。我が人絹工業は、近年躍進して品質・數量共に先進國を壓し、最近の産額は世界の第五位を占めて重要な輸出品となり、生絲國たると共に又人絹國たらんとしてゐる。

紙　紙は植物纖維から造られ、その原料には樹皮・草稈・海藻等を用ひるが、最も多いのはパルプである。製紙業の盛なのは林産の多い米國・カナダで、ドイツ・スエーデン等が之に次ぎ、イギリスは輸入パルプによる製紙が盛である。



我が國には和紙と西洋紙とがある。和紙は樹皮から製せられ性質は强靭であるが、價が高く用途は狹い。高知・愛媛・岐阜等から多く出る。西洋紙の製造は近年著しく盛になり、樺太・北海道・東京・靜岡等に大工場が設けられ、その製品の輸出は輸入よりも遙に多い。

油脂　植物性油と動物性脂肪とある。植物油は主として菜種・綿實・大豆・椰子實・オリーブ等から搾取し、動物性脂肪は牛脂・魚油等が重要なものである。我が國は魚油の輸出が多い外、植物油も原料を輸入して製品を輸出する。

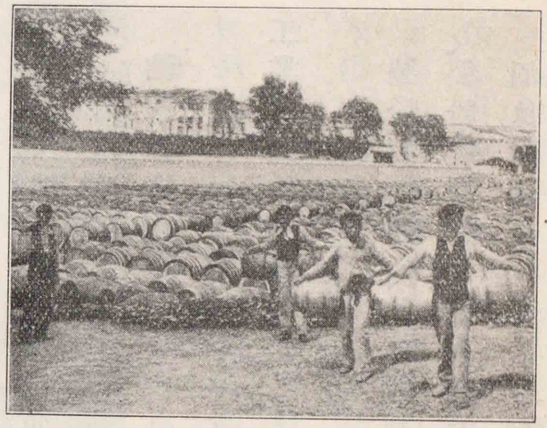
油脂は食糧として、又工業原料として重要である。油脂より採るグリセリンは、工業原料としてのみならず火藥原料ともなるから、油脂工業は國防的見地からも重要なものである。

第五節　食糧品工業

製粉・製糖・釀造及び飲料水・罐詰等の製造は、之を食糧品工業と總稱し、製粉・製糖等は既に前に述べた。

酒は穀物・果物等を原料として釀す嗜好品で、民族固有の釀造法に

ビールは大麥を原料としホップを加へて造る



圖解 葡萄酒樽の製造（佛國の葡萄酒釀造地方では樽の製造も一工業となつてゐる

フランスのシャンパニュは良品を出すので名高い

より、獨特の飲料を造つたが、文明が次第に進み、生活が複雜になるにつれて、酒類の需要は益々增加し、終に國際商品となつた。ビール及び葡萄酒は、その主なものである。

ビールはドイツの國民的飲料で、その釀造高も世界の第一位を占め、ミュンヘンは特に名高く、イギリス・チェッコスロバキヤ等が之に次ぐ。葡萄酒で名高いのはフランスで、ボルドーはその輸出港である。その外、イタリヤ・イスパニヤ等の、地中海岸諸國に多く產する。

日本酒は我が國の特產で、その釀造額七十六萬竏に餘り、兵庫縣の灘は、品質・產額共に他の府縣に卓越し、福岡廣島京都等が之に次ぐ。ビールの釀造も近年大いに盛となり、その工場の多くは大都會の附近にある。產額は十五萬竏に餘り、支那その他への輸出も增した。

物々交換は今でも未開地方に行はれる

圖解 大阪の株式取引所

我が內地の諸地方にも一種の定期市が開かれる

第三篇　商業地理

第一章　商業の發達及び機關

個人又は民族が、夫々異なる物貨を生產し、相互の利益の爲に、その剩餘を交換するのを商業といふ。原始時代にあつては、商業は所謂物物交換で、その移動範圍は極めて狹く、物品の種類も單調であつたが、貨幣の使用が起つて、商品の移動が漸く便となり、取引は多く定期市の形で行はれるやうになる。アジヤの內部から東部ヨーロッパに亙つては、今も定期市は盛に行はれ、我が朝鮮にも亦この風が殘つてゐる。

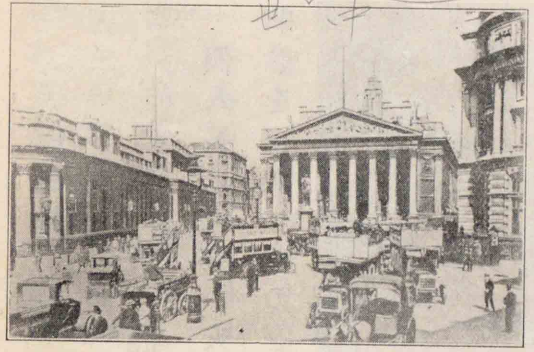
交通機關の發達につれて、商品移動の範圍は大いに擴張せられ、各人の信用を基礎として、國際間の取引が益々盛になり、今は一國商業の盛否

市場には生産市場と消費市場とがある。品物によつては兩者の一致を要する場合もあるが國際的となるに從つて兩者は益〻離れる

圖解 ロンドンの商業區

が、主に國際商業、即ち貿易の如何によつて決せられるに至つた。

市場 商業の行はれる場所を市場といふ。商業は國内商業と國際商業とを問はず、生産者と消費者との中間に立つて、その仲介をなすものであるから、市場は生産地又は消費地に接近して起るのが常である。生産の中心にあるのを生産市場といひ、消費者への配分を主とする處を消費市場といふ。大生産地を控へて大市場が發達し、交通幹線の集合する處に大消費市場の發達するのが當然であるが、商業上の習慣又は金融機關の關係等で、直接生産地・消費地に接近しない所謂中繼市場が發達する。護謨に於けるシンガポール、米に於ける香港等は、その好例である。市場には直接貨物を集散せず、取引商談を主とする處がある。ロンドン・ニューヨーク等は、各種の世界的商品取引の中心である。



ソビエト聯邦ニジニノブゴロドの市場

韃靼人の部内に於ける光景で多量の皮革と羊毛とが堆積されてゐる

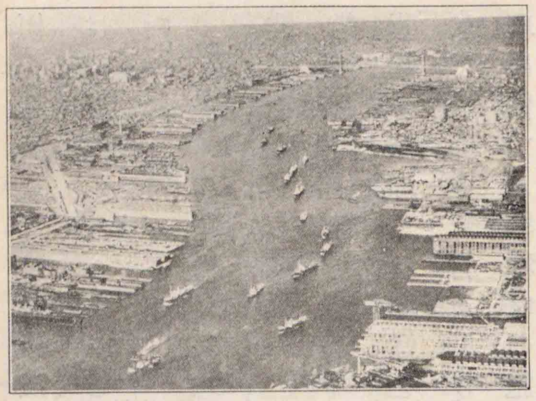
朝鮮大邱の市場

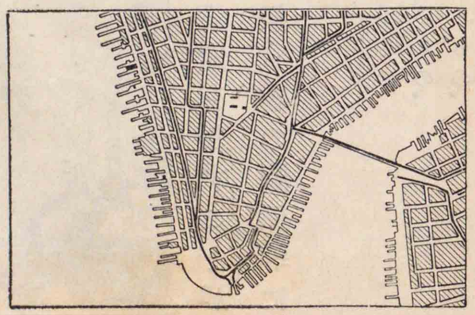
朝鮮では今でも市場が地方商業の主要機關で全鮮には千餘ケ所もある

圖解 ニューヨークの埠頭

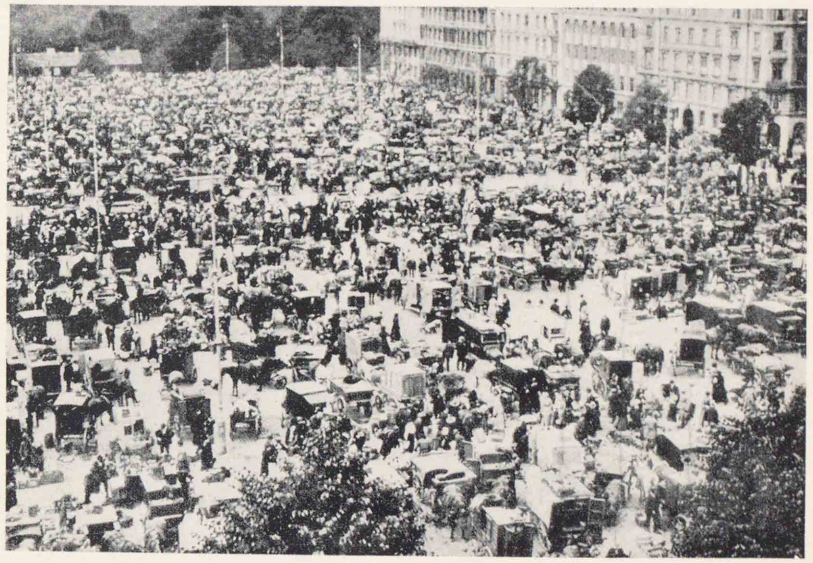
圖解 フィラデルフィヤの埠頭（河の兩岸に船渠が櫛比してゐる

交通の機關が備らず、大陸間の取引が發達しない時代には、市場は多く、内陸交通の便利な河湖或は内海に臨んで起つた。ニジニ・ノブゴロド・ベニス等はその例である。然るに近代に至り、交通が發達して、大洋を世界的交通路とし、且各大陸の地理的距離を著しく短縮せしめたから、世界的大市場は何れも海港又は海洋と連絡のある河湖の沿岸に發達してゐる。



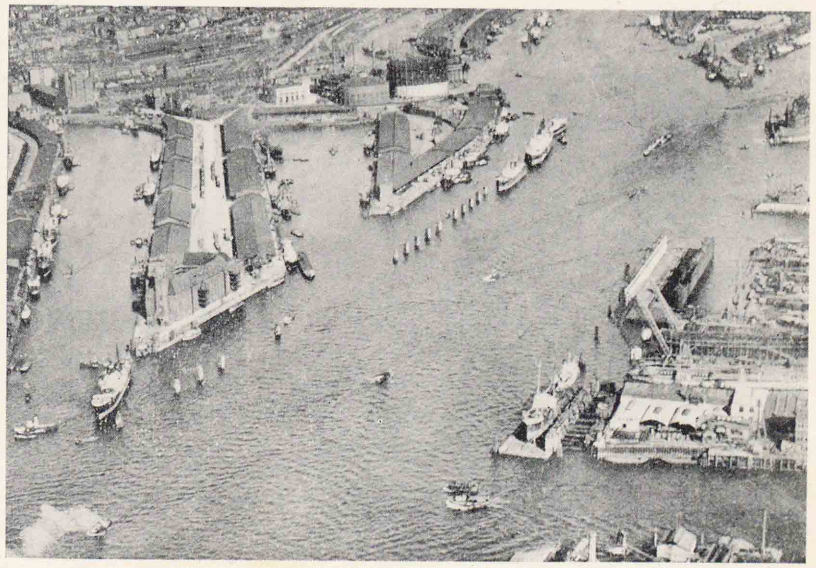


商港 商船の碇泊に適する水面の一定區域を**商港**といひ、商品の移動は、多く此處を經由して行はれる。商港の存在・發達を可能ならしめる條件は、(一)自然又は人爲的の良港灣であること、(二)世界的通商路に當り、陸上交通の



コペンハーゲンの市場

農夫が彼等の收穫物を持寄り無數の荷車が廣場を埋めてゐる



ハンブルグの埠頭

商港市として設備の壯大と完備とに於いて模範といはれる

風波安全で多數の船舶を入れ水深は船舶の吃水に適し水底が碇泊に都合がよく潮汐干滿の差の激しくない等は商港として必要な條件である

圖解 米國フィラデルフィヤの起重機(世界最大といはれる

國際貿易港は水深九米以上を要する

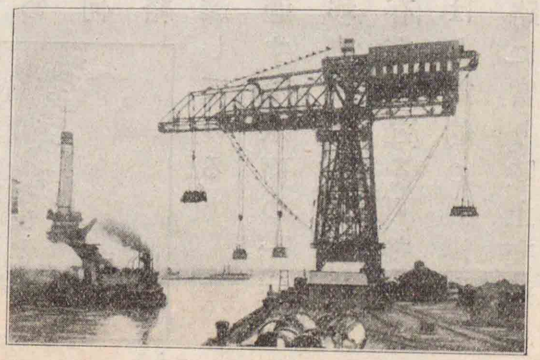
砂は碇を支へず又岩塊があると拔錨に不便である

潮汐干滿の差が著しい時は特殊の裝置を施してその不便を除くことがある仁川・三池港等の閘門式船渠がそれである

コロンボは人工港の例である

便もあること、㈢背後及び相手の地に生産地又は消費地を控へること、㈣氣候が著しく不良でないこと等である。

港灣が商港としての使命を完うする爲に、防波堤を造つて風浪を避け、棧橋又は繋船岸壁・繋船杭を設け、起重機を備へ、臨港鐵道を敷設して貨物の積卸及び輸送を容易にし、或は燈臺を設けて夜間の航行を助け、船渠を設けて船舶の修理に便する等、種々の施設をしなければならない。或は初から全然人工によつて港を造り、以上の設備をなすことがある。之を自然港に對して人工港といふ。商港は取扱貨物の關係等によつて、種々の名稱を以て呼ばれる。



貨物港　カーヂフ・若松等の如く、主として貨物船が發着するもの。
旅客港　ブリンヂシ・カレー等の如く、主に旅客船の出入するもの。
貿易港　外國貿易の爲に開放し、一般貨物の輸出入を取扱ふもの。

港は位置によつて灣港・峽灣港・海峽港・沿岸港・河港・湖港等の名稱がある

大戰後の我が輸入超過額は特に大きい

輸出港　小樽・ニューオルリヤンス等の如く、常に輸出額の多いもの。
輸入港　神戸・リバプール等の如く、常に輸入額の超過するもの。
特別輸出入港　ラングーンの米の如く、或商品に限り輸出入するもの。
中繼貿易港　香港・シンガポール等の如く、通過貿易を主とするもの。
自由港　香港・ハンブルグ等の如く、貨物に關税を課しないもの。

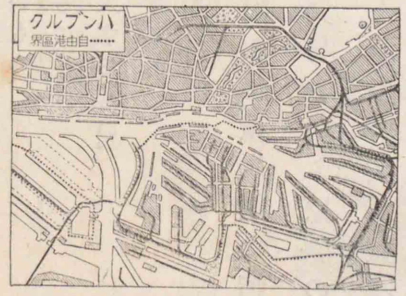
貿易　商品の國際取引を貿易といひ、貿易の輸出額が、輸入額に超過するのを順貿易といひ、輸入の超過するのを逆貿易といふ。原料の供給國は多く順貿易で、工業國は逆貿易であることが多い。我が貿易は、大戰當時には輸出超過であつたが、常には逆貿易の場合が多い。

輸入品を自國で消費することなく、その儘或は改裝仕分を施して輸出するのを再輸出と呼び、斯る貿易を通過貿易又は中繼貿易といふ。一國の貿易中には、多少の中繼貿易を含むのが常であるが、イギリス・オランダ・ベルギー等の諸國には殊に盛に行はれ、我が國の中繼貿易額は殆どいふに足らない。貿易額の中、中繼貿易額を除いたものを、一般貿易に對して特別貿易といふ。

現在世界の大勢は極端な保護貿易主義である

イギリスは酒類・煙草の外は課税をしないが大勢は保護貿易に傾きつゝある

貿易港には税關を設け、輸出入貨物に關稅を課することが多い。關稅は國の歳入ともなるが、國內の產業保護を主目的とするもので、之を保護貿易といひ、我が國を始め、世界の各國は多く之を主義としてゐる。特殊な獨占的輸出品を有する時は、輸出稅を課することがあり、ブラジルの珈琲、チリの硝石等は、その輸出稅が國庫の主要な財源である。產業が著しく發達して特に國家の保護を要しないか、或は通過貿易のみが盛で、貿易品に課稅しては不利な場合がある。この時には關稅を賦課せぬのを原則とする、之を自由貿易といひ、イギリス・オランダ等はこの主義を採る。或一港又は一地域に限つて、關稅を賦課しないものを自由港といひ、之に色々の程度がある。港內で製造・加工を許し、又住民の居住をも妨げないのを自由港市といひ、大連香港等は之に屬する。商港の一部を限つて、加工・製造の自由を認め、住民の居住を許

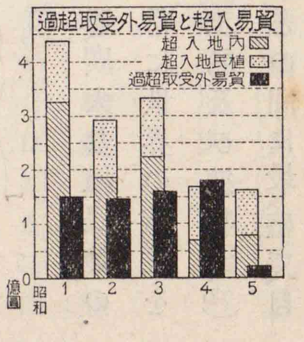


さないものを自由港區と呼び、ハンブルグ・コペンハーゲン等はその例である。又製造・加工を許さず、改裝仕分の自由のみを認めること、ブレーメン・ステチン等の如きを自由地域といふ。

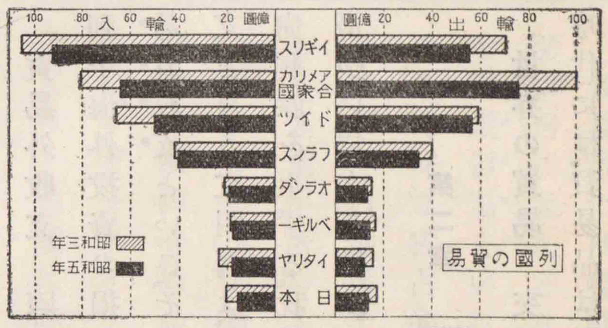
貿易外收支 國際間には貿易勘定の外、外債の利子・海外投資の損益・汽船の運賃・保險料その他の受拂がある、之を貿易外收支といひ、その出入超と貿易額の出入超との差が眞の國際收支となる。文明國は、貿易は入超でも貿易外の收支で決濟が出來、或は尙剩餘を生ずる。我が國の貿易外收支は概ね入超であるが、貿易の入超が多い爲、之を償ふには尙不足なのが例である。

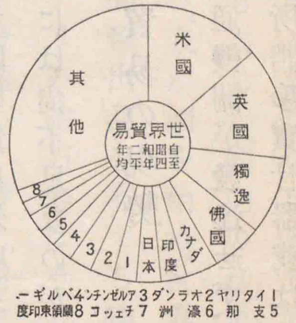
第二章 貿易の現勢

世界の貿易 交通機關が發達せず、大洋の航行が自由でなかつた時代には、貿易品は所謂珍寶・什器或は香料等の如き、容積が小さく、値



大戰以來米國を除く列强は皆輸入超過に苦しんでゐる





の高い贅澤品のみであつたが、近年産業の發達と交通機關の完備とは、貿易狀態を一變して、食糧品原料品・加工品等が主要の貿易品となり、貿易額も著しく增大した。然し國境には稅關があつて、貨物の移動を掣肘するから、國內取引に比べると、その額は一般に少い。世界に於いて貿易の最も盛なのはヨーロッパで、實に世界總額の五割以上を占め、英・獨・佛・白・蘭・伊等の諸國がその中堅である。

イギリスは天與の地理的位置、著しい工業の發達、廣大な植民地の需給、偉大な商船隊の活躍等が相待つて、貿易額は常に世界の首位を占め、原料品・食糧品を輸入し、織物・機械・船舶等の加工品及び鑛物（石炭・鐵）を輸出する。取引は世界の各地と行はれるが、米國との間に最も盛で、白

國の植民地及び獨・佛等が之に次ぐ。著しい輸入超過國であるが、貿易外收支が莫大な爲、之と相殺して剩餘があつたが、大戰後は入超額が特に多く、その調節に苦しんでゐる。

ドイツは大戰に敗れて、總ての産業が衰へ、貿易も一時杜絕の狀態にあつたが、國民は不撓不屈の精神でその復興に努め、今は殆ど舊時に復するに至つた。主として機械類・化學製品等を世界の各地に送つて、原料品・食糧品を輸入し、英・蘭・米・佛等の諸國と取引が多い。

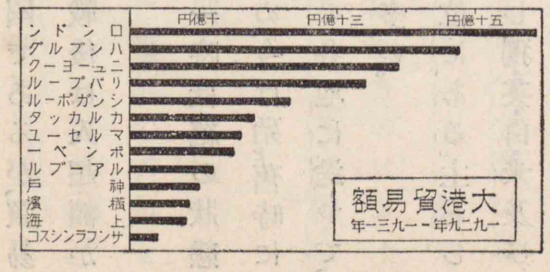
フランスの貿易額は、米・英・獨に次いで世界の第四位にある。主として燃料・原料品・食糧品等を輸入して、工業製品を輸出し、獨・英・白・米及び自國植民地との取引が多い。

歐洲に次いで貿易の盛なのは北アメリカ洲で、大戰以來急激に發達し、今や世界全額の二割に當り、米國がその大部分を占める。米國は豐富な資源と工業の發展と相待つて、著しく輸出額を增し、近年の商況は、英國を凌駕する有樣である。然し境域が廣く、國內取引が多いか

ら、産業の盛な割合に貿易額は多くないが、太平洋方面の經濟戰に最も有利な地位を占め、將來の發展は刮目に値するものがある。綿・穀物・畜産品・鑛産物及び機械類その他の加工品を輸出して、生絲・砂糖・珈琲・羊毛・粗製護謨等を輸入する。取引はカナダ・英國・日本及び獨・佛等との間に多いが、近年東亞・濠洲方面へも進展した。

アジヤ洲も漸次國際市場にその地位を進め、日本・印度及び支那等の貿易額は頗る多いが、印度と支那とは未だ原料の供給地、製造品の需要地たる域を脫しない。

世界の貿易港 世界的の大貿易港は、多く北大西洋の沿岸、卽ち西部ヨーロッパ及び北米の東岸に集中し、地中海沿岸の諸港も、亦中世の繁盛を回復した。太平洋岸にも處々に有望な商港が發達し、その將來は大西洋岸を凌ぐものとして、大いに囑目されてゐる。



世界の商港中、商船の出入が多いのは、ニューヨーク・ロンドン・ハンブルグ等で、貿易額はロンドン・ハンブルグ・ニューヨークの三港が最も卓越し、リバプール・マルセーユ・ルアーブル・ハル・ガルベストン・アンベルス等が何れも大商港として大西洋貿易の中樞となつてゐる。北太平洋方面にはシンガポール・神戸・横濱・上海・大阪・サンフランシスコ・大連等が新進の勢を示し、印度洋にはカルカッタ・ボンベー等がある。濠洲ではシドニー・メルボルンが著れ、南米にはブエノスアイレス・サントスがある。又アフリカのケープタウンは、南部の大門戶をなし、北部にはアレキサンドリヤが地中海貿易に參加してゐるが、世界的貿易港としては、未だその地位が低い。

第三章 日本の商業

第一節 國內商業

我が內地の商業は、地理上から二大系統に分れ、一は大阪を中心と

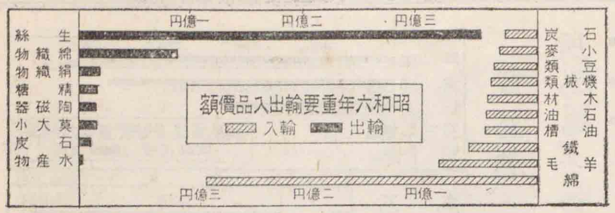
商品の取引と密接な關係のある手形交換高は東京・大阪が最も多くこの二市の交換高を合せると全國の約八割に達する

して、主に西部日本の貨物を集散し、他は東京を中心として、關東以北の需給に當つてゐる。その中間にあつて、別に一中心を作るのは名古屋で、近年著しく發達した。大阪は純然たる商工的大生産地であるが、東京は生産地としてよりは寧ろ大消費市場である。京都は永く帝都であつた關係と、美術工藝の特産とによつて、特殊の一中心をなし、その他九州の福岡、中國の廣島、奥羽の福島、北海道の小樽等も、夫々地方的中心となつてゐる。

國内取引の最も盛な貨物は米穀で、織物・綿絲・肥料等が之に次ぎ、此等は經濟界の大勢を支配するものである。

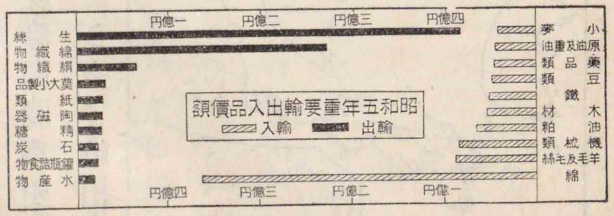
第二節　國際商業

貿易の進展　我が國は、開國後尚六十餘年に過ぎない。明治初年の貿易額は僅に約一千萬圓の輸入と、約一千五百萬圓の輸出とに過ぎなかつたが、地理上の天恵と、國勢の進展とによつて、日清戰役當時には二億圓級に進み、日露戰役後には八億圓級となり、世界大戰中には

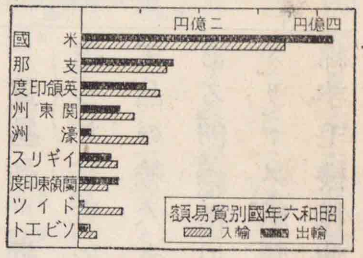


四十二億圓を超えたが、戰後財界の不況により、大正十年には二十八億圓に下り、加ふるに大正十二年關東大震災の爲に、一時憂ふべき狀態に陷つたが、再び好轉し、大正十四年には四十八億圓を超えて、我が貿易史上に新記録を殘し、最近の貿易額（昭和六年）は約二十四億圓である。この他臺灣・朝鮮を合せて一億八千萬圓餘の貿易が行はれる。

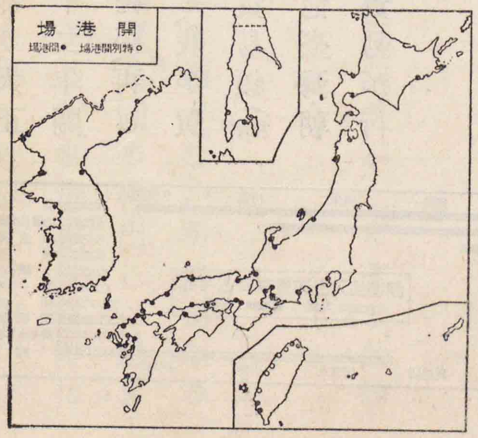
貿易品　近年國内の工業が著しく發達した爲、大いに原料品の輸入を增し、加工品の輸入も少くないが、その輸出は益增加する傾向がある。卽ち輸出の多いのは生絲・綿織物・絹織物・メリヤス・紙類・陶磁器・罐詰・食糧品等で、輸入の多いのは綿・羊毛・機械・油粕・木材・鐵・豆類・藥品類等である。



貿易國　我が國は、近くアジヤ大陸を控へ、一方は遙に北アメリカ大陸と對してゐるから、貿易もこの兩洲との間に取引が殊に盛である。取引國の中で、我が國へ多く輸入を仰ぐのは、米國・支那・印度・濠洲・關東州・ドイツ・イギリス等で、我が國から多く輸出するのは、米國・支那・印度・關東州等である。



貿易港　我が國の貿易港は大小五十餘ヶ所ある。その中貿易額の著しく多いのは横濱・神戸の二港で、全貿易額の約七割を占め、之に次ぐ大阪を加へれば八割餘に達する。門司・若松・名古屋・函館・四日市・長崎等は、更に之に次いで稍ゝ多い。



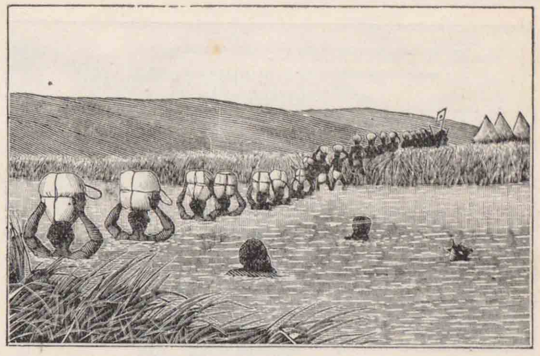
第四篇　交通地理

第一章　陸運

第一節　通路及び機關

圖解 踏分路（隊商が沙漠中の踏分路を膏地から膏地へと進んで行く

通路　陸上の通路には道路と鐵道とがある。原始時代にあつては、一定の通路もなく、所謂踏分路で、人は自由に往來したものである。今日の隊商路も亦その一種で、徑路が略ゝ一定し、道程の稍ゝ長くなつたに過ぎない。隊商路はアフリカの北部、アジヤの西部・内部等に多く、旋風等の爲に多少の變動はあるが、泉地の關係により略ゝ一定してゐる。文化が漸く進み、道路の必要が加るに從ひ、次第に加工路の發達を促し、その鋪裝材料にも石材・木材・煉瓦・地瀝青・セメント等を用ひるやうになつた。



圖解 アフリカの擔夫（ピントスといふ旅行家がアフリカ内地を跋渉した時の有様を寫したもので擔夫は荷物を頭上に載せ河を徒渉してゐる

道路上の運輸に從ふものには、人夫・駄獸及び各種の車輛がある。人の背によつて物貨を運ぶのは、最も原始的で能率が低いから、文明國には殆ど行はれない。駄獸には牛馬が最も廣く使用せられ、駱駝は沙漠の船として、現在に於いても或地方には重要である。その他水牛・犛牛・駱馬・馴鹿・象・犬等も局部的に利用されてゐる。

車輛には人力又は駄獸によつて挽かれるものがあつて、地方的に用ひられるが、文明國に行はれ、且その效用の著しいのは自轉車・自動車等である。殊に自動車は、駄獸に比べて速力・運搬力共に著しく勝り、汽車・電車に比しては極めて輕便で、地勢の制限を受けることも少いから、短距離の交通機關として、その利用は今後益々增加の傾向である。自動車の最も發達してゐるのは米國で、二千六百萬臺に達し、世界總數の約八割を占め、フランス・

圖解 運輸に使用する犬（カナダの北部で犬に橇を挽かせてゐる

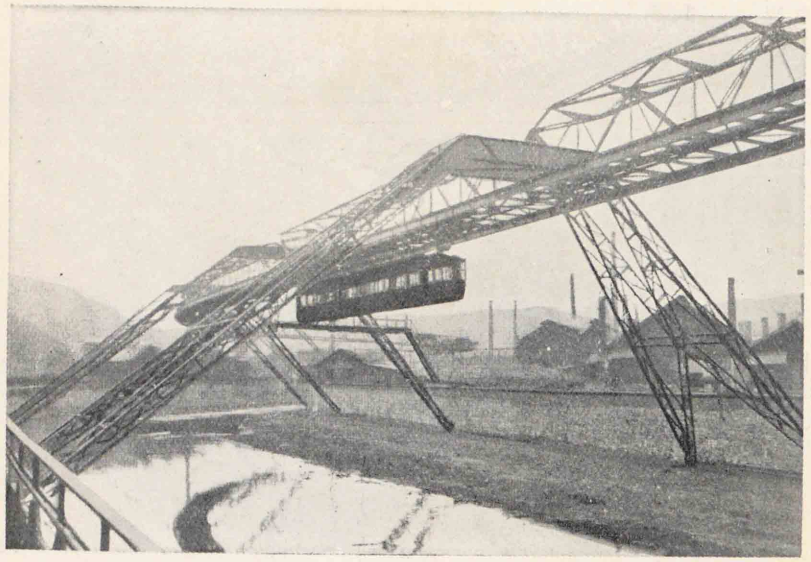
鐵道軌間には廣狹種々あつて文明國に通常使用されるのは一米四五のもので之を標準軌道とするソビエト聯邦は一米五の廣軌を用ひるも我が國は概ね一米〇六の狹軌を採用してゐるこのやうな相違は各國の地勢・經濟及び建設當時の事情等によるものである

イギリス・カナダ等が之に次ぐ。我が國は近年大いにその數を增したが、尙約十萬臺に過ぎない。而も現在に於ける道路の狀態は、自動車の發達を阻害することが少くない。

鐵道は汽車及び電車を通ずるもので、現在に於ける陸上交通機關中、最も進歩したものである。殊に汽車は、その牽引力が强大で國際交通機關として重大な使命を有する。されど汽車は、電車に比べて更に地勢的制限を受けることが多いから、山岳の多い地方には、その發達を見ることが困難である。

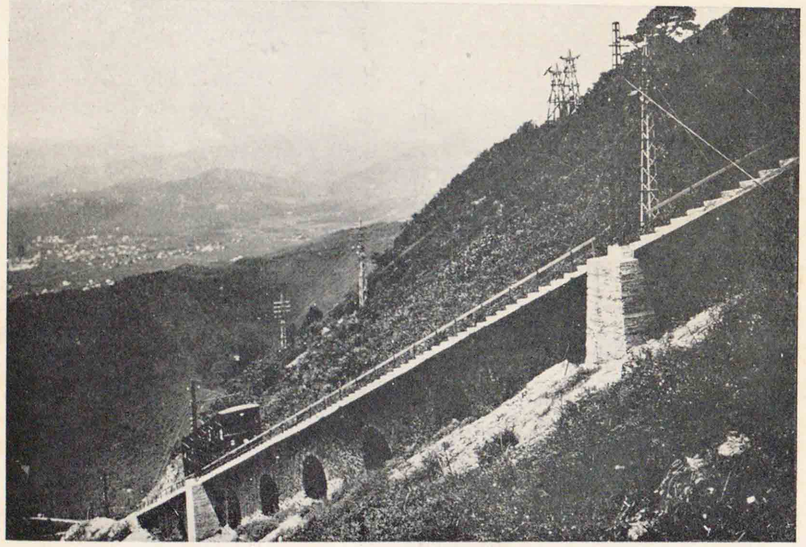
第二節　世界の鐵道

鐵道は西暦一八二五年、始めてイギリスに敷設せられ、その後次第に全世界に普及して、今は延長百二十五萬粁を超える。列國の中、延長の最も大なのは米國で四十二萬粁を超え、ソビエト聯邦・カナダ・印度・ド



ドイツの架空鐵道

バルメンからエルベルフェルドに通ずるもので奇構を極めてゐる



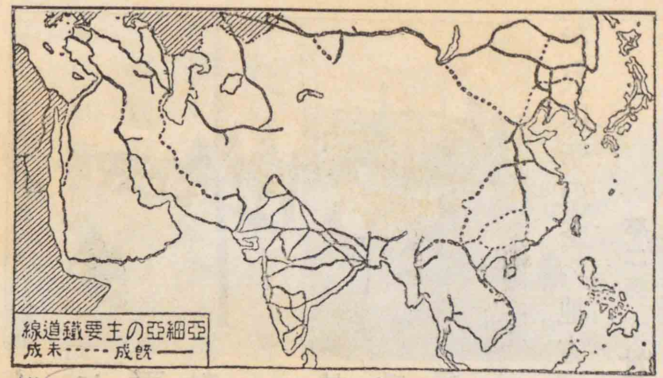
比叡山のケーブルカー

比叡山は東・西兩面に鋼索が設けられてゐる圖は西面のものである

歐洲諸國は乘客を主とするから旅客賃率が小で米國は貨物を主とするからその運賃率が小である

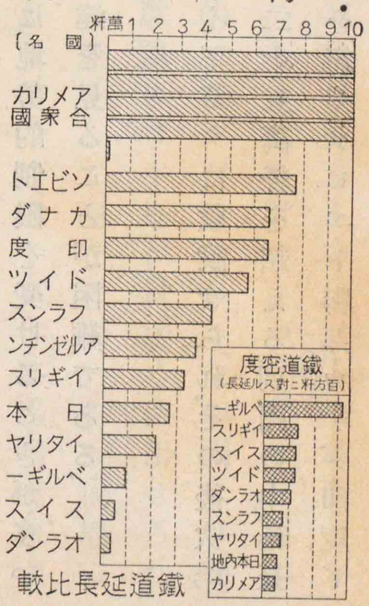
支那の鐵道は國際的には重要なものがなく又印度も延長はアジヤ第一であるが國際的に重要なものはない

イツ・濠洲・フランス・アルゼンチン・イギリス等が順次之に次いで、何れも延長三萬粁以上を有し、我が國も既に二萬八千粁に達した。面積の割合に鐵道網の密なのは、ベルギーの百方粁に對する一六・八粁を第一とし、スイスの一四・二粁、イギリスの一三・四粁、ドイツの一二・四粁等が之に次ぎ、延長の最大な米國は、面積が著しく廣いので、一方粁に對する割合は僅に五・四粁に當り、我が內地と略〻等しい。



亞細亞の主要鐵道線

アジヤの鐵道　アジヤは、面積の廣い割合に鐵道は未だ發達してゐない。日本・印度には鐵道



鐵道延長比較

東京・ロンドン間はこの鐵道を利用すると十五日餘で達せられる

網が稍〻密であるが、線路が概して孤立してゐる缺點がある。國際的の鐵道として主要な線路は、次の如きものである。

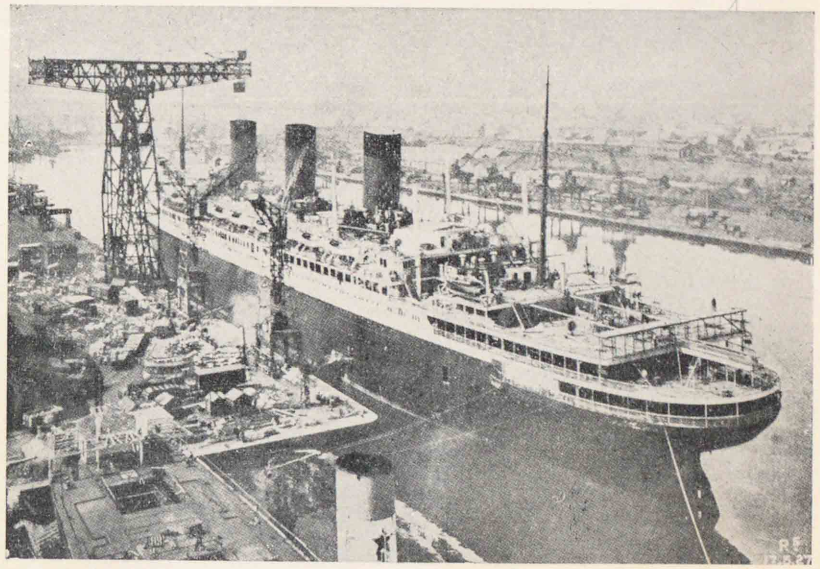
シベリヤ鐵道　ウラヂボストックに起り、二叉して北滿線及び黑龍江線となり、再び合してシベリヤの大平原を横斷し、ウラル山中のチェリヤビンスクに至るもので、之からヨーロッパの鐵道線路と連る。ウラヂボストック・モスコー間は、急行で約十一日を要し、極東からヨーロッパに至る最捷路である。この鐵道はロシヤ政府が、政治上・軍事上の必要から建設したものであるが、郵便・旅客の輸送、並にシベリヤの産業開發上に重要なものである。

ハルビンから分れる北滿南行線及び之と連絡する南滿洲鐵道は、シベリヤ鐵道と連絡し、國際交通上重要な位置を占める。

支那の鐵道　支那には北寧線・京漢線及び津浦線等の縱貫線があり、滿洲國の奉山線を經て、我が南滿洲鐵道と連絡する。

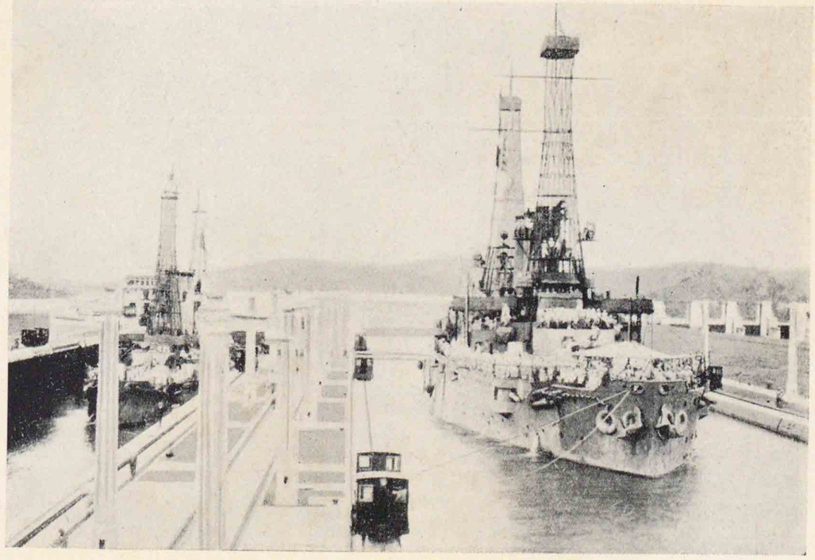
中央アジヤの鐵道　裏海の沿岸に起り、サマルカンドを經て天山山麓のアンヂジャンに達するトランスカスピ鐵道と、オレンブルグに起り、キルギス草原を通つてシル河谷に出で、タシケントを經て前者と連る中央アジヤ鐵道とは、元來軍事上の必要から敷設したものであるが、産業の開發及び歐・亞の連絡上重要の通路となり、又最近トルキスタンシベリヤ鐵道が通じて、シベリヤ鐵道とも連絡した。

バグダード鐵道　ハイダルパシャに起り、小アジヤ・シリヤ等を經てメソポタミヤ



最新式の大商船

フランスの商船で總噸數四二〇五〇噸乘客定員一六四四名



パナマ運河

米國の軍艦が數臺の電車に曳かれて閘門内を通過してゐる光景

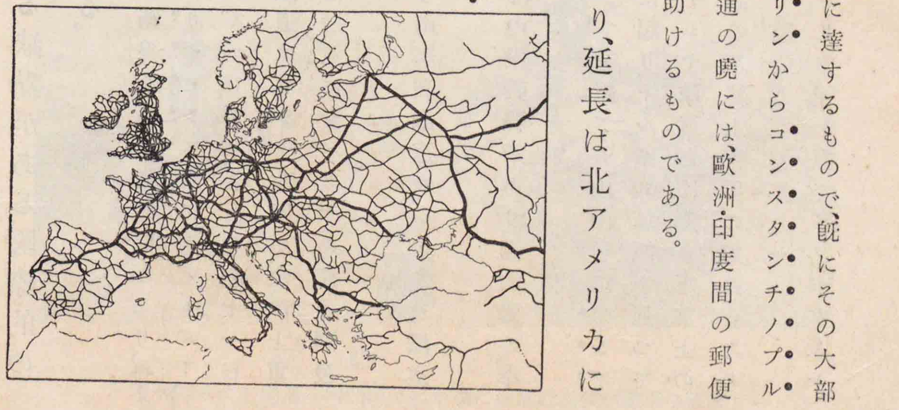
全長約三千二百粁で今はその實權が英・佛・土に分屬してゐる

圖解 ヨーロッパの鐵道網（太線は主要の幹線）

アルプス横斷線の通る峠は次の六ヶ所である
セメリング峠
ベルニナ峠
ブレンネル峠
サンゴタルド峠
シンプロン峠
モンスニ峠

平野に出で、バグダードを過ぎて更にペルシャ灣頭に達するもので、既にその大部分は竣成した。本線はもとドイツの計畫に係り、ベルリンからコンスタンチノープルを經てバグダードに至る歐・亞連絡の捷路で、全部開通の曉には歐洲・印度間の郵便線路に於いて五日間を短縮し、又沿線各地の開發を助けるものである。

ヨーロッパの鐵道　世界全線の三割餘に當り、延長は北アメリカに及ばないが、密度は大陸中第一である。殊に西北部の商工業地域に最もよく發達し、ロンドン・パリー・ベルリン等は、中歐のウィーンと共に、鐵道網の四大中心で、交通が頗る便利である。又アルプ山系にも處々に長大な隧道を穿ち、數條の鐵道を通じて、南北の交通を便にし、バルチック海は汽車航送船によつて、ドイツからデンマークに渡り、又スエーデンに至ることが出來る。重要な線路系統は次のやうである。



西北—東南系
1 パリー……サンゴタルド……ブリンヂシ（約二晝夜）
2 リバプール…ロンドン…パリー…ウィーン…コンスタンチノプル（約六十五時間）

東北—西南系
1 パリー…ベルリン…ダンチヒ…レニングラード（二晝夜弱）
2 パリー…ベルリン…ワルソー…モスコー（約二晝夜半）

印度郵便線　ロンドンからドーバー海峽を渡つてカレーに至り、パリー・モンスニ隧道を經てチュリンに出で、イタリヤ半島を縱走してブリンヂシに達するもので、ロンドン・印度間の最捷路である。

東方郵便線　ロンドンからドーバーに至り、海峽を渡つてカレー・パリー・ストラスブール・ウィーン・ブダペスト・ソフィヤ等を過ぎ、コンスタンチノプルに至るもので、此處からバグダード鐵道に連絡することが出來る。

北方郵便線　パリーに起り、ケルン・ベルリンを經てレニングラードに至るもので、一線はワルソーから東方に分れてモスコーを過ぎ、ウラル地方に出てシベリヤ鐵道と連絡する。

南方郵便線　パリーから南方に向ひ、ツール・ボルドー・バヨンヌを經てイベリヤ半島に入り、マドリードを過ぎてリスボンに至る。

アフリカの鐵道　南部と東北部とは稍ゝ發達し、所謂アフリカ縱貫鐵道は、この兩方面の鐵道を連絡せんとするもので、北方では、既にアレキサンドリヤからカイロに至り、此處からナイル河に沿つて、ハルツームに達し、南部ではケープタウンから北上し、ザンベジ河を越え

本線を利用すると横濱・ロンドン間に二十五日を要する

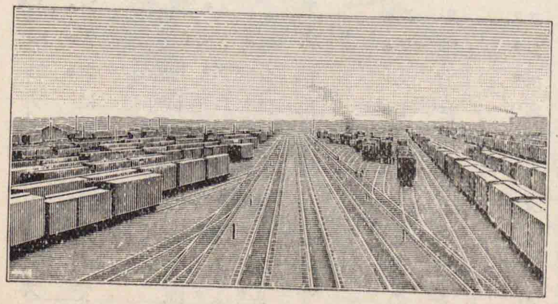
圖解カナダの鐵道（ウィニペグ停車場の光景で輻輳せる線路と貨車の多いのに注意

て白領コンゴに達した。本線の大部分は未開地を通過し、交通・商業上の價値は乏しいが、イギリスの植民地統一上重要なものである。

北アメリカの鐵道　世界全線の四割强を占め、殊に米國の東半は、鐵道網が極めて密である。西部には山地・高原が多く、密度は小であるが、數條の大陸横斷鐵道があつて、大湖附近・ミシシッピ河流域又はメキシコ灣岸と、太平洋岸とを連絡し、更に東岸に至る鐵道と接續して、政治上は勿論、交通・運輸上にも極めて重要なものとなつてゐる。

カナダ太平洋鐵道　モントリオールを起點として、東は大西洋岸に延び、西はオタワ・ウィニペグ・カルガリーを過ぎ、ロッキー山脈を越えて太平洋岸のバンクーバーに至るもので、この鐵道會社は北太平洋・大西洋の汽船航路をも經營するから、旅客・貨物の輸送上利便が特に大きい。

カナダナショナル鐵道　大幹太平洋鐵道と呼ばれたもので、ケベックから起り、前者と略平行してその北を西走し、ウィニペグに至つて方向を北西に轉じ、エドモントンを經、ロッキー

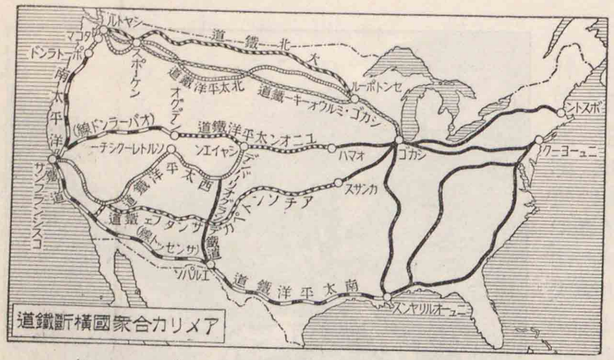


シヤトル・シカゴ間は三五五〇粁で約三晝夜二時間を要する

テワンテペク鐵道は現時少數の客車で一日僅に一回の運轉をするのみだといふ最近この沿線に三自由港を制定して回復策を講じてゐる

山脈を越えて太平洋岸のプリンス・ルパート港に達する。

大北鐵道　**北太平洋鐵道**及び**シカゴ・ミルウォーキ鐵道**と共に、米國の北部に於ける横斷線で、シカゴ・ミルウォーキー又はスペリオル湖岸を起點とし、セントポールを經て西に走り、ミネソタ・北ダコタ・モンタナの諸州を過ぎ、ピューゼットサウンド内のシヤトル・タコマ又はポートランドに至る。



アメリカ合衆國横斷鐵道

ユニオン太平洋鐵道　オマハに於いてシカゴから來る中央太平洋鐵道と連絡し、シャイエンを經てオグデンに至り、南太平洋鐵道と合してサンフランシスコに達する。

サンタフェ太平洋鐵道　セントルイスに起り、サンタフェ越を過ぎてコロラド高原に出で、ロスアンゼルスに至る。

南太平洋鐵道　ニューオルリヤンスに起つてメキシコ灣岸を西走し、エルパソを經てロスアンゼルスに出で、海岸に沿うて北上し、サンフランシスコに至るもので、カリフォルニヤ谿谷の南半と、メキシコ灣岸の諸港とを連絡し、倘北方及び東方へも延びてゐる。

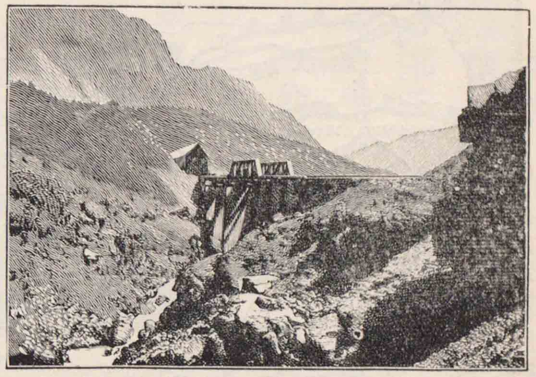
この他南部に**テワンテペク鐵道**・**パナマ地峽鐵道**等があり、大陸の狹い部分を横斷してゐる。

南アメリカの鐵道　西部にはアンデスの峻

圖解 アンデス横斷鐵道の一部（バルパライソ・ブエノスアイレス間は約二日で達し得られ海路の約十四日に對し著しく便である

バルパライソ・ブエノスアイレス間は約一四二三粁ある

峯が重疊し、東部には人跡未到の大森林が横はり、鐵道の敷設が困難で、高原と海岸とを連ねる短線が多く、且外資により、外人の技師を用ひるものが少くない。



アンデス横斷鐵道 バルパライソに起り、アンデス山脈を横ぎつて、ブエノスアイレスに至るもので、南米唯一の横斷線であるが、軌幅の統一を缺くので不便が少くない。

汎アメリカ鐵道 所謂汎米鐵道はニューヨークに起り、メキシコ・中央アメリカを經て南米に入り、アンデス山地を横ぎつてブエノスアイレスに至る約一萬六千粁の大鐵道で、中央アメリカ及びアンデス山地に於ける約六千粁餘の未成線を除き、概ね既成線を利用し得るものである。米國人の計畫に出で、之に依つて南・北アメリカ諸國の交通・經濟を統一し、自國の勢力下に全アメリカを糾合せんとする、政治上の目的をも有するものである。

濠洲の鐵道 濠洲大陸に於いて、鐵道の稍々密な處は東南部に限られ、南部には横斷鐵道があつて東西の要市を連ね、その東端のブリスベーンから西端のパースまでは約五千六百粁ある。南北縦貫の豫定線も、亦その一部を開通した。

圖解 インダス河の土人の船（籠を浮べたやうなもので原始的な趣がある

第二章　水運

第一節　水路及び機關

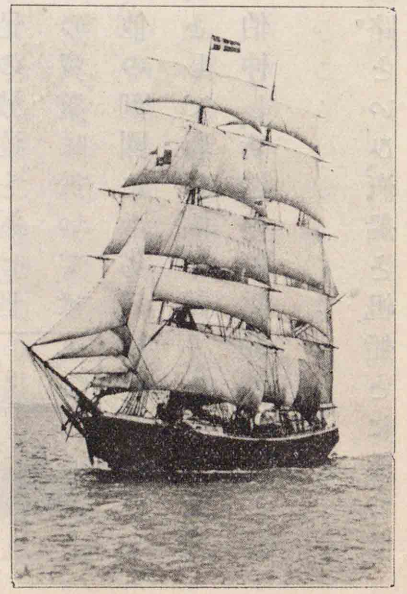
水路には河川・湖沼・運河・内海・大洋等がある。各々特有の機能によつて、交通上の役目を果してゐる。水の浮力を利用して貨物を輸送することは、未開の原始時代に於いても既に行はれ、船は車輛よりも遙に早く發明されたものである。水路は抵抗力が少いから、陸路に比べて力の消耗は著しく小であるが、之と共に風波の脅威が頗る大であるから、その原始期には專ら河川・湖沼のみを利用したが、漸く進んで内海交通の時代に入り、地中海・バルチック

海等の沿岸諸港は、之が爲に殷盛を極めた。中世紀に至り、バスコダガマは喜望峯を迂回して印度に達し、コロンブスは大西洋を横斷してアメリカ大陸を發見し、遂に大洋航海時代を開いた。爾來產業の發達につれて、大陸間の貨物の移動が頻繁になり、大洋航路は益〻整ひ、それと共に產業は一層の發展を見るに至つた。

世界は大洋交通の時代に入つたが、歐洲の河川・運河及び北米の所謂淡水地中海の內陸水路、地中海の內海航路等は、產業地帶の中樞にあるから、依然として重要の交通路たる價値を失はない。

中部歐洲の水運

船舶　水路により貨物を輸送するには船を用ひる。最初は人力で船を動かしたが、稍〻進んで風力を利用する帆船を用ひるやうになり、大洋航海時代の初期にも、專ら帆船であつたから、幾多の不安と危險とがあつた。蒸氣機關の發明によつて、始めて巨大な快速力の船が建造されるやうになり、更に最近は內燃機關が船に利用されるに及び、海洋に於ける交通の安全は確實となり、速度は著しく增大した。船の動力には專ら石炭を用ひて來たが、今は重油又は石油を用ひる船が多く、電氣裝置によるものも出來た。

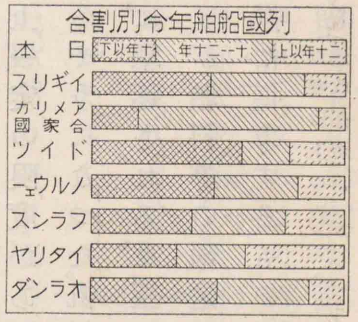

圖解　横帆船（帆船は大別して横帆船縱帆船とし大形洋航船は殆ど悉く横帆船である。

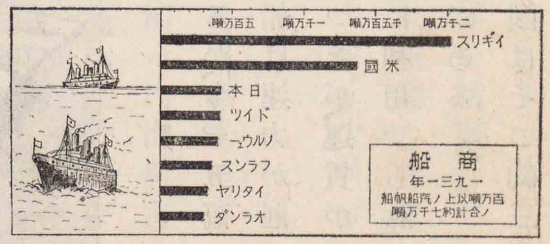
船の大きさとその速度とは、經濟上一定の限度があるが、今や五萬噸以上の巨船、三十節の快走船を見るやうになつた。帆船は速力が遅く、且發着の正確を期し難い爲、次第に驅逐されるに至つたが、運賃が低廉であるから、容積の大きな原料及び燃料等の輸送に利用せられ、汽船全盛の今日、尙帆船で長距離運搬に従事するものがある。

世界の商船噸數は合計約七千萬噸（百噸以上の汽船帆船合計）で、英國はその約三

分の一を有し、地球上到る處の海上に活躍して、世界何れの商港にもユニオンジャック(英國旗)を見ない處はないと誇稱する。米國は新進の海運國で、世界大戰後に著しく發展し、世界總船舶の五分の一を有して、英國に接せんとする勢がある。

我が國も大戰の影響によつて、長足の發達を遂げ、世界第三位の海運國に躍進したが、その實質に於いては遙に前二國に及ばないのみならず、他の列國にも劣る所が少くない。ドイツは戰後、商船の大部分を賠償として聯合國に讓り、大打擊を蒙つたが、急速に回復して、噸數は我と伯仲し、新造の優秀船が多い。



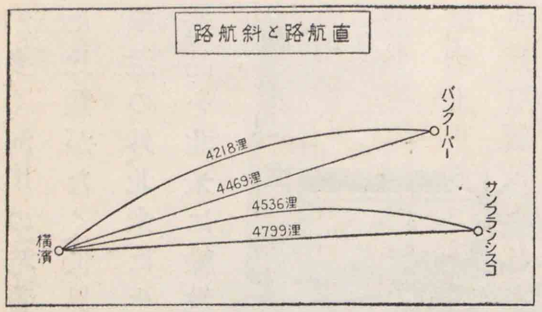


第二節　世界の航路

航路　船舶の航行する水路を航路といひ、汽船と帆船とによつて

ヨーロッパから北米に至るには南下して貿易風を利用し歸途は偏西風を利用して北上する

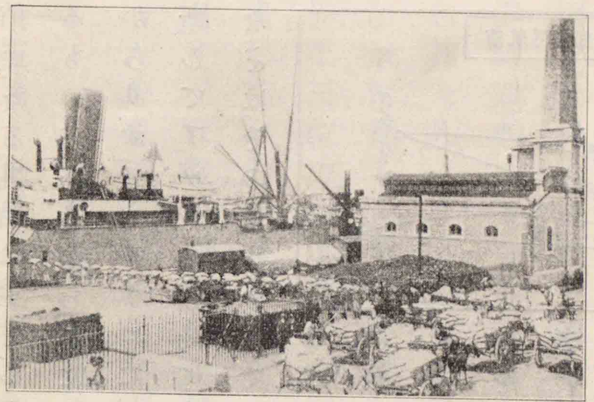
稍異なる。帆船は主として風を利用し、特に大洋に於いては定風によるものであるから、時に大迂回をすることが珍しくない。ニューヨークからリオデジャネーロに至る帆船は、殆ど正東の針路をとり、大西洋を横斷してアゾレス諸島に出で、此處から貿易風を利用して南に轉ずるなどは、その著しい例である。之に反し汽船は風向・海流等に支配されることが比較的少く、各港間の最短距離を短時間に航行するやうに努める。二地點間の最短距離を直航路又は大圏航路といひ、海圖上に於いて二點間を直線で結ぶのを斜航路といふ。短距離では、兩者の差は極めて少いから、斜航路を採るのが普通であるが、大洋航海は直航路によつてゐる。



北大西洋航路　歐洲西北部の諸港と、アメリカ東北部の諸港とを連結するもので、この兩地域は世界に於ける大商工業地である上に、海岸に良港

南米東岸と歐洲とを結ぶのを南大西洋航路といひ北米東岸と結ぶのを西大西洋航路といふ

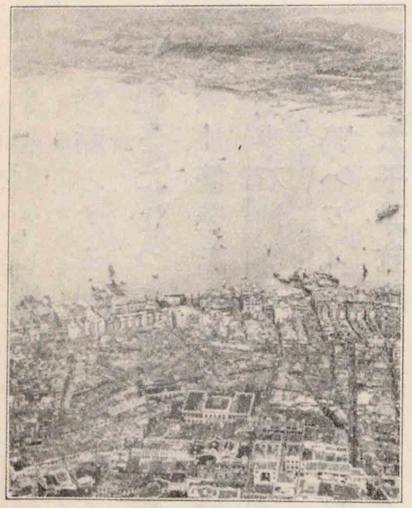
圖解 珈琲の積出(サントス港の光景で多數の擔夫は珈琲の袋を背に擔ぎ列をなして船に積込んでゐる)



が多く、河川の培養するものが豐であるから、交通の頻繁なことは他に比類がなく、世界船舶總噸數の六分の一はこの航路に從事し、旅客輸送の外、北米に生産する食糧品原料品を歐洲に送り、ヨーロッパの製造品を北米に輸送する。世界最大の商船、最快速の客船は、槪ねこの航路に就き、四日餘で大西洋を橫斷することが出來る。

他の大西洋航路　南米とヨーロッパの西岸とを結ぶものを中央大西洋航路といひ、北米の東岸と結ぶものを西大西洋航路といふ。共に加工品を南米に送つて、ブラジルの珈琲、アルゼンチンの畜産・穀物等を積載する外、移民の來往も多い。この航路の延長は、マゼラン海峽を過ぎ、太平洋岸を北上して、鑛石・グァノ・果實・木材等を積込み、或はニュージーランド及び濠

圖解 背後の山上から見た香港の一部(遠景は九龍半島)



洲に至るものがある。

ヨーロッパからアフリカの西岸を回航して、ケープタウンに至るものを東大西洋航路(又は西アフリカ航路)といひ、南阿と南米とを連ねるものを南大西洋航路といふ。

印度洋航路　地中海の諸港から、紅海を經て印度洋に出で、南亞・東亞及び濠洲の諸港に至るもので、又西に延長して、歐洲の西岸・北米の東岸より、更にパナマ運河を經て、世界を一周する航路もある。北大西洋航路に次ぐ重要なもので、世界船舶の一割以上が此處に浮び、北米・ヨーロッパの綿製品・鐵器・鐵道材料・機械等と、東洋及び南洋産の食糧品・原料品とを交易する。アフリカ東岸航路はこの一支線と見るべきものである。

北太平洋航路　北アメリカの西岸

諸港を起點とし、横濱・神戸を以て東洋の中心地とし、上海・香港・マニラ等を終點とするもので、日本・支那に於ける商業の發展と、パナマ運河の開通とによつて、急激に發達し、之につれて北アメリカ西岸の諸都市は、俄に繁榮を加へた。この航路によつて、北アメリカの鐵・機械類・金屬器・小麥・石油等と、支那・日本の生絲・茶・絹織物・陶磁器・製帽眞田、或はマレー諸島・ハワイ諸島の護謨・砂糖・煙草・麻・香料等とを交易する。

他の太平洋航路　北アメリカの太平洋岸諸港から濠洲に直航し、或はハワイ・サモア・フィジー・ニュージーランドを經て、多くはシドニーを終航點とし、或はメルボルンに至るものを南太平洋航路といひ、南・北兩米の西部諸港を連ねるものを東太平洋航路、東亞の諸港からマレー地方を經て濠洲に至るものを西太平洋航路といふ。

我が國の海運業　地理的位置の良好と、大戰中に於ける我が海運業者の活躍とが相待つて、海運業の進歩發達を促し、一躍して世界第三位の海運國となつた。我が國船舶の大部は遠洋航路に從事し、近海・

沿海の航路に就くものは全數の四分の一に達しない。主要の外國航路は左記の如きものである。

(一)ヨーロッパ航路
横濱を起點としロンドン・アンベルス・ハンブルグ等と往復する。

(二)北アメリカ航路
香港・神戸等を起點とし、シャトル・ロスアンゼルス・ニューヨーク等を終點とする。

(三)南アメリカ航路
横濱・神戸・香港等を起點とし、ブエノスアイレス・バルパライソ等を終點とする。

(四)濠洲航路
横濱を起點とし、メルボルンを終點とする。

(五)南洋航路
神戸・横濱・香港等を起點とし、スラバヤ・ヤルート・メナド・ダバオ・ハイフォン等を終點とする。

(六)支那航路
神戸・長崎・横濱・基隆・高雄等を起點とし、上海・天津・大連・營口・青島・香港・廣東等を終點とするものと、上海・廣東・天津等の支那沿岸の諸港を連ねるもの及び長江沿岸の各港を連ねるもの等がある。

英國政府は株劵の過半を持つてゐる

(七)**シベリヤ航路**
小樽・敦賀・大阪等を起點とし、ウラヂボストック・ペトロパウロフスク等と往復する。

(八)**印度航路**
横濱を起點とし、ボンベー・カルカッタ等と往復する。

(九)**アフリカ航路**
神戸を起點とし、アフリカ東岸の諸港を連ねてダーバンに至る。

第三節　世界の海運と二大運河

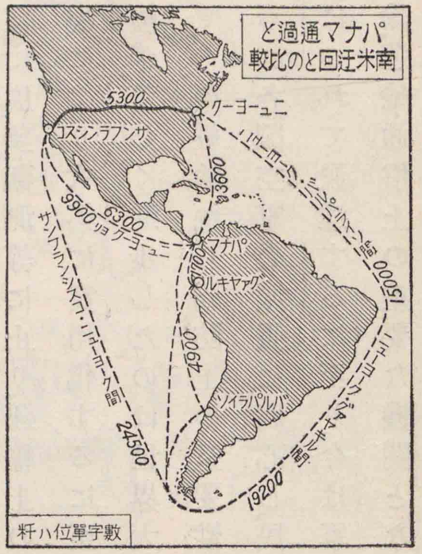
スエズ・パナマの兩運河開通は、世界の航路に大變動を與へ、交通・貿易に二大時期を劃したものである。

スエズ運河　地中海岸のポート・サイドと、紅海岸のスエズ港とを連ねる水平式運河で、その全長一六三粁(八八浬)ある。運河はスエズ運河株式會社の經營する所で、一八六九年に開通し、後に英國政府が之を管理し、一八八八年のコンスタンチノプル條約で中立地帯となつた。この運河の開鑿により、從來アフリカの南端を迂廻した航路の不便は全く一掃されて、歐・亞間の交通は俄に盛となり、地中海岸の諸港は繁榮を復した。この運河を通過する一年間の船舶は六千隻内外で、通過料は九千萬磅に近い。

航路短縮表

リバプール發 港名	ケープタウン經由	スエズ經由	短縮浬數
ボンベー	一〇九八五浬	六二四一浬	四七四四浬
バタビヤ	一一五一三	八五六七	二九四六
香港	一三〇四六	九七三一	三三一五
シドニー	一二九四〇	一二〇三六	九〇四

パナマ通過と南米迂回との比較



數字單位ハ粁

パナマ運河　中央アメリカのパナマ地峽を開鑿したもので、太平洋岸のバルボアから、大西洋岸のクリストバルに至る八一粁(五〇浬)の閘門式運河である。運河はアメリカ合衆國の經營するもので、運河地帶兩側の永久租借權と、地帶

航路短縮表

ニューヨーク發 港名	マゼラン海峽迂回	パナマ經由	短縮浬數
サンフランシスコ	一三五六四浬	五二九九浬	八二六五浬
横濱	一三五六四	九八三五	三七二九
上海	一二五二四	一〇八九五	一六二九
シドニー	一三六五八	九八一四	三八四四
イキケ	九三三一	四〇三一	五三二〇

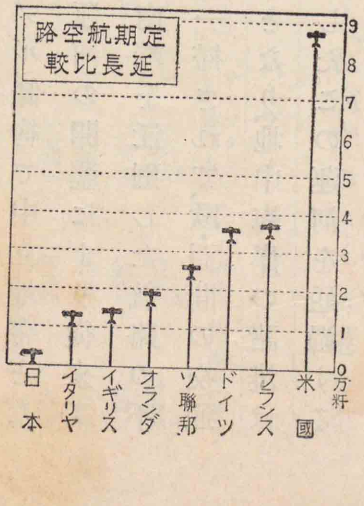
内の警察・衛生・司法の權とをその手に收めた。この運河の開通により、太平・大西兩洋間の航路は著しく短縮されて、世界の交通上に大變革を來し、その通過數はスエズと伯仲してゐる。

第三章　空　運

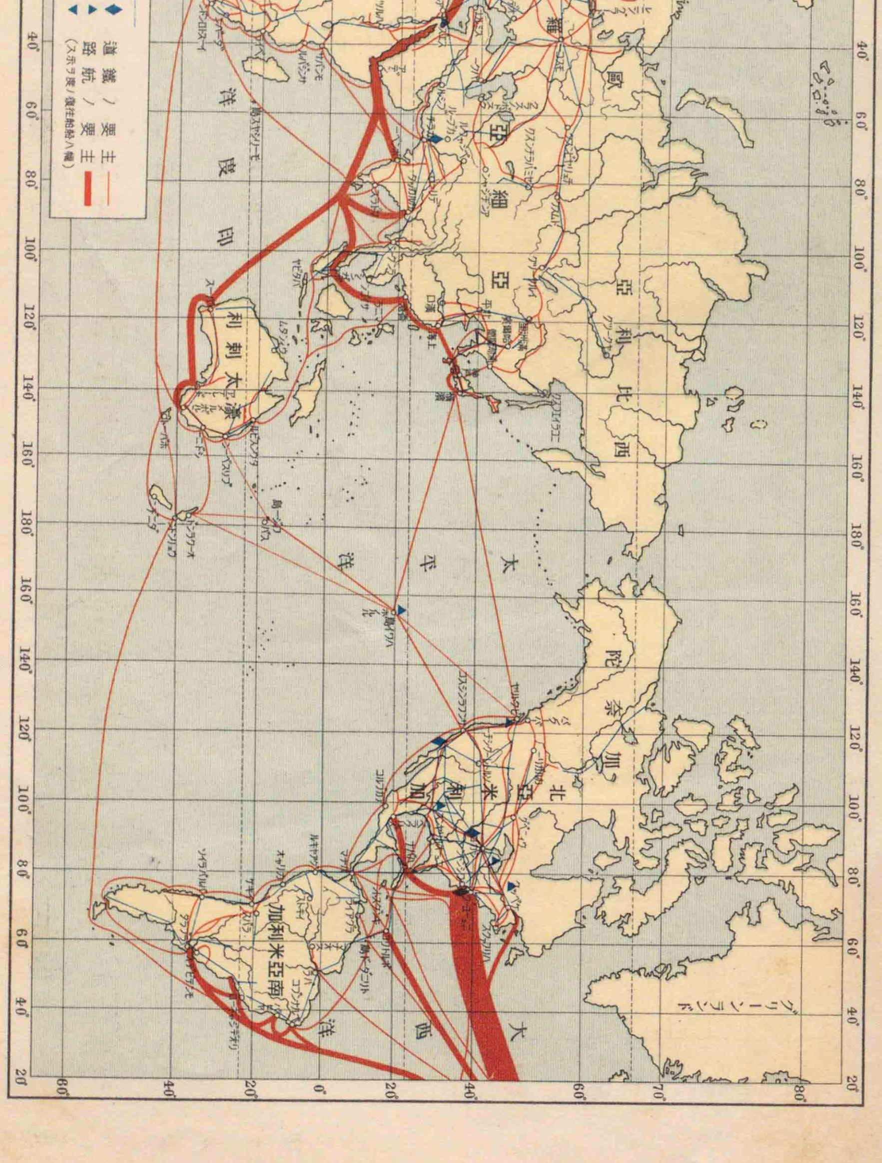
第一節　空路及び機關

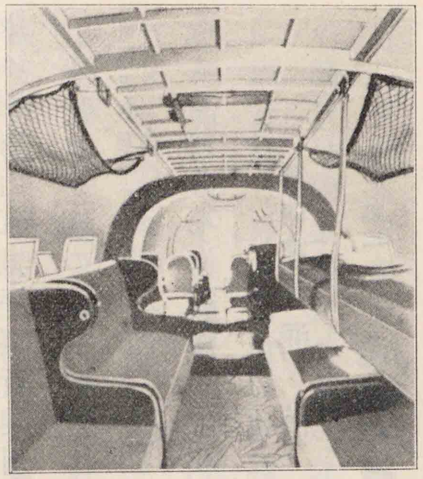
航空機の發達は極めて近年のことで、稍〻古いのは輕・氣球であるが、僅に展望觀測等に止り、運輸上の價値は殆となく、飛行・飛行船・飛行機等の出現により次第に實用化するに至つた。飛行機が著しく進歩したのは世界大戰の結果で、その經驗から國防上の重要性を認識せられ、各國空軍の擴張に腐心し、民間機も之につれて發達するに至り、今は軍事上は勿論運輸通信上の重要な機關となつた。

定期航空路延長比較



主要交通機關

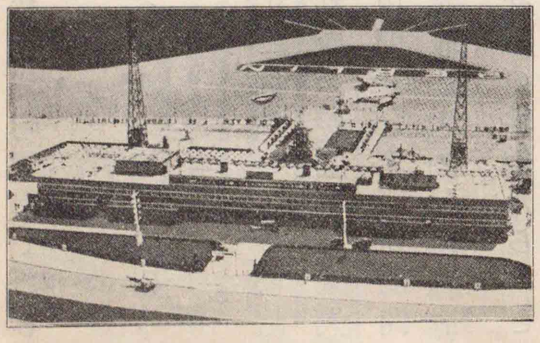




圖解 飛行機內の寢臺（フランスの或旅客機の內部

航空路　空路は陸路・海路と異なり、水平にも垂直にも進行し得られ、且兩地點の最短距離を選むことが出來るので、極めて便利であるが、天氣と密接な關係があるから、刻々の通報を受ける爲に航空無線局を設け、夜間航空の爲に航空燈臺を設け、又不時の障害等の爲に、中間着陸場を設けて置く必要がある。

航空港　航路に海港があり、汽車に停車場のある如く、航空路には航空港がある。航空港は飛行機の發着場で、廣い飛行場や地上標識・無線電信局・格納庫・修繕工場等の附屬してゐるのが普



圖解 ベルリンの航空港

通であるが、國際的の大航空港には、稅關・ホテル等まで附屬してゐる。世界の大航空港は、パリー・ベルリン・ロンドン・バッファロ等にあるもので、我が羽田も規模は頗る大きいが、廣さはパリー・ベルリン等の三分の一にも及ばない。

我が航空事業の發達は最近に屬し、旅客用として開始したのは昭和四年のことで、歐米諸國に比して尙遜色を免れないが、既に東京・大阪・福岡・蔚山・京城・平壤・新義州・大連間（航空輸送）、大阪・松山間（航空研究）、東京・新潟間（朝日）等には定期の航空が行はれ、滿洲國に於ける滿洲航空會社の空路（新義州・奉天・新京・ハルビン・齊々哈爾・ハイラル・滿洲里間及び大連・奉天間）と連絡して、將來歐・亞交通の幹線たらんとし、その他各地に遊覽飛行も行はれてゐる。

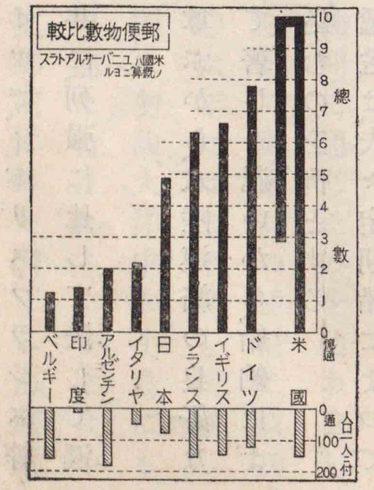
第四章　通信

第一節　通信の機關

通信機關には郵便・電信・電話等がある。此等は經濟上に重要なのみでなく、政治上・軍事上或は社交上一日も缺くべからざるものであるから、何れも最新の知識を應用して、通信の迅速と確實とを期し、且その經營は國家が自ら當るか、或は補助金・補償金を交付して、民間の會社に經營せしめる。又通信機關は、その性質が國際的であるから、國際條約を締結して、その機能を圓滑ならしめてゐる。

第二節　郵便

郵便の發達　我が國は、明治四年始めて東京・京都・大阪間に郵便制度を實施し、十年萬國聯合郵便條約に加盟し、十五年郵便稅均一制を布き、二十五年六月小包郵便法を發布した。ヨーロッパに於いては、十九世紀の初から低廉な郵便物制度が行はれ、今は世界各國ともその制度が殆ど完備して、郵便物發送の多少は、一國文化の表徵とせらるるやうにな



従來シベリヤ經由は敦賀から浦潮を經たが敦賀・浦潮間の便航回數が少い爲近時朝鮮經由を本體とすることになつた

つた。毎一人當り郵便物の最も多いのはドイツで、イギリス・フランス等が之に次ぎ、我が國は、その普及及び制度共に、列强に比して決して遜色がない。

郵便線 郵便物の輸送は、特に迅速を尊ぶから、水陸連絡の良好な捷路による。船舶輸送は鐵道輸送に比して著しく遲いから、船舶による郵便物は、鐵道最終點の港に於いて積込むのを例とする。

我が國から諸外國に差立てる郵便物遞送は、夫々定期船によつて送られる。歐洲に向ふものには、左の三線がある。

シベリヤ經由線 下關から朝鮮・滿洲國の鐵道を經由するが、極東シベリヤの分は敦賀・七尾・小樽・函館からウラヂボストックに送る。

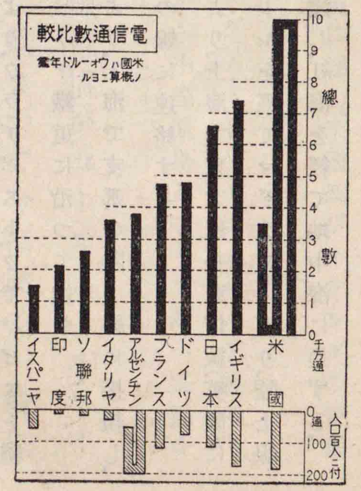
スエズ經由線 一に西廻線といひ、歐洲航路によるもので、アメリカ經由よりも十數日後れる。

アメリカ經由線 一に東廻線といひ、北米航路により、太平洋を横ぎつてバンクーバーに至り、北米大陸を經て歐洲に達する。

第三節 電信及び電話

無線電信の發達につれ大海底電線の新設は殆ど休止の狀態である

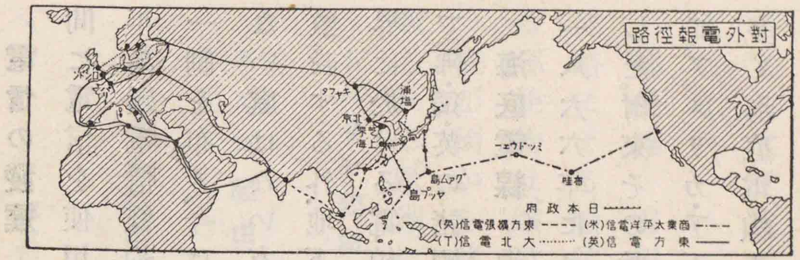
電信の發達 我が國は明治二年京濱間に電信を使用したのを始めとし、十二年萬國電信條約に加盟し、十八年料金均一制を布き、今は全國到る處、電信の通じない處はない有樣である。電信は陸上に敷設する外、地下線及び海底線がある。世界に於ける電線延長の最も多いのは米國で、佛・獨・英の諸國が之に次ぐ。



海底電線 海底電線は、一八五一年英・佛間に通じたのを始めとし、一八六六年には大西洋横斷線が敷設せられて、歐・米間の通信に成功した。爾來その敷設が各方面に及び、一九〇六年には太平洋を横斷して、アメリカ・アジヤを連絡し、今や各大陸間は勿論、大洋中の小島にも、多く海底電線を通じて、世界の通信は頗る迅速に行はれるやうになつた。我が國に於いても、主要島嶼の外、朝鮮・支那・南洋等に通ずる海底電

信線を敷設し、小笠原島線は米國の太平洋横斷線に連結して、世界各地と通信を交換することが出來る。

我が國から外國に通ずる電信線



極東方面

1 長崎・上海線　大北電信線(デンマーク)と日本政府線とある。

2 臺灣・福州線　日本政府線を通ずる。

3 長崎・ウラヂボストック線　大北電信線を通ずる。

歐洲線

1 前記の大北電信線により、ウラヂボストックでソビエト聯邦の陸上線と續き、シベリヤ鐵道に沿つて進む。

2 前記の長崎・上海線により、上海で支那の陸上線に接續し、蒙古を横斷して前記の線に連絡する。

3 前記の長崎・上海線により、上海で東方延長電信線(英國)に接續し、香港・シンガポールを經てマドラスに至り、陸上線となつてボンベーに達し、紅海を經て地中海に通ずる。

米國線

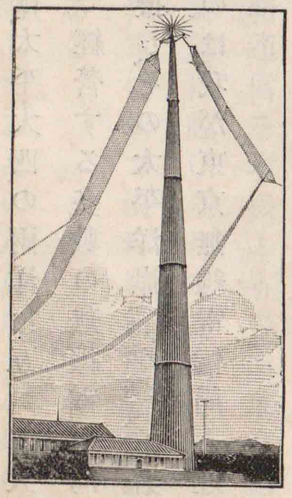
1 我が小笠原島線は小笠原島で、太平洋横斷電信線(米國)の支線と接續する。

2 我が管理に屬するヤップ線は、琉球からヤップ島に達し、米國及びオランダの管理してゐる線と連絡する。

米國の太平洋横斷電線は、上海からマニラ・グァム・ミッドウェー・ホノルルを經てサンフランシスコに達するもので、グァム島から小笠原島及びヤップ島へ支線を出す。

無線電信　一九〇一年、マルコニ式無線電信がコーンウォール・ワイト島間に設置されたのを始めとし、次第に擴まつて今は廣く一般に使用せられ、都市・港灣・島嶼は勿論、艦艇・商船・航空機・列車等の移動物にまで設置せられ、且大電力を使用せば、地球上到る處の遠距離とも直接に通信し得るに至つた。世界の列國は、互に無線電信で結合せられ、殊にその本國と屬地とは、之を利用してよく連絡されてゐる。

無線電信は一八九六年イタリヤ人マルコニの發明である



圖解 東京無線電信局(原町にある送信所のアンテナ

(一) アメリカ合衆國は夙に世界第一

の進歩發達を示し、海軍經營の軍用局は、太平・大西の兩洋に亙つて大無線網を形成し、又アメリカ無線會社で經營する多數の無線電信局があつて、歐洲諸國・南米等と通信を交換し、その太平洋岸(ボリナス送信局・マーシャル受信局)及びハワイ(カフク送信局・コヘッド受信局)にあるものは、我が東京無線電信局と連絡してゐる。

(二)歐洲では英國が最も發達し、政府及びマルコニ無線會社の共同經營で、本國と植民地とを連絡する大無線網を有し、その他各國共にその整備に力を用ひ、ロンドン(イギリス)・ナウエン(ドイツ)・ボルドー(フランス)・ウルソー(ポーランド)等の無線局は、何れも我が國と通信を交換する。

(三)我が國の無線電信も近年著しく發達し、國際的の大無線局を始め、必要の施設は略〻完備してゐる。

對外無線電信局　海外諸國を相手とし、直接通信を取扱ふもので、東京無線電信局・名古屋無線電信局がそれである。

1 東京無線局(福岡受信所・小山送信所)　米國・ハワイ・南洋諸國・極東諸國と通信を交換する。

2 名古屋無線局(依佐美送信所・四日市受信所)　歐洲諸國と通信を交換する。

3 落石無線局(落石送信所・根室受信所)　カムチャッカ地方と通信連絡を營む。

4 大阪無線局(平野送信所)　專ら滿洲國に送信する。

5 トラック無線局　ニューブリテン諸島と通信する。

對船舶無線電信局　海上の船舶を相手とし、通信業務を取扱ふもので、海岸の要地に設けられ、その數が甚だ多い。

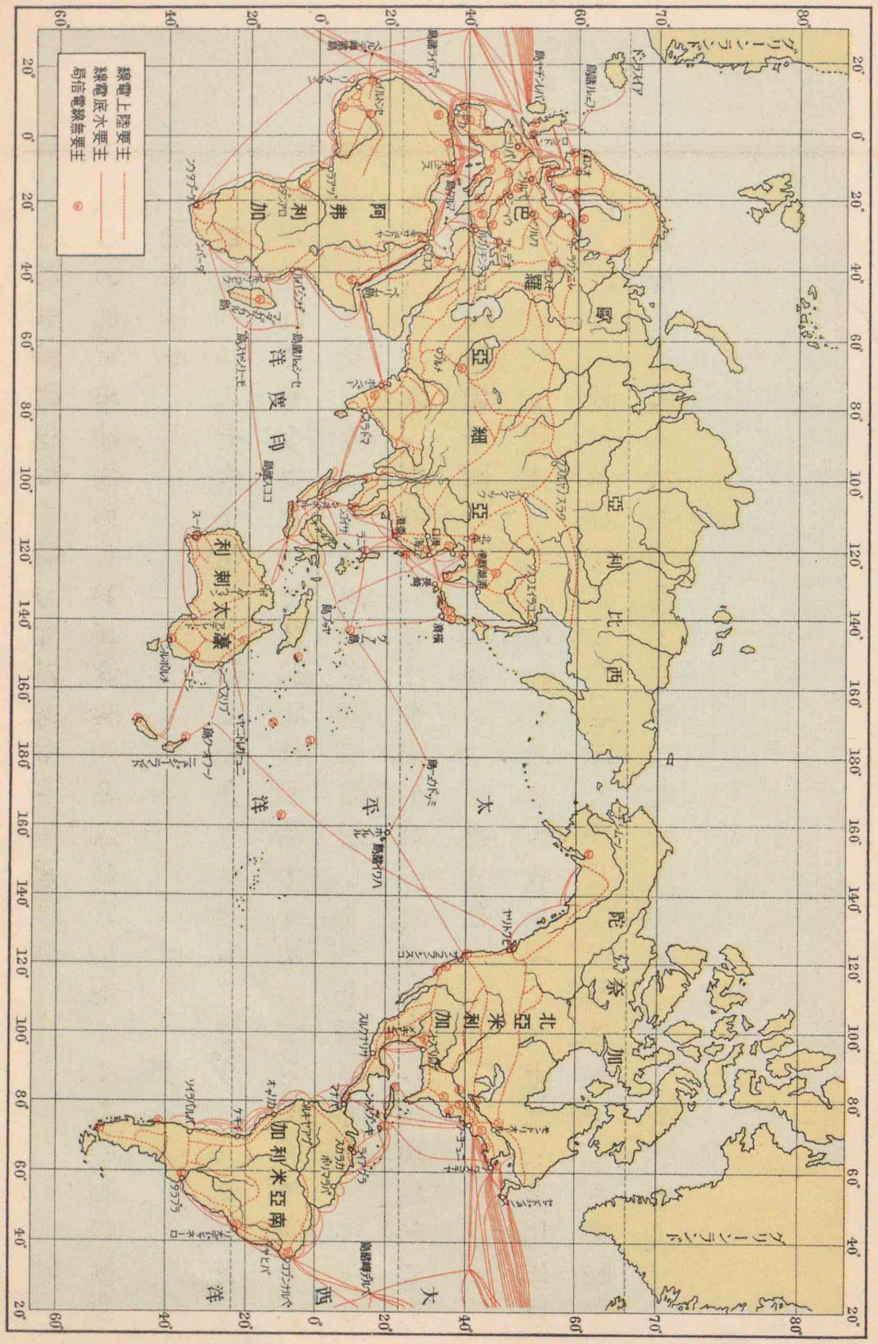
對植民地無線電信局　植民地の無線局と連絡するもので、東京無線局の樺太・朝鮮・臺灣・南洋諸島、大阪無線局の朝鮮、鹿兒島無線局の臺灣に對する如きがそれである。

航空無線電信局　專ら航空機との連絡通信を取扱ふもので、東京箱根・龜山・大阪・福岡その他航空上の要所に設けられてゐる。

船舶無線電信局　船舶内にある無線電信所で、海岸局及び船舶相互間の通信事務を取扱ふものである。

島嶼連絡無線電信局　海底電信の通じてゐない小島には、小規模

主要電信機關



有線の寫眞電送は最近の發明であるが東京・大阪間には公衆用電送を開始した

島の無線電信局を設けて、陸地局と連絡する。

この他軍事通信用・官廳用・實驗用及び私人に屬するもの等の施設は頗る多い。

電話 一八七六年始めて世に紹介されたもので、今は一般に普く使用されるやうになつた。我が國は明治十年始めて京・濱間に通じ、三十二年東京・大阪間の長距離電話が開通し、今や全國の都市に普及してゐる。電話加入者の多いのは米國が第一で、獨・英・佛の諸國が之に次ぎ、我が國は尙米國の二十八分の一に過ぎない。

無線電話も列强には行はれてゐるが、我が國では未だ公衆用には供されない。放送無線電話は殆ど全國に普及し、受信裝置のある家庭では、演說・音樂等の放送電話を、坐ながらにして聽くことが出來る。

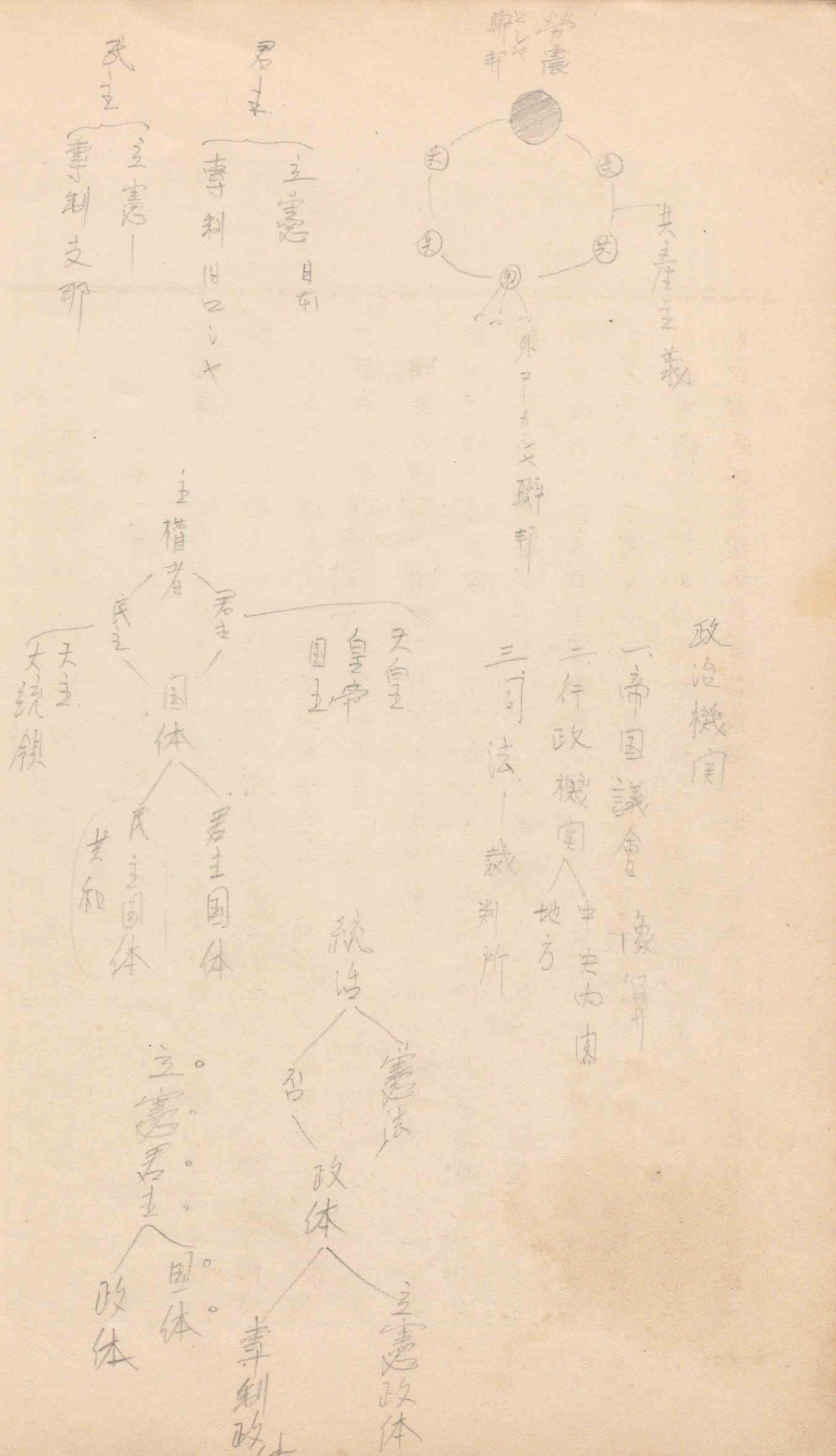
日本・イギリス等は君主國體で米國・フランス等は民主國體である

第五篇　政治地理

第一章　國家の組織

國家　一定の土地と、之に定住する人民及び之を統治する主權とがあつて、政治上の組織を具へ、獨立の實を有するものは、完全な國家である。卽ち土地・人民・主權は、國家成立の三要素で、この要素の實質如何で、國家に大小・强弱の別を生ずる。

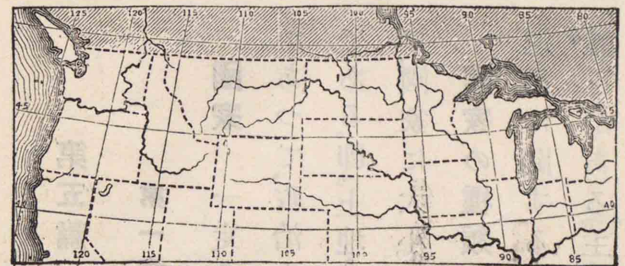
國家の種類　主權の所在による國家の性質を國體といひ、主權の運用に關する國家の體制を政體といふ。國體には君主國體と民主國體とがある。主權が一人の君主にあるものは前者で、國民全體にあるのは後者である。君主國の政體には、憲法を設けて爲政の大本を規定し、之によつて國家を統治する立憲政體と、主權の行使が全く君主の獨裁專斷による專制政體とがある。今や文明の進歩に伴ひ、各國何れも立憲政體を採用し、專制政體は殆どその跡を絶つやうになつた。民主



圖解 經緯線に基いた境界（米國の州界を示したもの
大戰後改造された歐洲の國境は民族分布に基いた處が多い

國では、國民より代表者を選んで之を元首とし、國政を總理させるもので、之を共和政體といふ。

我が國は立憲君主國で、上に萬世一系の皇室を戴き、國體の善美は世界にその類を見ない。



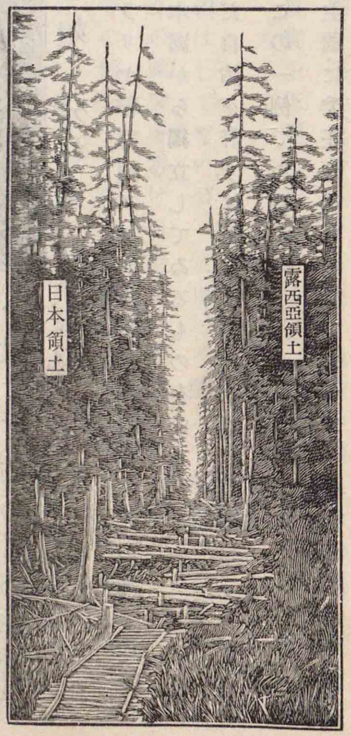
經緯線によれる境界（北米合衆國の州界）

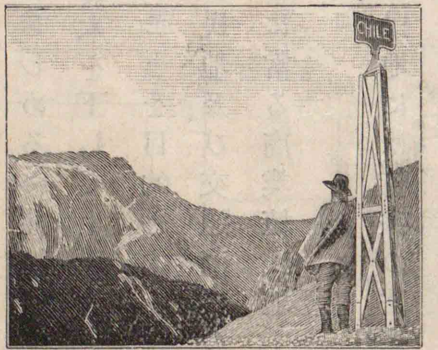
第二章　國家の版圖

國境　國家の領域を限定する境界線で、我が本土の如き四周海を環らす國は、國境は一目瞭然であるが、大陸にあつて、領土の相接してゐる場合には、山脈・河道・湖沼等の如き自然的地形によるか、或は經緯度を境界として、標柱・塹濠・土壘等の人爲的境界を用ひることがある。國境附近には政治上の紛爭が起り易いから、此處に中立地帶を設定して、兩國間の衝突を避けることがある。

圖解 人爲的國境線の標識（右は樺太にある日露境界の林空線で左はチリ・アルゼンチンの境界に建てた金屬製の標柱である
領海範圍の實際適用には例外が甚だ多く學說にも六浬說・大砲の著彈距離說等がある

領海　海に面する國家では、その主權が海岸から砲彈の達する處に及ぶを原則とし、之を領海と呼ぶ。然しこの距離は、砲術の進步につれて變るから、現今は干潮時の海岸三浬以內を領海と看做すのを一般原則としてゐる。領海は領土の延長として、その國の版圖と看做すべきであるから、我が國の如き海國では、版圖の面積は甚だ廣い。

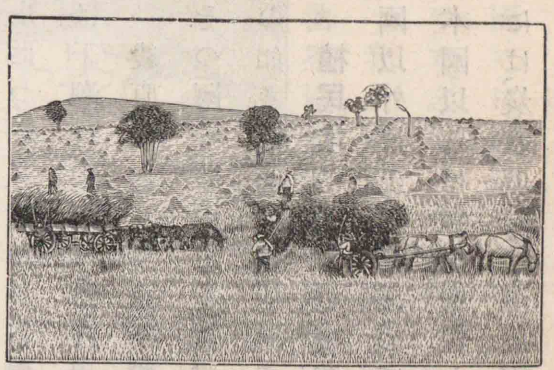




植民地　國力が增進し、國威が盛になれば、本國以外に土地を求めて過剩の勢力を移す。この本國以外の領土を稱して植民地といふ。植民地には、炭水の貯藏・海底電線の中繼等を目的とするものもあるが、最も主

移住植民地　カナダ　濠洲
投資植民地　印度　ジャワ
商業植民地　香港

圖解 移住植民地と投資植民地（上圖はオーストラリヤに於ける農業地帯の光景で下圖は西印度に於けるバナナ採收の光景



要なものは本國の移民を收容せしめる移住植民地、專ら資本を下して生產物を得ることを目的とする投資植民地及び交通・商業の要地に當る商業植民地である。

植民地には、特殊の法律を設けて治めるのが常である。之を類別すると次の如く分れる。

自治領 カナダ・オーストラリヤ聯邦・南アフリカ聯邦等の如く、その地方の文化が著しく發達し、行政上本國から獨立してゐるものをいふ。

直轄地 住民の文化が未だ自治を許すに至らない爲本國で直轄してゐるものをいふ。我が國の臺灣はこの一例である。

保護地 主權の一部を宗主國に委任せるもので、アンナンの如きがそれである。

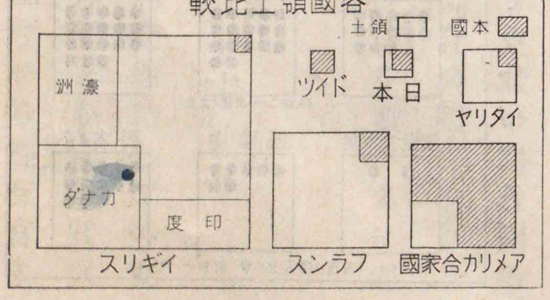
租借地 條約上一定の期間を限り、有償又は無償で他國の領土の一部に統治權を行使するものをいひ、事實上版圖と選ぶ所はない。我が國の關東州に於ける如きが之である。

勢力範圍 未だ確實に占領はしてないが、一定地域を選んで將來の希望を示し、その利權を確定して相互の衝突を避ける場合の範圍をいふ。

委任統治 ドイツ・トルコ等の舊領土で、世界大戰の結果本國から分離したが、土地が狹小であるか、又は住民の文化が低く、未だ獨立に堪へぬものを國際聯盟保護の下に置き、その統治を適宜他の國家に委任したものである。

版圖 世界には大小六十に餘る國家がある。此等の中面積の最も廣いのはソビエト聯邦・北米合衆國・支那及びブラジル等で、植民地の廣いのはイギリスを第一とし、フランスが之に次ぐ。ドイツも廣大な植民地を持つてゐたが、大戰の結果悉く之を失つた。版圖の大小は、その國の勢力と密接の關係はあるが、富强は必ずしもそれに比例するとは限

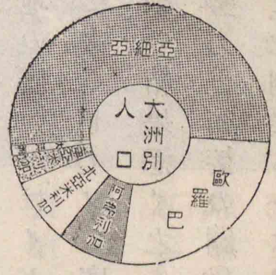
各國領土比較

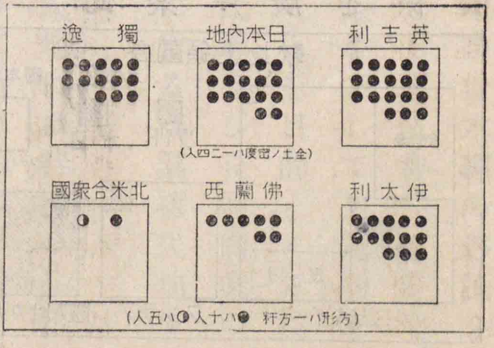


らない。支那は面積は廣いが、國內の統一を缺き、ブラジルは未開の部分が多く、國勢は未だ盛でない。

圖說 海外にある邦人（ブラジルのサンパウロ州に於ける邦人活動の一例

人口 國民の多少も亦國家の勢力と密接な關係はあるが、數よりも質、特に國民的團結力の如何が大切である。世界の住民は十八億と稱せられ、その分布は各國の地勢・氣候及び産業・文化等の狀態によつて著しく異なつてゐる。氣候が温和で交通の便利な平野は稠密で、山地・寒地・乾燥地・陰濕地等は概して稀薄である。又農牧地方に於ける分布は普遍的で、商工地方にあつては密集的である。我が國は人口が多く、





密度の大きいことは世界有數であつて、海外にある內地人も約六十四萬人に達してゐる。

國力 國家の勢力は、版圖の大小や人口の多少のみによつて直に決し得るものではない。國富が大で財政の基礎が固く、國防が充實して他國の脅威を受けず、文化がよく開けて眞に獨立の實を保つに足るものにして、始めて強國といはれるのである。今日多數の獨立國中、強國の名を博してゐるのは僅にイギリス・アメリカ合衆國・日本・フランス・イタリヤの五大雄邦の外、ソビエト聯邦・ドイツ等を數へるに過ぎない。

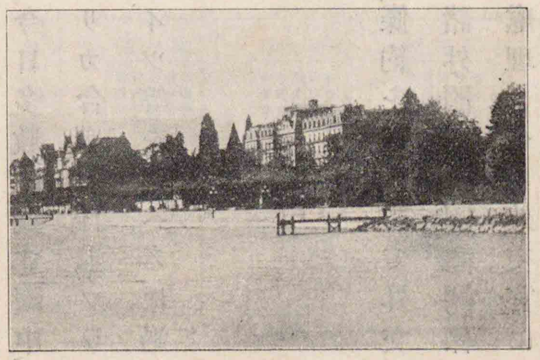
第三章　國際關係

國家の交際 文明諸國は、概ね和親通商の爲に、條約を締結して外交官を交換し、相互の交涉事件を解決し、駐劄國と諸外國との國際關係に留意し、在留國民を保護する等の外交事務を處理させる。外交官に

我が條約國は四十に餘りその中滿洲國・トルコ・イギリス・フランス・ドイツ・イタリヤ・ベルギー・ソビエト聯邦・アメリカ合衆國・ブラジルとは大使を交換してゐる

は大使と公使とがある、何れも外國に在つて本國を代表し、兩者の區別は單に名譽上の差に過ぎない。領事官(總領事・領事・領事等)は、本國政府の命を受け、外國の重要地に駐在して在留國民を保護し、通商上の便宜を圖り、或は在留國民又は本國船舶乘員間の紛議を仲裁し、若くは身分・船籍その他各種の證明を與へ、且通商に關する事項を調査報告する等の任務に當つてゐる。

國際聯盟 大戰後世界紛擾の禍根を除き、平和の確保を期せんが爲に生れたもので、大小五十餘の邦國が之に加盟してゐる。我が國もイギリス・フランス・イタリヤ・ドイツ等の諸國と共に、之に加つて重要の地位を占めてゐたが、滿洲國に對する意見の相違から、脱退の止むなきに至り、ドイツも亦最近に脱退を宣言する等、大いに聯盟の威力を減ずるに至つた。



圖解 ジュネーブにある國際聯盟事務局(前の湖水はジュネーブ湖

結論

我が國はアジヤ洲の東端、太平洋の西北に位する帝國で、その自然の位置、氣候・地形等の地理的狀態に於いては、列國に比して毫も遜色を見ない。國民が愛國心に富み、國民的團結が强固で、進取の氣象に充ちてゐることは、他國の追隨を許さない所である。明治維新後、國勢が頓に進み、殊に日清・日露の二大戰役を經て、國威が宇内に揚り、國光は内外に輝き、一躍して世界强國の列に加り、東洋の盟主として平和確保の大任を帶び、近くは世界大戰に參加して、遂に三大强國の名譽を擔ふに至つた。

さりながら、飜つて我が國產業の狀態、交通・運輸の現狀を見ると、遺憾な點がないとはいへない。外國貿易の如きも、戰後著しい發展を遂げたが、入超の大なるに苦しみ、國防の充實・教育の普及・國富の增進等に於いても、他の列强に比して徑庭なしとは斷じ得ない。

今や世界を通じて、陸に海に將又空中に、交通の機關はよく備り、太平洋上の往來が漸く頻繁となり、東洋各地の商工業は大いに發展せんとするに當り、我が國は自然の位置によつて、その交通の要衝を占め、貨物集散の一大中心たるべき使命を有する我等國民は、須らく農業の改良を圖り、工業の振興を奬め、商業の發達を促し、運輸交通の事業を盛大にし、以て大いに富國の實を擧げ、世界强國の名を完うするの覺悟がなければならない。

最近産業地理通説　新訂版　終

大正十四年二月十七日印刷
大正十四年二月二十日發行
大正十四年十二月廿四日修正再版印刷
大正十四年十二月廿七日修正再版發行
昭和二年十二月一日修正三版印刷
昭和二年十二月四日修正三版發行
昭和四年十二月十四日修正四版印刷
昭和四年十二月十七日修正四版發行
昭和八年二月一日修正五版印刷
昭和八年二月五日修正五版發行
昭和八年十二月廿日修正六版印刷
昭和八年十二月廿五日修正六版發行

最近産業地理通説（新訂版）
定價金九十錢

不許複製

編纂者　三省堂編輯所

發行兼印刷者　東京市神田區神保町一丁目一番地
株式會社三省堂
代表者　龜井寅雄

印刷所　東京市蒲田區出雲町一〇一番地
株式會社三省堂蒲田工場

發行所　株式會社三省堂（東京市神田區神保町一ノ一　振替口座東京三一五五五）
株式會社三省堂大阪支店（大阪市西區阿波座下通二ノ六　振替口座大阪八一三〇〇）

山陽商業學校
山陽商業學校
長谷川健吾

広島大学図書
2000043498